

公立大学法人

静岡文化芸術大学

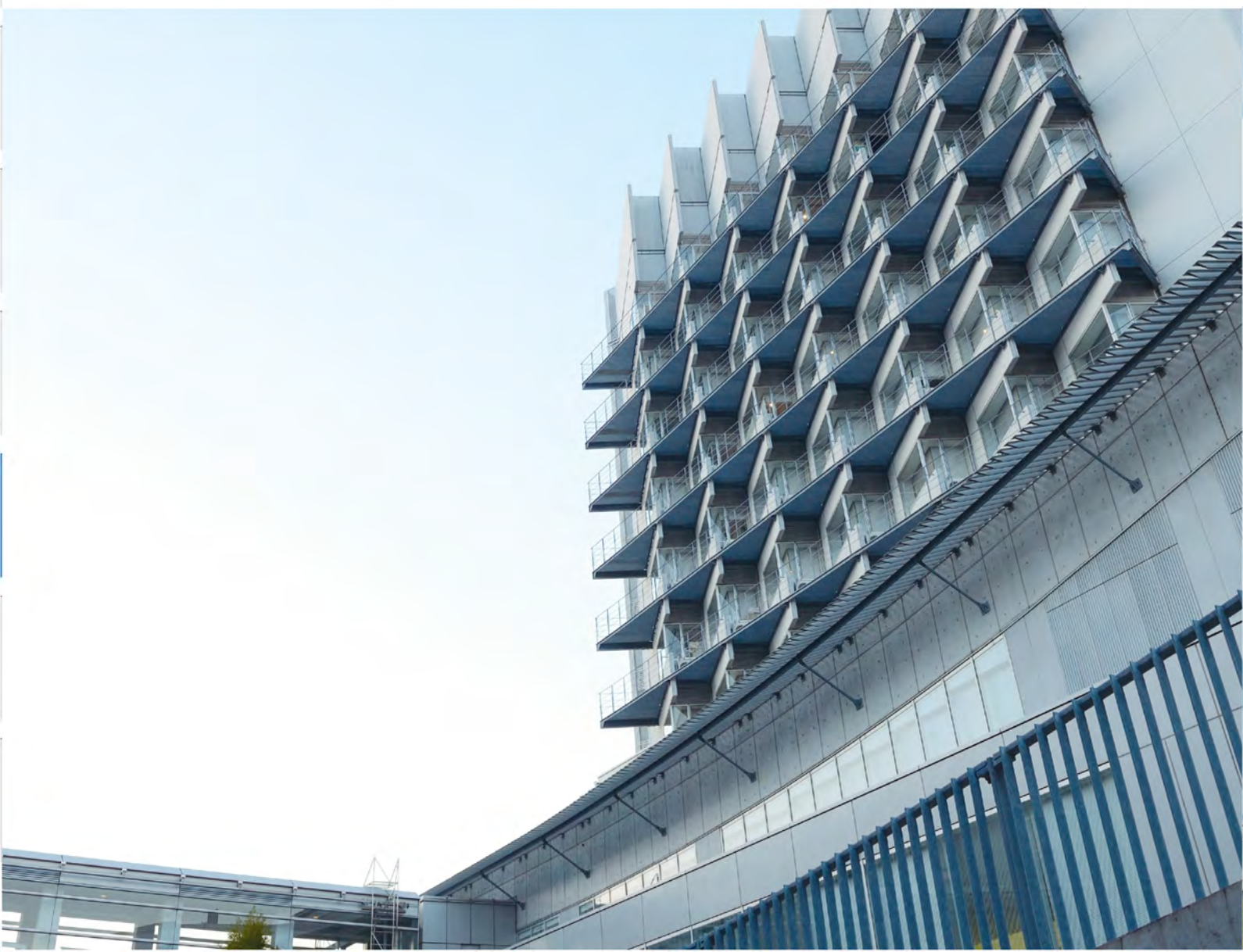
文化政策学部・デザイン学部

2015 大学案内

出 会 う
感 じ る
創 造 す る

SUAC 2015

巻頭特集	004	未来を拓く 社会で活躍する卒業生
SUACの教育	011 013	学長メッセージ 学びの特色
SUAC QUALITY	015 017 018 020	新カリキュラム始動 視野を広げる学びの環境 特徴的な教育・研究活動 学びのフィールド
文化政策学部	021 023 025 031 037 043	文化政策学部 カリキュラム一覧 国際文化学科 文化政策学科 芸術文化学科 文化政策学部教員紹介
デザイン学部	045 061 063	デザイン学部 デザイン学科 カリキュラム一覧 デザイン学部教員紹介
大学院	065 066	文化政策研究科 デザイン研究科
キャリア形成	067 070	就職支援 取得可能な資格
国際交流／支援制度	071 074	国際交流 学費・学生支援制度
キャンパスガイド	077 080 081 085 086	キャンパス案内 ユニバーサルデザイン 工房・特殊機器の紹介 図書館・情報センター 文化・芸術研究センター
キャンパスライフ	087 089 091 093 095 096	キャンパススケジュール キャンパスレポート 学生の活動紹介 大学周辺マップ クラブ&サークル 在校生データ
インフォメーション	097 098 099	入試情報 オープンキャンパス アクセス・お問い合わせ



実務型の人材を養成する大学

豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、国際社会の
様々な分野で活躍できる人材を養成する。

社会に貢献する大学

地域、国際、世代が教育研究の場で幅広く融合する
「開かれた大学」として地域社会や国際社会の発展に貢献する。

未来を拓く

社会で活躍する卒業生

SUAC で過ごした日々の向こうに、

先輩たちがたぐりよせた未来。

大学時代に自分自身のやりたいことをしっかりと見つめ、

積極的に学んだことが、知識となり、自信となり、

明日を築くチカラとなります。

社会で活躍している先輩からのメッセージには、

無限の可能性を秘め、これから未来を

拓こうとする人に贈る、あたたかなエールが

こめられています。



P. 005

浜松市立江南中学校
教諭
文化政策学部 国際文化学科卒業
宗 龍二さん



P. 006

磐田信用金庫
業務部 AST
(エリア・ソリューション・チーム)
本店営業部担当 アドバイザー
文化政策学部 文化政策学科卒業
山田早織さん



P. 007

松本市役所
教育部 中央図書館
文化政策学部 芸術文化学科卒業
窪田健司さん



P. 008

ローランド ディー・ジー株式会社
R&D本部 開発業務管理部
デザイン課 主任
デザイン学部 (現)生産造形学科卒業
小谷内康雄さん



P. 009

キャノン株式会社
総合デザインセンター
デザイン学部 (現)メディア造形学科卒業
坂本 茜さん



P. 010

三井デザインテック株式会社
ソリューション推進部
デザインマネジメント室
デザイン学部 (現)空間造形学科卒業
春日珠美さん

ひとり一人の生徒に しっかりと向き合う

中学校英語教諭として3年目となりました。生徒たちの成長を見つめ続けてきた3年間。ささいなことであっても彼らの変化を感じられる生活。苦労もあるけれどそれを上回る喜びがある仕事。人に感謝されること、人と人が互いの関わり合いの中で変化し、また、成長していくこと。このようなことに関われる仕事がしたいと思い、教師を志しました。SUACは教員免許も取れるために入学しました。SUACに入学し、福祉施設のお手伝いや、小学生の学習支援、視覚障害者柔道などのボランティアなどに参加する機会を得て、教師を志す気持ちがより強くなりました。国際文化学科の講義は、様々な文化について広く学び、ものごとを多角的に考えることを教えてくれました。これは今の仕事に非常に役立っています。生徒はひとり一人違います。国籍、

家族構成、家庭環境といった違い、そして、それらが違えば考え方も異なります。様々な違いをもった人たちを尊重し、理解し合うことの大切さ。それを実行するために必要なコミュニケーション力。全てが人間力の向上につながったと思っています。生徒理解を深めるためにも、できるだけ生徒という時間を持ち、話しかけることだけでなく、相手の表情、仕草、雰囲気から生徒の微妙な変化を掴むように心がけています。

様々な挑戦をすること そこから拓ける自分の未来

高校時代にアメリカへの留学を経験し、大学では、英語のディプロマコースを受講。使用言語が英語だけという環境で、プレゼンテーションやディスカッションを通して、英語で自らの考えを表現する力がさらにつきました。英語はあくまで道具。生徒たちにも、英語を使うことで



はなく、英語で何を伝えるかが大事だと指導しています。大学では柔道部に所属し、ボランティア活動も積極的に行っていました。障害者柔道大会のボランティアでは、彼らは自立したアスリートなのに、助けてあげると意識でいた自分の思い上がりを恥じることになり、人として大切なことを学ばせてもらいました。様々な体験をすることで視野も広がり人間としても大きく成長していける大学時代、SUACは、授業以外にもたくさん学びのチャンスがあります。少人数で授業が行われるため教授との関係が密接で、自分の興味にあわせた「機会」を用意してくれることも多く、挑戦のしがいがあります。その時は自分に関係ないと思っていたことも、いつか役立つかもしれない。そこに、出会いがあり、学びがあり、成長がある。あらゆることから貪欲に学ぶことが自分の未来をつくっていくはずです。

浜松市立江南中学校 教諭

宗 龍二さん

文化政策学部 国際文化学科
2011年卒業



多くの学びの中から自分に 適したものを選んでいく

大学進学時に学びたいことをひとつに絞りきれず、範囲を広く学べる文化政策学科を志望しました。社会や、経済、法律、地元の産業など、思った以上に多岐に渡って学ぶことができ、その中から自分にあった将来を考えていくことができます。自分の性格は、きっちりと答えを出していくことに向いていると気づき、金融関係の仕事を志すようになりました。自分の生まれ育った地域の発展を支えている身近な金融機関だということに魅力を感じ、磐田信用金庫へ就職。就職活動では、イメージだけで絞らずに、自分の目で企業を見ることが大事だと感じました。実際に会社見学をしたり、お話を直接伺ったりすることで、自分に適した企業を見つけられます。大学の就職室のスタッフは親身になって相談にのってくれました。簿記や秘書検定などの資格取得ができたことも今の仕事にとっても役立っています。

変化し続ける金融環境のなかで チャレンジし続ける充実感

大学では、多くの視点を持って社会を見つめることの大切さも学びました。3年次には社会学を専門とするゼミを履修し、一方で経済学を専門とする先生のアドバイスを受けることもできたので、異なった視点から自身の研究テーマであった男女共同参画について深く掘り下げていくことができました。少人数教育のため、意見発表や討論などの機会も多く、実践的なコミュニケーション力も身につきます。入庫後5年間、融資を担当していましたが、現在は新設されたASTで、投資信託や保険など個人のお客様の資金運用をサポートしています。新しい部署では金融商品の知識など覚えることも多く苦労もありますが、自分の成長のためにも、そろそろ新しいことにチャレンジしたいと思っていたため、高いモチベーションを持って臨んでいます。信頼して話を聞いていただくために笑顔と挨拶をかかさず、まずは聞き役となってお客様と良い関係を築くことから始めています。金融機関を取り巻く環境がめまぐるしく変化しているため、貪欲に新しい知識を取り入れ、お客様から信頼を得てサポートできるようなアドバイザーを目指していきます。

磐田信用金庫
業務部 AST(エリア・ソリューション・チーム)
本店営業部担当 アドバイザー

山田早織さん

文化政策学部 文化政策学科
2008年卒業



まちの発展を支える金融機関で
お客様の信頼に応えていく

文化や芸術にずっと 関わっていける仕事を

松本市は、「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」が開催されるなど、本物の芸術文化にふれる機会の多いまちです。私自身も、まつもと市民芸術館で演劇に出会い、豊かな身体表現に魅了されたのが、芸術に関わることを学びたいと思ったきっかけ。大学で室内楽演奏会の運営に取り組みプロの演奏家と仕事をした経験が印象深く、芸術に関連のある仕事に就きたいと強く思うようになりました。公務員になれば多くの文化事業に携われるのだと気づき、自分の生まれ育った街である松本市の市役所に就職。現在は中央図書館に勤務しています。大学で司書の資格を取得しており、司書として貸出し返却のカウンター業務の他、市内の全11図書館の資料発注等の管理業務も行っています。司書の資格取得を目指したのは、本や図書館

が好きだから。子どもの頃、近所の図書館で開催された「おはなし会」で、読んでもらった本のことが強烈に印象に残っています。今、本を読む側の仕事に就いていることが感慨深く、本を好きな子どもたちが増えてくれることを願っています。

好きなことを追求しながら 社会を見る目を養う学び

卒論のテーマは「仮面ライダーの境界性」。一見、学問的ではないテーマですが、物語やキャラクター造形などから社会的な意味を見いだし研究。自分の好きなことを研究対象として学べるのが面白く、社会との関わりの中で物事を捉える視点を養うことができました。少人数教育のため指導教員から丁寧な指導を受けて、論文を作成。授業ではチームでプレゼンテーションする機会も多く、コミュニケーション力も鍛えられました。人とう関係



結んでいくのかを学べたことは、市職員として多くの市民とふれあう時に役立っています。今後、様々な部署に配属されると思いますが、どんな部署の業務でも松本市の市民生活と文化を守り育てていく仕事。文化を支える仕事に携わることに誇りとやりがいを感じて取り組み、松本から新しい文化を広く発信していきたいと思っています。

松本市役所 教育部 中央図書館

窪田健司さん

文化政策学部 芸術文化学科
2011年卒業



見て、さわって、体験した ことが、自分の糧になる

高校生の時、購入した MDプレイヤーの無駄のないシンプルな造形を美しいと感じたのが、「デザイン」というものを意識した最初でした。モノを作る仕事にあこがれ、工業デザイナーを目指して SUAC に入学。特に工房施設は充実していて、使わなくてはもったいない。ガラス、金属、陶芸、木工など多様な素材を扱う科目があり、実際に加工して素材の特性に触れたことは、デザイナーとして仕事をしていく上でとても有益です。製造工程やコストを考える時にもこの経験がヒントになっています。大学では映像機器に興味を持って学び、卒業制作は「地下道を明るくするためのインスタレーション」。ミニチュア模型ではなく実働する装置をつくるように指導され、実寸でトンネルをつくってプレゼンテーションを行いました。この経験から、現在も、できるだけ実寸でものを考えることや、試作機ができたらとこっそり触って機能検証をしてみることにこだわり、ものづくりをすすめています。

現場を知り、ユーザの立場に 立ってモノをつくる

業務用プリンターや 3D 成型機など、コンピュータ周辺機器に関わるデザインを担当しています。今、世の中にない新しいものをデザインしていくことが目標。デザインを考えるというのは、機能を考えるということでもあり、機能がともなわないデザインは単なる飾りにすぎません。製品開発の領域にも関わりながら、次はどんな機能を持つものをつくらうかと常にアイデアを練り、他部署と連携してデザインにつなげていきます。その時、大事なのはユーザの視点。在学中、福祉機器デザインの授業で老人ホームに行った時、自分が想像しているのと現実が全然違うことに驚き、現場を見ることの大切さを痛感。会社の都合やデザイナーのエゴだけでものをつくってはいけないと、肝に銘じています。製品の外装デザインだけでなく、製品を動かすソフトウェアアプリケーションの操作性を高めるための操作画面のグラフィック的な設計までトータルでまかせてもらえ、大きなやりがいを感じています。仕事の幅が広がると、自分自身も成長します。これからは、デザイナーとして会社のブランディング強化にも力を注いでいきたい。個々の製品にとどまらず、会社のアイデンティティをデザインできるようなデザイナーへ、ステップアップし続けていきます。

今までにないアイデアを
カタチにする楽しさ
デザイナーの立場から
会社のブランディングを担っていきたい



ローランド ディー・ジー 株式会社
R&D本部 開発業務管理部 デザイン課 主任

小谷内康雄さん

デザイン学部 (現) 生産造形学科
2007年卒業

Design



未来を拓く 社会で活躍する卒業生

キャノンらしい
デザインとは？
常に問いかけながら
デザインに向かい合う日々



キャノン株式会社
総合デザインセンター

坂本 茜さん

デザイン学部（現）メディア造形学科
2012年卒業

美しくわかりやすく インターフェースをデザインする

キャノンの総合デザインセンターで、オフィス向け複写機のユーザーインターフェース（UI）デザイナーとして勤務しています。UIとは、機械とユーザー間での情報のやりとりの操作性を意味します。それを分かりやすく効率的に、そして美しく伝えるのが、私たちUIデザイナーの仕事です。複写機の液晶画面など、その操作性を考えて画面の構成や動きをデザインしていきます。デザインをする上で、どのような人がどんな目的で、どんなシーンで使うのかユーザーの立場に常に立つよう心掛けています。

また、UIのデザインはまだ新しいデザイン領域のため、大学で専門的に学んできたというデザイナーは少ないかと思います。そのため、様々な専門分野のデザインを学んできたデザイナーが集まっているのがヒューマンインターフェースデザイン部の特長です。それぞれの視点からの発想がうまく融合してよりよい製品づくりに活かされています。私自身も映像を学んできたことが、強みになっていると感じています。



デザインを広く学ぶことで やりたいことへ導かれていく

SUACのデザイン学部は幅広いデザインを学べるカリキュラムが魅力的でした。学部共通科目としてデッサン、グラフィックや素材加工など、様々な分野のデザインにふれ、豊富な設備の工房を使うことで、本当に自分のやりたい分野を見つけることができます。また、少人数で行われる授業が多く、質の高い教育環境が用意されていました。大学では映像デザインに興味を持ち、手描きのアニメーションを制作していました。絵画のように止まった画ではなく、時間の流れを意識してコマとコマをつなげながら物語を組み立てていくスキルはUI画面の構成をつくりあげる仕事に役立っていると感じています。まだまだ学ぶことばかりですが、これから先輩たちとともに「キャノンらしいデザイン」とは何か模索していきたいです。これからも、世界に影響を与える製品をキャノンから発信していくために、常に新しい発想を生み出せるよう努力していきます。



お客様から信頼される
パートナーとなり
人が集まる快適な空間を
デザインしていく

ものごとを多角的に捉える ことの大切さを学ぶ

大学のゼミでは、ランドスケープといった規模の大きな建築を専攻。指導教員から関係性を考えることの大切さを説かれ、どんな人が、いつどんな場合に、どのように使うかという利用者と建築の関係性から、レイアウトや空間のイメージ、内装などを考えていくように指導されました。このことから、ものごとを多角的に捉えることを学び、現在の仕事にも大きく役立っています。また、専門以外のデザイン分野についても学ぶ SUAC では視野を広げることができ、多岐に渡って学んだことは自身の強みにもなります。

充実した時間を過ごしていましたが、就職活動を控えた時、ふと自分の本当にやりたいことは何だろうと疑問を感じ、大学院でもう少し学んでみることを選びました。研究と経験を重ねるうちに、もっと人に近い部分の設計

をしたいと思うようになり、インテリアの設計を志望することになりました。少人数教育なので教授との距離が近く、話し合ううちに自分の進路が明確になっていきます。さまざまな出会いを重ね、広い視野で学んだことから、自分の将来を見据えることができました。

お客様の求める 快適な空間を実現

教授の助言もあり、インテリア設計の企業へ就職。私が勤めるソリューション推進部は、主にホテル・オフィス・医療施設・店舗などの内装等、快適な空間をデザインする部署です。プロジェクトリーダーの指導のもと、コンセプトワーク、デザイン、マテリアル選択、図面作成、プレゼン等を行っています。慣れないうちは仕事の段取りに意識が向いていましたが、今ではお客様の要望を叶えるためにはどうすべきかを考え、提案できるようになり

ました。仕事を進める上で心がけているのは、相手を思って行動するというシンプルなこと。そのためにも、お客様が何を求めているのか本質を見極めることが大事、丁寧なヒアリングが欠かせません。そうして仕上げたデザインを気に入ってくださればうれしく、意見を求められれば信頼されていることを実感でき、大きなやりがいを感じます。これからも数多くのデザイン経験を積んで、お客様を笑顔にできる空間づくりをするための実力をつけていきたいと思っています。

三井デザインテック株式会社
ソリューション推進部 デザインマネジメント室

春日珠美さん

デザイン学部（現）空間造形学科 2010年卒業



Design

文化の力 デザインの力

豊かな生活をつくり出す力は、文化の力、デザインの力です。科学技術も人間の生活を豊かにする要因ですが、それを人類の幸せに結びつける力は文化にあります。また、政治や経済などのいろいろな要素を美しく織りなして生活にいかすのがデザインの力です。

静岡文化芸術大学は、文化とデザインの二本の柱のもとに、より暮らしやすい、心にも身体にも優しい社会と時代をめざす人びとが学ぶ大学です。

静岡文化芸術大学は、さらに今、大きく変わります。グローバル化する現代にふさわしい国際性と、豊かな教養と専門性を身につけ、自らの可能性を学びながら探すことのできる大学へと、進化しようとしています。

静岡文化芸術大学 学長

熊倉 功夫 KUMAKURA Isao



知 性 × 感 性

知性と感性を磨き、「文化力」・「デザイン力」のある人材を育てます。

豊かな人間性と的確な時代認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材を養成するために、
教養教育と専門教育が調和したカリキュラムを通して、知性と感性を磨き、
新しい価値や文化を創造する力を育てていきます。

学びの特色

2学部交流

文化とデザインの融合を目指し、それぞれの視点を理解することで新しい価値を生み出していきます。実践演習(P.16)の他、課外においてもギャラリーや工房などで企画展を実施し、そのスタッフとして両学部の教員や学生が関わり、同じ目的のために共に学ぶ貴重な機会も得られています。

少人数教育

語学や情報処理など、多くの科目で少人数のクラス編成による教員と学生の対話、コミュニケーションを重視した環境を用意しています。一人ひとりの学生を尊重し、個々の自由な発想を導き出す、きめ細やかな指導を行っています。

導入教育

本学では、大学への学びの導入として、「文化芸術体験演習」と「学芸の基礎」を1年次に設置しています。「文化芸術体験演習」では、茶道や俳句、狂言、写真などの体験を通して文化や芸術を学ぶことにより、感性を磨きます。「学芸の基礎」では、読む、書く、調べるを中心に大学で学ぶ上での学習の基礎を習得します。

社会から求められる実践的な語学・情報処理

情報化・国際化が進む社会では、語学や情報処理の能力が求められます。最新の設備を整え、ネイティブスピーカーや専任教員によるLLやコンピュータを使用した実践的な語学・情報処理教育を行っています。さらに、英語・中国語教育センターを設置して一層の語学教育の充実を図っています。

野学(フィールドワーク)の重視

多彩な産業を擁する静岡県という地域特性を活かし、企業や公共機関での実習を積極的に取り入れています。さまざまな環境における人との出会いが、学内だけでは得られない貴重な経験を生み出しています。

柔軟な学習領域の選択

2学部共通の科目が多く設けられていることに加え、他学部・他学科の授業科目でも履修することができます。指定の他大学や海外研修先での取得単位も本学での単位として認める単位交換も実施しています。

免許・資格の取得支援

それぞれの学科のカリキュラムにより、教員、学芸員、図書館司書、建築士、日本語教員などの免許・資格取得につながる科目を設定。就職室主催の公務員試験講座等さまざまな就職支援講座も設けられ、免許・資格の取得を支援し、学生の将来をサポートしています。

地域との連携

地域に根ざした開かれた大学として、施設開放をはじめ、企業や地域社会との交流も積極的に行っています。自治体やNPO、地域企業との連携や産官学共同研究の実施、地域イベント等への参加を通じ、学生たちの広い視野を養っていきます。



2015年4月

新カリキュラム始動

目指しているのは、豊かな人間性と的確な時代認識・社会認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材の養成です。それには、専門的な学びによって知識を高めるだけでなく、幅広い教養と視野を身につけ、一人の人間として、社会に貢献できる人材となるための感性を磨く必要があります。

SUACは、変化の激しい社会の要請に応えるためカリキュラムを進化させていきます。

教養教育の強化

これからの社会の課題解決に取り組んでいくために、本学では、教養教育を強化し、より幅広く物事を捉えることのできる視野の広さを身につけていきます。現代の最先端へとつながる知見を得るために、先人たちが積み上げてきた、それぞれの学問分野の視点や世界観である方法論を学び、さらに、他の学問分野との比較対照、最先端の研究事例、担当教員の研究事例などを含めて教授することで実社会とのつながりを踏まえ、学問の面白さと意義を伝える生き生きとした授業を展開していきます。伝統的な学問分野である<人文科学>、<社会科学>、<自然科学>に、文化政策とデザインという特色ある2つの学部からなる本学の特性を踏まえて<芸術・デザイン>の分野を加えた構成にすることにより、幅広くかつ特色ある教養教育を実現します。



導入教育の充実

本学で学ぶための導入教育として位置づけ、本学ならではの体験科目と、その後の専門教育につながるリテラシー科目を必修科目として用意しています。

文化芸術体験演習

初年次から本格的な芸術・文化の体験によって感性を磨いていきます。日本の伝統文化や芸能などの体験を少人数編成の演習形式で行い、知性だけでなく感性を磨き、学びの基礎を身につけます。



学芸の基礎

大学生としての学びの基礎となる基本的なリテラシー(読み、書き、情報を活用する力)を身につけます。文献等の読み方や情報検索、レポート・論文作成の基礎知識、口頭発表の技法などを学び、大学での円滑な学びを促進し、社会でも役立つスキルを磨いていくための基礎を固めます。所属学科の教員による指導であるため、今後の専門的学びへとスムーズに連結していきます。



実践的な教育の強化

社会で役立つ力を身につけ、卒業後の進路開拓にもつながる実践的なカリキュラムであるために、さまざまなプロジェクトに学びの一環として取り組める環境を整備していきます。

実践演習

実社会の課題を見つけ、解決する力を身につけるために、実践を通してその方法を学んでいく選択必修科目です。学生が主体となって課題発見から対応策の企画立案、実践まで、学科を越えてチームを組んで挑みます。異なる専門分野を学ぶ学生と一緒に活動することでさまざまなアプローチのあり方を知り、柔軟な思考と対応力を身につけていきます。教員が取り組む研究活動に参加する、プロジェクトを起こしてイベント開催やボランティア活動に参加するなど実践の内容は学生の発想によって形づくられます。

地域連携実践演習

地域連携型の演習で、地元自治体や商工団体と連携したイベント開催や外国人児童・生徒の学習支援等を行います。

テーマリサーチプロジェクト

2学部の専任教員が指導にあたり、教室でのグループによる演習方式で実践的な企画・立案やプレゼンテーションの技法を中心に学びます。

テーマ実践演習

多文化共生、ユニバーサルデザイン、芸術文化等の広範な領域において、学内外で行われる学生プロジェクトやイベント等をテーマとしてとりあげます。これまで課外活動として活発に行われてきた音楽イベントの実施やデザインイベント等への出展、海外でのNPO・NGO活動などをこれに位置づけ、一層の教育効果向上を目指します。



特別公開講座「薪能」



東京デザイナーズウィーク出展



パン!パン!ケンパンはまつ2013

専門教育の改編・充実

学部・学科での専門科目群の改編・充実

新カリキュラムでは学部・学科での専門科目群も改編し、学部内で柔軟に幅広い科目を学べるようにして、厚みのある教養教育のうえに各自の専門を追究していけるよう整備しています。

デザイン学部の学科再編

デザイン学部はより広い視野でデザインの世界を理解し、そのうえで専門性を磨いていけるようカリキュラムを再編成。3学科体制から1学科の「デザイン学科」へと生まれ変わります。

大学院でのさらなる成長

本学は、文化政策研究科、デザイン研究科を設置しています。学部での学びをさらに深化させるために本学大学院へと進学し連続性のある学びによって専門性に磨きをかけることができます。

英語・中国語など外国語教育の強化

国際社会で力を発揮していくためには、実践的な語学能力と幅広い文化的知識と教養を身につけることが求められます。本学では、2013年に始動した英語・中国語教育センターと連携し、英語・中国語を語学教育の中心に据えて強化していきます。また、その他の外国語について履修システムを改善します。



SUAC QUALITY 2

視野を広げる学びの環境

デザイン学部が3学科から1学科5領域に

物事が複雑に絡みあう現代社会の中でデザインが果たす役割は年々広がりを見せています。これからの文化・人間社会の創造にデザインの視点から取り組んでいける人材を育成するために、デザイン学部は3学科から1学科・5領域へと編成を変え、「デザイン学科」に変わります。デザイン学科では、1年次から2年次前期には基礎知識や技法を学び、デザイン世界の様相を理解したうえで、5つの専門領域から専攻する分野を選択し、演習を通して専門的な技能や知識を習得、4年次後期には集大成となる卒業研究・制作に取り組みます。



英語・中国語教育センター

英語及び中国語教育の充実・強化を図ることを目的とし、平成25年4月に英語・中国語教育センターを設置しました。国際社会で活躍するためには「実践的な英語力・中国語力」「幅広い文化的知識と教養」を身につけておくことが求められます。このため、センターは、現在、3人の英語特任講師と1人の中国語特任講師が常駐し、英語・中国語教育の拠点として、授業以外にも各種イベントやプログラムを提供するなど、英語・中国語教育の充実・強化に向けた取り組みを行っています。

センター活動

●●● 教育効果の測定

英語力の伸長をTOEICテストにより測定。また、自主学習を促進する学習教材や、学生のニーズに応じた各種イベント、プログラム、研修を提供しています。

●●● e-ラーニングの充実(学外でも利用可能)

●●● 教員による「学習支援」
(例:TOEIC対策、英会話、中国語検定試験対策 等)

●●● 各種イベント

「インターナショナル・コミュニティ・フォーラム(浜松在住の外国人によるトーク)」、「英語セミナー(英語で異文化や日本について学ぶ、映画・音楽・ゲームを通して英語を学ぶ)」、「公開フォーラム(ゲストによる中国文化、中国ビジネス等の講演) 等

●●● 夏期英語集中プログラム

●●● 夏期語学研修(英国・中国、留学(英国、米国・中国)



地域との連携

本学では教員や学生が自治体、商工団体、企業、NPOなど地域の組織や団体と連携し、地域のさまざまなフィールドで実践的な活動を行っています。この活動に参加することによって、地域の特質や地域課題について理解を深め、地域のネットワークの中に身を置いて現実社会と関わりながら学ぶことの重要性を体験することができます。また、2014年4月に地域連携室を設置し教員や学生の取り組みへの支援を強化していきます。

SUAC QUALITY 3

特徴的な教育・研究活動

多文化共生

さまざまな国籍、多様な民族の人々がお互いの文化の違いを認め合い、対等な関係をめざしていくことが多文化共生の理念。SUACではこの分野を専門とする教授陣が研究・学生教育・地域貢献をすすめています。研究面では、文化人類学的視点、社会学的視点、文化受容の視点、言語教育的視点など、複眼的に多文化共生に関する研究を行っています。〔研究〕

教育面では、講義で学ぶだけでなく、実際に外国籍の児童・生徒の学習支援事業など実践的な活動も行い、多文化共生社会の実現をめざしています。また、日本語教員養成課程を設置し、地域や企業の中で異なる文化的背景を持つ人同士が共存する手助けができる人材を育成しています。〔教育〕

地域貢献面では、地域社会と連携し、行政・教育分野の政策立案などを通して、地域に貢献しています。これらの活動では学生がボランティアとして、時には中心的な立場で運営に参加しています。〔地域〕外国籍の人々が多く暮らす浜松は多文化共生を学ぶ有意義な場なのです。



■〔教育〕実践授業／中国や韓国の留学生を対象に日本語コミュニケーションの授業をしているところです。実践力のある日本語教師を育て、社会に送り出すことをめざします。



■〔教育(海外)〕アイルラング大学サマーコース／日本語を学ぶインドネシアの大学生たちを前に、インドネシア語で日本のことを紹介。若い世代の共感が生れます。



■〔研究(国内)〕特別研究シンポジウム／2年間にわたる交流支援と学習支援の活動成果と課題を振り返り、より良い多文化共生社会の実現をめざします。



■〔地域〕ポンチ(橋)プロジェクト／身体を使ったコミュニケーションを通して、文化を越えてさまざまな人たちがつながってゆく社会をめざします。

ユニバーサルデザイン

年齢、性別、身体能力、言語など人々が持つ様々な特性や違いを越えて、すべての人が利用しやすいものづくり、まちづくりや社会づくりを行うこと。SUACでは、これからの社会に欠くことのできないこのユニバーサルデザインの基礎概念を、文化政策・デザインの両学部で学ぶことができます。デザイン学部では課題制作などを通じてさらに深く理解するための科目も用意されています。

また、県や市、地域団体との連携のもと、ユニバーサルデザインの実践・普及にも積極的に取り組み、国内外から専門家を招聘しての国際シンポジウムやセミナーなども数多く開催しています。

大学施設にもユニバーサルデザインが各所に取り入れられており、実際に利用し、体感することでさまざまなことを吸収できます。身体が不自由な方々のための自助具デザインプロジェクトやユニバーサルデザイン関連コンペへの参加・受賞など、学生たちの自主的な活動も盛んです。



■自助具デザインプロジェクト(JDP)



■国際シンポジウムの開催



■ユニバーサルデザイン絵本コンクール2013



アートマネジメント

「アートマネジメント」とは何か？ 「音楽会や展覧会の企画あるいは運営をすること」だと思っている方もいるかもしれません。しかし本来はもっと広い意味での「マネジメント」なのです。たとえば、公立文化施設や芸術団体にも、一般の企業と同じように、経営する人材が求められています。「組織を運営すること」「行政や企業と調整すること」「予算や決算を管理すること」「地域社会と芸術をつなぐこと」など、たくさんの仕事があります。そのためには社会科学の知識と経験が欠かせません。高校の授業でいえば「政治・経済」「現代社会」に相当する分野です。開学以来、アートマネジメント教育に力を入れてきたSUACには、多数の社会科学系教員が在籍し、音楽、美術、演劇などの多彩な芸術系教員と連携して学びの場を提供してきました。そして、学部、大学院ともにアートマネジメント教育の国際組織である芸術経営教育者協会(AAAE)の正会員として国際的な基準にそったカリキュラムを提供してきました。卒業生、修了生は全国の文化施設等、アートマネジメントの現場で活躍しています。研究機関としても、日本アートマネジメント学会の関東部会の事務局を務め、全国大会を開催するなど、日本における拠点の1つとして実績を積み重ねてきました。



■バンバン!ケンパンはままつ／鍵盤楽器、音楽、浜松の魅力を発見! コンサートとフォーラムによる音楽の祭典を開催しました。学生が企画立案し、楽器メーカー、出演者の協力を得て実現。文化や産業、まちの発展に向け大学ができることを模索しながら、資金集めや出演交渉、広報や現場管理など事業運営に学生が挑みました。



Flying Doctor



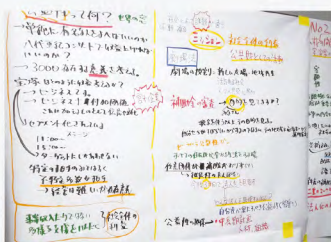
鈴木楽器、栗コーダーカルテットの皆さん

アートマネジメント実践ゼミナール

—平成25年度 文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」—

本学では、文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」の採択を受けて、平成25年度から3年間にわたり、「文化施設・実演芸術団体のためのアートマネジメント実践ゼミナール～中長期の計画策定を通じたアートマネジメント人材育成～」を実施しています。

美術館、劇場・音楽堂、実演芸術団体等の役員・職員を対象に、個々の展覧会や公演等の企画運営にとどまらず、これらを継続的に実施することで公益的な使命を果たそうとする、非営利の芸術組織の中長期的なマネジメントを学ぶ講座です。札幌、仙台、東京、浜松、大阪、岡山、福岡の7都市を拠点に、本学大学院文化政策研究科の体系的なアートマネジメント教育プログラムと、「SUAC芸術経営統計」(本学文化・芸術研究センターが整備を進めている我が国の包括的な文化施設や実演芸術団体等の経営統計)を活用した講座を全国に向けて展開します。



■アクロス福岡会場の講義ノート



■本学会場での講義風景(高島講師)

学びのフィールド

文化政策学部

[→P.021](#)

Faculty of Cultural Policy and Management

国際文化学科

[→P.025](#)

異文化を理解し、国際的にコミュニケーションできる人材を養成します。

文化政策学科

[→P.031](#)

政策・経営・情報の視点から新たな人間と社会のあり方を探求できる人材を養成します。

芸術文化学科

[→P.037](#)

芸術とそれを取りまく社会について理解し、芸術の持つ力を現代社会で活かすことのできる人材を養成します。

デザイン学部

[→P.045](#)

Faculty of Design

デザイン学科

[→P.045](#)

デザインを総合的に捉える力を持ち、様々な分野で活躍できる人材を養成します。

[| デザインフィロソフィー領域](#)[| プロダクト領域](#)[| ビジュアル・サウンド領域](#)[| 建築・環境領域](#)[| インタラクション領域](#)

大学院

[→P.065](#)

Graduate School

文化政策研究科

[→P.065](#)

芸術文化の振興や文化政策の推進を担う高度な専門家を養成します。

デザイン研究科

[→P.066](#)

企画から計画推進、造形展開に至るデザイン諸分野での高度な専門能力を養成します。

文化政策学部

Faculty of Cultural Policy and Management

既成の枠を越えて、文化の新たな地平を切り拓く人材を

現在につながる歴史の深みと、世界的な広がりという視点から多角的に文化及び芸術を見つめ、豊かな感受性で、文化の創造・発展に必要な知識を身につけ、国際的な視野を持って文化の新たな地平を切り拓く人材を育成しています。文化政策学部は、人々が「豊か」だと感じる社会の実現を目指し、いきいきとした社会生活を送るための方法や道筋を見つけ出していく力を持つ人材を輩出することで、社会に貢献していきます。

■ 文化政策学部の3学科

文化政策学部では、「国際文化学科」、「文化政策学科」、「芸術文化学科」の3つの学科を設け、社会と文化の関わりを専門的に学びます。

一定の領域を持ちながらも、3つの分野は互いに関係しています。

複雑、多様な社会について、専門領域だけでなく周辺領域の知識にも触れながら、広く、深く学んでいきます。

国際文化学科

言語、文学、歴史、
人類学、地域研究、
多文化共生、日本語教育

地域政策

多文化共生、
まちづくり、NGO論

人文学

文学、歴史、
文化・芸術

文化政策学科

経営、経済、法律、政治、
行政、情報、広告、まちづくり

マネジメント

アート・マネジメント、
経営、行政、法律

芸術文化学科

美学・美術史学、演劇史、
音楽史、アート・マネジメント
芸術文化政策、文化経済学

文化政策学部で学ぶ

「文化政策とは何か」を理解するために、文化政策学部では学部共通科目として、＜文化・芸術＞、＜政策・マネジメント＞、＜情報・リテラシー＞、＜多様な言語＞の4つの分野の科目群を設置し、これらの中からバランスよく学んでいきます。これらは、3つの特色ある学科での学習に共通する土台となります。

基礎をつくる4つの科目群

■ 文化と芸術

各学科の専門分野を学ぶ上で必要な、文化や芸術表現の多様性や歴史なども含めた社会の中の文化を概観するとともに、異なる文化への理解や多様な社会システム、芸術表現等に関わる文化全般の幅広い知識を養います。

■ 政策・マネジメント

企業に加え、政府、自治体、NPO／NGOといった非営利組織も含めた、幅広い経営体における政策の企画立案や評価、経営体のマネジメントの基本を学びます。これらを通じて、人と人、人と社会のより良いあり方に資するための実践的な能力を発揮できるようになることを目指します。

■ 情報・リテラシー

社会の課題に対する構想力、企画力、問題解決能力を養うとともに、専門的な研究やその成果を、広く社会に向けて発表・表現することや、多様な市民社会の中での合意形成を促進するための実践的なスキルを身につける。加えて、多様化する情報社会の中で、慎重にこれらに対処するための法的・制度的知識や自身の情報リテラシーの素養を身につける。

■ 多様な言語

必修科目である英語・中国語以外の多様な外国語を学ぶことにより、国内外の社会や市民の多様性、各地の歴史や地理に根ざした社会・経済・文化・芸術などの理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の拡充を目指します。



文化政策学部

2015年度 カリキュラム一覧(予定)

人間的素養・基礎力の養成

全学科目	
導入教育	
●文化芸術体験演習 ●学芸の基礎	
教養	
人文学科	
●文学	●歴史学
●哲学	●文化人類学
●心理学	●日本文化論
●宗教学	●静岡学
社会科学	
●法と社会	●社会調査論
●経済学基礎	●情報社会論
●現代の国際社会	●人権論
●現代社会と教育	●人間科学特論
●社会学概論	
自然科学	
●数学概論	●科学技術論
●社会と統計	●エコロジカルデザイン
●食と健康	●スポーツ科学
芸術・デザイン	
●音楽と社会	●映像メディア論
●芸術と社会	●空間とデザイン
●色彩・形態論	
●ユニバーサル／インクルーシブデザイン論	
必修外国語	
英語	
●英語コミュニケーションⅠA・ⅠB	
●英語コミュニケーションⅡA・ⅡB	
●英語コミュニケーションⅢA・ⅢB	
●英語コミュニケーションⅣA・ⅣB	
●マルチメディア英語Ⅰ～Ⅲ	
●ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	
中国語	
●中国語コミュニケーションⅠA・ⅠB	
●中国語コミュニケーションⅡA・ⅡB	
●中国語コミュニケーションⅢA・ⅢB	
●中国語コミュニケーションⅣA・ⅣB	
●マルチメディア中国語	
●ビジネス中国語Ⅰ・Ⅱ	
日本語(留学生のみ)	
●日本語コミュニケーションⅠA・ⅠB	
●日本語コミュニケーションⅡA・ⅡB	
実践演習	
●地域連携実践演習A・B	
●テーマ実践演習A・B	
●テーマリサーチプロジェクトA・B	
スポーツ活動	
●スポーツ活動A・B	

専門領域へのアプローチ

学部科目	
文化・芸術領域	
●音楽文化論 ●演劇文化論 ●視覚芸術論 ●社会思想史 ●市民社会論 ●社会心理学 ●多文化共生論 ●異文化と教育	
政策・マネジメント領域	
●文化政策概論 ●非営利セクターの経営 ●地方行政論 ●会計学 ●都市経営論 ●アートマネジメント概論 ●NPO・NGO論 ●憲法 ●文化政策と法 ●生涯学習と文化	
情報・リテラシー領域	
●統計学 ●社会科学の方法 ●フィールドワークの手法 ●プレゼンテーション技法 ●ディベート技法 ●ファシリテーション技法 ●情報リテラシー基礎 ●情報リテラシー応用A・B ●図書館概論	
選択外国語	
フランス語	
●フランス語コミュニケーションⅠA・ⅠB	
●フランス語コミュニケーションⅡA・ⅡB	
ポルトガル語	
●ポルトガル語コミュニケーションⅠA・ⅠB	
●ポルトガル語コミュニケーションⅡA・ⅡB	
韓国語	
●韓国語コミュニケーションⅠA・ⅠB	
●韓国語コミュニケーションⅡA・ⅡB	
インドネシア語	
●インドネシア語コミュニケーションⅠA・ⅠB	
●インドネシア語コミュニケーションⅡA・ⅡB	
イタリア語	
●イタリア語コミュニケーションⅠA・ⅠB	
●イタリア語コミュニケーションⅡA・ⅡB	
ドイツ語	
●ドイツ語コミュニケーションⅠA・ⅠB	
●ドイツ語コミュニケーションⅡA・ⅡB	

専門能力の確立

学科基礎		専門科目					
国際文化学科	学科基礎	●国際文化概論 ●国際文化基礎論 ●国際関係論 ●グローバル・キャリア・デザイン概論 ●文章表現技法 ●ナショナリズム論 ●比較文化論	日本・東アジア	●日本文化史 ●日本文学史 ●現代日本語表現 ●日本文学A・B ●漢文学Ⅰ・Ⅱ	●日本史学A・B ●日本語語彙研究 ●日本語研究 ●日本文学作品研究 ●古文書の調査と読解	●美術史(日本・東洋)Ⅰ ●東南アジアの文化と社会A・B ●中国の文化と社会 ●中国経済論 ●韓国社会文化論	●中国古典学 ●アジアビジネス論 ●東南アジアの歴史
	国際文化入門	●国際文化入門A～D	地中海・西欧・北米	●近現代の中東A・B ●イタリア文化史 ●フランス文化論 ●ルネサンス文化史 ●古代ギリシア・ローマ文化と社会	●中東現代史 ●英米文学史 ●西欧・北米文化論 ●英米文学概論A・B ●イギリス文化論	●西欧近現代史 ●英語学概論Ⅰ・Ⅱ ●西欧・北米の歴史 ●音楽史Ⅰ ●EU論	●ドイツの思想と社会 ●美術史(西洋)Ⅰ・Ⅱ
	専門外国語	●英語表現法 ●英語上級 通訳 ●英語上級 観光英語 ●英語上級 翻訳 ●英語上級 会議英語 ●中国語上級Ⅰ・Ⅱ ●フランス語上級ⅠA・ⅠB ●フランス語上級ⅡA・ⅡB ●フランス語応用 ●ポルトガル語上級ⅠA・ⅠB ●ポルトガル語上級ⅡA・ⅡB ●ポルトガル語応用 ●韓国語上級ⅠA・ⅠB ●韓国語上級ⅡA・ⅡB	多文化共生	●多文化とエスニシティ ●イスラーム概論 ●日英語比較研究 ●文化交流論 ●国際労働力移動論	●日本語音声学 ●日本語文法Ⅰ・Ⅱ ●日本語教授法Ⅰ・Ⅱ ●国際協力論 ●国際紛争論	●スポーツ文化論 ●企業と言語教育 ●日本語教育の実践と応用 ●Global Studies : Culture and Society A・B ●Global Studies : Global Issues	

文化政策学科	学科必修	●リサーチ&プランニング基礎 ●リサーチ&プランニング応用 ●リサーチ&プランニング実習 ●社会学 ●経済学	政策	●政治学 ●法学 ●行政学 ●行政法	●地域計画論 ●地域情報サービス論 ●地域社会論 ●地方財政論	●創造都市論 ●経済政策論 ●環境政策論 ●地域福祉論	●観光論
			経営	●経営学 ●経営戦略論 ●マーケティング論 ●中小企業論	●経営科学 ●社会起業論 ●経営財務論 ●産業組織論	●日本経済論 ●グローバルビジネス論 ●金融経済論 ●地域産業論	●産業遺産と産業史
			情報	●広報・広告論 ●マスコミュニケーション論 ●臨床社会心理学 ●メディア文化論	●組織心理学 ●情報システム論 ●社会統計分析 ●質的調査法	●学術情報論 ●人文地理学 ●地誌学 ●社会理論	●情報法学 ●食文化論 ●自然地理学 ●英語文献購読

芸術文化学科	学科基礎	●芸術文化入門 ●芸術表現A・B ●芸術文化基礎A～D ●芸術文化特講	政策とマネジメント	●芸術文化政策の理論 ●アートマネジメントA・B ●芸術文化政策の国際比較	●文化施設の管理と運営 ●文化財保護政策 ●地域社会と芸術文化	●現代社会と芸術文化
			文化と芸術	●文化と芸術A～D ●現代芸術論A～D ●芸術特論A～D	●音楽史Ⅰ・Ⅱ ●演劇史Ⅰ・Ⅱ ●美術史(西洋)Ⅰ・Ⅱ	●美術史(日本・東洋)Ⅰ・Ⅱ ●鑑賞と批評Ⅰ・Ⅱ
			芸術運営の実践	●展示プロデュース論 ●保存と修復	●舞台運営論 ●劇場プロデュース論	

卒業研究

演習(ゼミ)・卒業論文

演習(ゼミ)・卒業論文

演習(ゼミ)・卒業論文

日本の伝承と文芸を 語る人になるために

高校生の時にベトナムへのスタディツアーに参加し国際協力・国際交流に関心を持ったことから、国際文化学科を志望しました。

入学後は地域を定めずに広くさまざまな文化圏の授業を受講し、世界中の文化を学んでいる友人たちとの交流からも、多くのことを吸収してきました。国際交流では、自国の文化を発信できる人間になることが大切だと考え、ゼミでは日本の伝承文学を専攻しました。

ゼミでは、江戸時代の版本をテキストにして平家物語を輪読し、仲間と資料を読み込む日々を過ごした充実感は貴重な体験となりました。

卒論のテーマは「曾我物語図屏風の読み解き」。近年発見された屏風絵を、絵画史からではなく文学との関連から読み解くという試みです。

卒業後は静岡県庁への就職が内定しております。日本の伝承文化・絵画・芸能などへの関心を深めながら、文化・観光の行政に携わっていかれたらと考えています。

瀧口圭美 TAKIGUCHI Yoshimi

国際文化学科4年 静岡県立富士高校出身



STUDENT'S VOICES

学生達からのメッセージ

多文化共生社会は 多様性を認め合うことから

ブラジル国籍を持ち、浜松で育った自分。この経験を踏まえ、芸術や文化を通して人と人がどのように理解しあっているのかについて学び考えています。

大学に入って知った多文化共生という分野。自分たちがどう位置付けられているのか客観的に知ることが、とても意義深いことです。講義を受けるだけでなく、研究プロジェクトへの参加やイベントに関わる機会の多さ。2012年開催の日系ブラジル人との交流イベント「ブラジルよさこいソーラン」では司会や通訳を担当しました。同じ境遇の人々と接することで、自分自身を見つめ直す機会となりました。異なる個性をもつ人同士が集い、自然にそれぞれの個性を認め合い溶け合う社会こそが、真の「共生社会」だと考えています。

学外のNPO法人が主催するミュージカルにも出演。年齢や職業の異なる人が集まり、多様な個性をぶつかりあわず場でした。ゼミでは、これまで自分が経験してきた多文化共生を理論としてまとめることに挑戦しています。

岡崎ケンジ OKASAKI Kenji

国際文化学科3年 浜松市立高校出身



〔文化政策学部〕 定員100名

国際文化学科

Department of International Culture

地域、世界について学び、世界を変えるための 行動力を身につけ、グローバルなキャリアにつなげる

ネイティブ教員による外国語教育が充実しています。

英語・中国語教育センターがさらに語学力向上をサポート、英語だけの授業をそろえています。

学生の留学、語学研修、海外インターン・ボランティア活動、地域活動を応援します。

「多文化共生」「日本文化研究」「異文化理解」「国際協力」といった複眼的な視点で、

世界の文化と社会を考える学び、体験を大切にします。行動力をさらにキャリアにするため、

「グローバル・キャリア・デザイン」の授業を通して、将来のキャリアを一緒に考えます。



複眼的な視点から世界の文化を捉え、多角的に取り組むことで、国際文化をダイナミックに学ぶ。

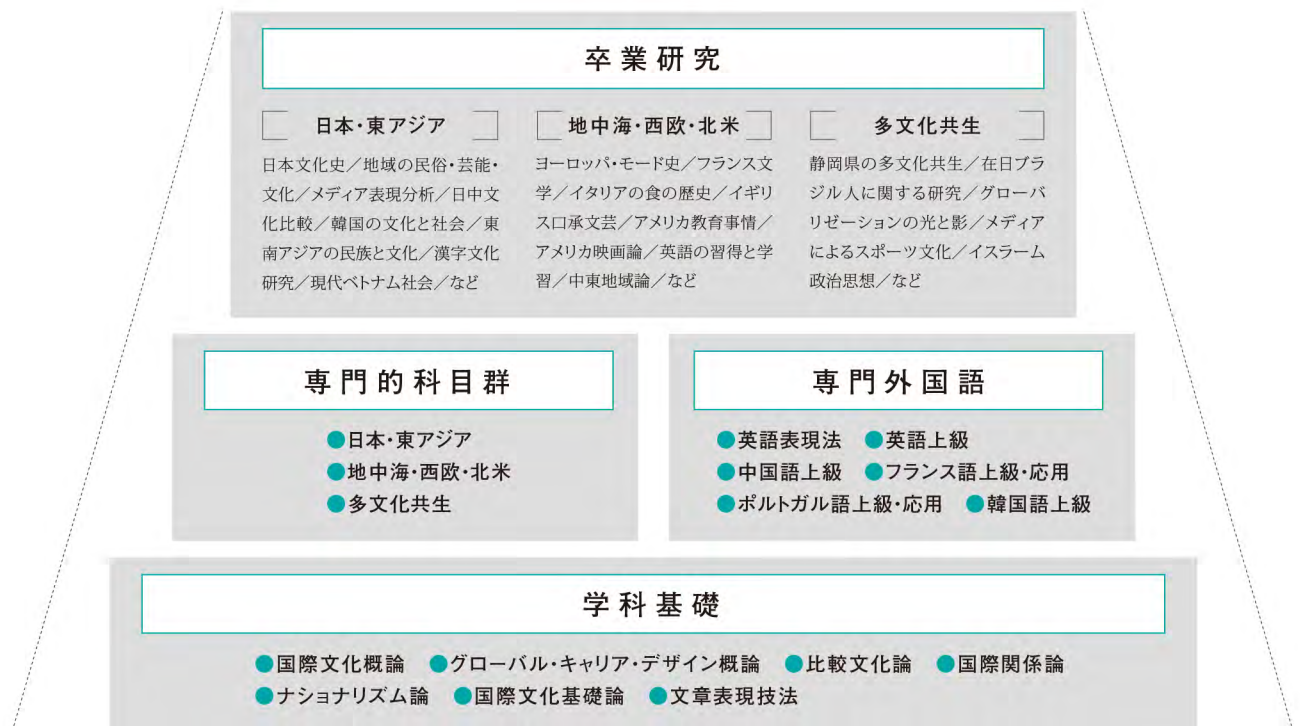
世界の様々な事件や状況について考えるには、表面にあらわれた物事だけでなく、背景まで掘り下げて根源から理解することが欠かせません。自ら問題意識を持ってテーマを見つけ考察する力を養うことが、「学び」の基本です。問題意識を持ち、発見した問題を深め、そして、新たな一歩を踏み出してみましょう。

国際文化学科で学ぶ4年間



国際文化学科の学びの体系

「国際文化概論」「国際文化基礎論」といった学科基礎、そして専門外国語を学ぶことで多様な文化のあり方や価値を学びます。その後3つの専門的な科目群である「日本・東アジア」「地中海・西欧・北米」「多文化共生」からを選択的に学ぶことで、文化を創造的、能動的に学び卒業研究の準備をしていきます。また新しい科目「グローバル・キャリア・デザイン概論」によって将来のキャリアを早期に構築するサポートをします。



New Curriculum

CHECK POINT

英語力のブラッシュアップ

入試では英語による推薦入試を行うなど、英語力をもった学生の教育に力を入れています。英語力のブラッシュアップを目指します。

科目例:「Global Studies (Culture and Society A・B, Global Issues)」開講年次…1年次後期～2年次後期
英語ネイティブ教員を中心として英語で行われる専門科目です。英語を通して、地球上のさまざまな社会や文化について学び、グローバルな視野から世界で起こる問題を考えます。(Content-based Instruction)

外国語の専門性を強化

国際文化学科では英語、中国語、フランス語、ポルトガル語、韓国語をより専門的に深めていくことができます。

科目例:「英語上級 (通訳、翻訳、会議英語、観光英語)」開講年次…3年次前期～3年次後期
英語力を伸ばすだけではなく、英語を道具として使う専門技能を身に付けることを目的とした科目です。将来、関連職業を目指す人には最適です。(English for Specific Purposes)

国際文化学を土台とした学び

地域において、あるいは世界のなかで、異なった文化の共存と共生を図るために、外国語を学び、異文化を理解していきます。また、自分の文化について対外的に説明する力を身につけます。

科目例:「国際文化概論」開講年次…1年次前期
国際文化学科での幅広い学びは、文化と文化の「間」を意味する「インターカルチュラリティ」という概念に包摂されます。この概念を出発点に、多岐にわたる国際文化学科での学びのどの分野に焦点を絞ってゆくにせよ、必ず必要となる知識や方法論の基礎を身につける授業です。

グローバル・キャリア教育によるキャリアサポート

「グローバル・キャリア・デザイン概論」開講年次…2年次後期
「グローバル人材育成推進事業」は、平成24年度から文部科学省が推進している人材育成事業です。「グローバル人材」とは、グローバルな舞台に積極的に挑戦し、世界に飛躍できる人材をいい、今一番求められる人材なのです。国際的な場で活躍できる人材に必要な資質とは何か、それを実現するためには、いつまでにどんな準備をすればいいのか等、実際に現場で活躍するプロの経験談も交え、具体的なイメージづくりをサポートします。

多文化共生社会を推進する人材の育成

本学の位置する静岡県浜松市は、2001年度の「世界都市化ビジョン」に引き続き、2012年度には「多文化共生都市ビジョン」を策定しました。全国でも「多文化共生社会」の実現に向け先駆的な取り組みが展開する浜松市。このような場所だからこそ、「多文化共生」について学ぶ意義があります。本学科では国語や英語の教員免許状の他に、日本語教員養成課程の修了書をとることもできます。文化的背景の違いを尊重し、多文化共生の理念を理解した人材を育てる点が特徴です。

取得可能な資格

教育職員免許状:中学校教諭一種〔国語・英語〕

教育職員免許状:高等学校教諭一種〔国語・英語〕

図書館司書

学校図書館司書教諭

日本語教員養成課程

社会調査士

詳しくは70ページをご覧ください。▶▶▶

卒業生の主な進路

(抜粋)

公務

静岡県(行政)	浜松市(行政)
静岡県(警察行政)	静岡県教育委員会(教員)
静岡県警察本部(警察官)	浜松市教育委員会(教員)
静岡市(行政)	

製造・建設業

ウシオ電機(株)	矢崎総業(株)
(株)河合楽器製作所	ヤマハ(株)
スズキ(株)	ヤマハ発動機(株)
中北薬品(株)	(株)ユタカ技研

運輸・旅行業

味の素物流(株)	東海旅客鉄道(株)(JR東海)
近畿日本ツーリスト(株)	名鉄観光サービス(株)
(株)JALスカイ	日本通運(株)
(株)ジェイアール東海ツアーズ	福山通運(株)
JTBグループ 各社	マツダロジスティクス(株)
全日本空輸(株)	

金融・保険業

遠州信用金庫	(株)静岡中央銀行
掛川信用金庫	しずおか信用金庫
JA静岡市	島田信用金庫
JAとびあ浜松	(株)清水銀行
(株)静岡銀行	(株)商工組合中央金庫
静岡県経済農業協同組合連合会	新潟県信用組合
(JA静岡経済連)	浜松信用金庫
静岡県労働金庫	

卸売・小売業

(株)大丸松坂屋百貨店	米国三越(株)
日鐵商事(株)	ユアサ商事(株)

サービス業など

(株)NTTドコモ	中部ガス(株)
(株)オリエンタルランド	日本郵便(株)
(株)静岡朝日テレビ	(株)マイナビ
(株)東京アカデミー	(学)名城大学
(株)TOKAI	

大学院進学

愛知教育大学大学院	静岡文芸芸術大学大学院
大阪大学大学院	横浜国立大学大学院
静岡大学大学院	

※分類は本学の区分によるものです。

※学生の学年表記は取材時(2013年度)のものです。

SUAC | 030

Topics

多文化共生“ポンチ・プロジェクト”



舞台や照明、衣装や小道具を一切使わず、身体の動きと声だけで一人何役もこなす「お芝居デリバリーまりまり」。そのお芝居を日本だけでなくブラジルにも届けるプロジェクトでは、昔話を観た日本やブラジルの観客がメッセージを寄せてくれました。この展示会では、伝書鳩のようにまりまりが運んできた寄せ書きや子どもたちの描いた絵を展示しました。それらを観た人たちの心の中に日本とブラジルを結ぶ新たな橋が架けられたはずです。

フェアトレードショップとのコラボで生まれたクッキー



公正な価格や条件で開発途上国から商品を買取り、販売する活動はフェアトレードと呼ばれています。このフェアトレード活動に取り組む学生サークル「りとるあーす」とデザイン学部 of 学生たちが、地元のフェアトレードショップ組織である「フェアトレード・コミュニティしずおか」と一緒に、フェアトレード・クッキーのネーミングとパッケージデザインに取り組みました。クッキーの名前は「Meryenda」(タガログ語でおやつの意)です。

学生の多様な活動を知る機会「ランチフォーラム」



各学期に1～2回、昼休みの時間帯を利用して、学生が日常的に取り組んでいる活動、あるいは、留学、語学研修、スタディーツアー、ボランティア活動の体験などを報告・紹介し、学生間の情報、体験、関心の共有を図り、相互に啓発しつつ連携を深めていく場です。これまで留学体験等の報告のほかに、「富士山1か月アルバイト」「福島復興支援」「京都一人旅～職人を訪ねて」など多彩な内容の体験報告が行われてきました。

ピックアップゼミ

ピックアップゼミ | 中国経済、アジア経済

中国、アジアと日本の関係を捉える。論理的に考える力を磨き、経済の視点から

俞 嶸 准教授

YU Rong

中国、そしてアジア諸国で起きているさまざまな経済事象と経済問題の分析を通して、中国認識とアジア認識を深めていくことを目指しています。経済を介したグローバル時代の中国、アジアと日本の関係についても考えていきます。多角的な研究視点を身につけさせるため、関連文献の収集と分析、現地調査、留学生との意見交換を行いつつゼミを進めています。新カリキュラムでは中国語強化が行われているので、中国語原典に当たること、より詳細な研究を目指すことができます。

片井進太

KATAI Shinta・国際文化学科3年

ゼミでは、各自が中国とアジアの国々の経済からテーマを選び、調査と研究を行います。私は中国での交換留学中に日本企業の盛んな中国進出を目のあたりにし驚きました。この衝撃から、現在、ユニクロの中国とアジアでの展開、中国の外資受け入れ政策について研究を進めています。経済関係のニュースを全員で共有することや、中国からの留学生と議論を交わすことから、多くのヒントを得られました。今後は、留学で培った中国語力を生かし、原資料に多くあたり、中国人の視点にもせまっていきたいと考えています。



私のため、人のため、夢のために

学生の声 <どんなことを考えて講義をとっているのでしょうか～3年生4年生に聞く>

日本史の深さを知る

■松本祥仁 国際文化学科4年



日本の歴史や風俗を中心に学んでいます。特に、一次資料となる古文書の読解を通し、近世日本史を専門的に学んでいます。また、さまざまな分野による、多様な視点と学問追究の方法論を学び、自分に必要な情報、その分析、歴史的事実の解明に努めています。

■履修科目／日本列島社会論(新:日本文化論)、史料の調査と読解(新:古文書の調査と読解)、日本史学Ⅱ、日本文学作品研究、文化交流論 ※科目名は2013年度の科目です。2015年度以降は一部の科目が()内の名称に変更となります。

英語を活かして国際協力へ

■高橋 茜 国際文化学科3年



英語と国際協力を中心に学んでいます。「英語ディプロマコース」によりディベートやプレゼン力をつけ、全国の学生を集めて行われる「模擬国連大会」にチャレンジしました。語学力だけでなく、学科のカリキュラムから「国際的な視野」を身につけることを心掛けています。

■履修科目／英語上級、英語ディプロマコース、国際協力論、NPO・NGO論、国際紛争論 ※「英語ディプロマコース」は、2013年度の科目です。2015年度以降はさらに内容を充実し、異なる名称の科目に変わります。

学生の声 <どんな講義がありますか～2年生3年生に聞く>

国際協力論

■担当教員…下澤 嶺 教授
■土橋紗亜也…国際文化学科3年

グローバルな相互扶助空間のひとつである国際協力は戦後始まった新しい国際関係のひとつで、価値観も人道主義的なものから外交政策を優先するものまであり、プレーヤーも実に多様であることがわかる授業でした。この講義で印象に残っているのが、「誰かを救済することは、誰かを見捨てること」という言葉です。以前は国際協力とは貧しい国のため推し進めるべきことだと思っていました。しかし実際の現場は複雑で、軽い気持ちで他国に介入することは許されないと感じました。改めて貧困とは、豊かさとは、責任とは何かを自分に問い直すことができました。

イギリス文化論

■担当教員…美濃部京子 教授
■山田莉世…国際文化学科3年

2013年度はイギリスの子どもたちが親しんできた伝承や児童文学の世界、たとえば『不思議の国のアリス』『ハリー・ポッター』『クマのプーさん』などをオリジナルに近い英文で読んでいく授業でした。これらは、私たちにとても小さい頃から馴染みのあるお話です。それらの作品を取りあげ、作者はどんな人物だったか、どのようにしてこれらのお話が生まれたのかなど、実際に英語で書かれている原本や映像を紹介してもらったことでイギリス児童文学への関心が深められました。講義を受け振り返ってみて、原典に触れることは、英語文学表現の魅力を知る上で必要不可欠なのだと実感しています。

国際文化入門B

■担当教員…岡田建志 教授
■後藤夏希…国際文化学科3年

東南アジアのメディアが発信する英文資料を各セクションの導入で題材にして、現代の東南アジアの動向とその背景を学びました。英文資料を読むことで、英文一般の読解力も向上させながら、東南アジアの諸情勢を深く学びました。私が受講した2013年度は、ベトナムやタイの世界遺産とその観光地化に伴う問題、世界遺産がある国境地帯をめぐるタイとカンボジアの紛争など、東南アジアの世界遺産が存在する地域に関するテーマが中心でした。授業後に提出する感想や質問に対する先生の熱心な回答や補足事項の説明もあり、常に高いモチベーションを持って授業に臨みました。

[文化政策学部] 定員50名

文化政策学科

Department of Regional Cultural Policy and Management

生活の質や生きがいの向上を目標に、21世紀型の地域社会と産業の活性化について、学際的・実践的なカリキュラムを通じて、構想力と実行力を培う

「文化政策」とは、21世紀に適したより良い社会のあり方を探求し、これを実現するための方策を意味します。

そして、その方策について、本学科では、主として社会科学の視点から学びます。

特に「政策」「経営」「情報」という3つの分野を、総合的かつ集中的に学ぶ特色あるカリキュラムを用意しています。

地域社会や企業の様々な課題や問題を俯瞰的にとらえ、現状に適した、行政政策や企業経営戦略、

市民が参画する活動などを構想・立案し、それを有効に実行・実現することができる人材を養成します。

文化政策演習の授業風景(加藤ゼミ)



学んだことを検証する
フィールドワークの面白さ。

農業による集落の活性化をテーマに、地域の問題の解決方法やまちづくりに関する研究を行っています。ゼミでは、講義で学んだ知識を、フィールドワークを通じて実践的に検証。毎週のように現地に出向き、住民の皆さんの話をうかがっています。年配男性、女性、Iターン移住者など視点を変えると多角的に問題を捉えることができ、フィールドワークの重要性とともにその面白さを実感することができました。農業が元気になれば、地域も、日本全体も元気になるはず。地域活性化のマネジメント方法を研究・実践するために、海外での事例も集めていきたいと思っています。

中原僚介 NAKAHARA Ryosuke

文化政策学科3年 静岡県立川根高校出身

可能性を広げてくれる、
幅広い学問領域。

経営学も心理学も法律も学びたいという欲張りな希望を叶えてくれるのが文化政策学科でした。幅広い分野の教授がいて、興味のあることを限定せずに、社会の現状を学べます。視野も広がり自分自身の可能性も広がります。今は、メディア媒体が社会に及ぼす影響に興味を持ち、ゼミでフィルムコミッションによる地域のまちおこしについて学んでいます。大学祭の広報担当としてPR活動を企画した経験からも、情報発信について深く考えるように。情報を伝える媒体は思った以上に種類があると分かり、効果を理解してよりよい発信者になりたいと思うようになりました。

稲垣さつき INAGAKI Satsuki

文化政策学科3年 愛知県立春日井高校出身

地域社会への関心を引き
出してくれた学問との出会い。

文化を軸に社会を多角的に学べる文化政策学科のカリキュラムは、知らなかった考え方に会えて刺激的。自分自身も、授業で農村社会学と出会ったことから地域社会へ関心を持つようになりました。故郷・島根と密接に関わることで、具体性を持ちながら意欲を持って学んでいます。今後も、地域づくりインターンに参加するなど中山間地域の活性化を目指し、住民の意識を高めるための手法を研究していきます。将来は島根で住民の自主的な活動を支えるための政策づくりに関わる仕事に就きたいと思っています。農村社会学は人生をかけて学び続けるテーマになりそうです。

石倉達也 ISHIKURA Tatsuya

文化政策学科2年 島根県立松江南高校出身



STUDENT'S VOICES

学生達からのメッセージ



STUDENT'S VOICES

学生達からのメッセージ



文化政策学科の多角的な学び（多様な専門分野の学科教員）

文化政策学科には、政策や行政、経済や経営、文化や情報、社会や心理、法律など多岐にわたる専門分野の教員がいます（43ページをご覧ください）。したがって、2年間の間、多様な学科科目を履修しながらじっくりと学びたい分野やテーマを選択し、3年次からのゼミや4年次の卒業論文・プロジェクトでは、納得ゆく分野やテーマについて、専門知識を持つ教員の指導の下で学ぶことができます。



地域社会の豊かさと充実に向けて

地域社会の都市や村落、組織や集団を調査研究対象として、そこに住み、働く人々の生活や考え方を、観察やインタビューを通じて調べます。そして、多様な学科科目から学んだ知識を、調査で得られた情報の分析に応用しながら理解を深め、問題点を明らかにしたり、解決策の提言をしたりします。こうして、現実的で実現可能性の高い、実践的な政策や事業計画を作成する力を習得します。



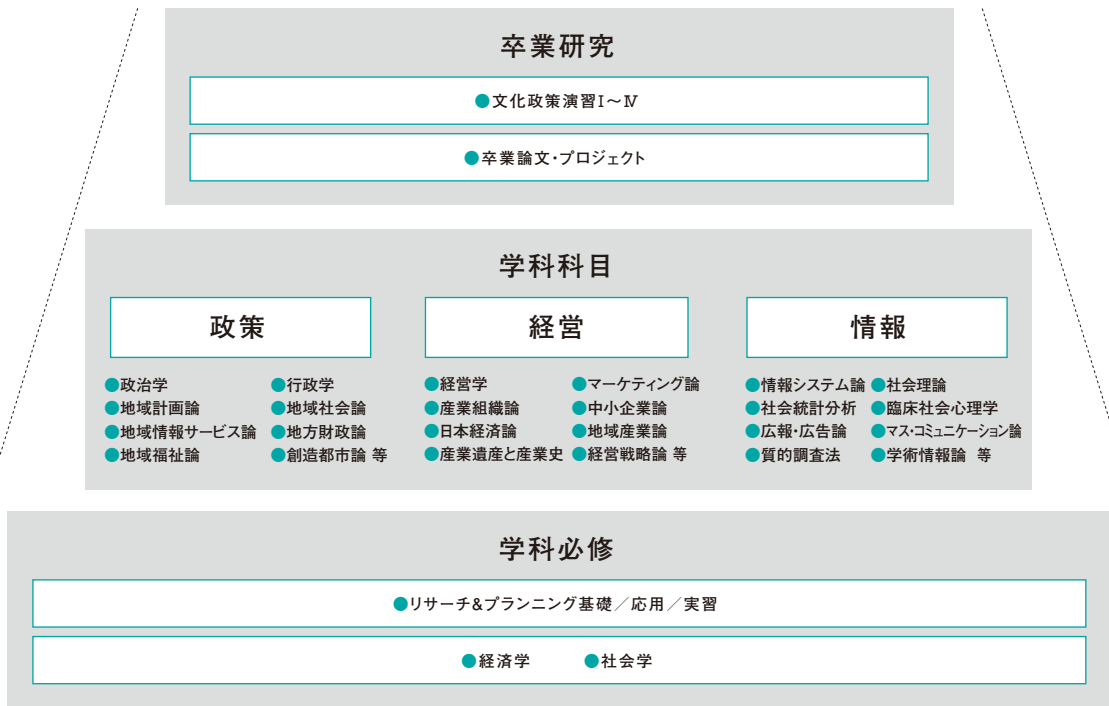
産業社会のあるべき形を考える

地域における製造業、サービス業、農林水産業の状態や、様々な種類や規模の企業や公共団体の経営・運営について、統計的なデータはもちろんのこと、現場の経営者や労働者、そして消費者の体験や視点を踏まえながら学びます。さらに、企業や公共団体の経営戦略や運営形態を調査して、評価方法などを習得します。企業の社会的責任など企業と地域社会の関係などについても学びます。

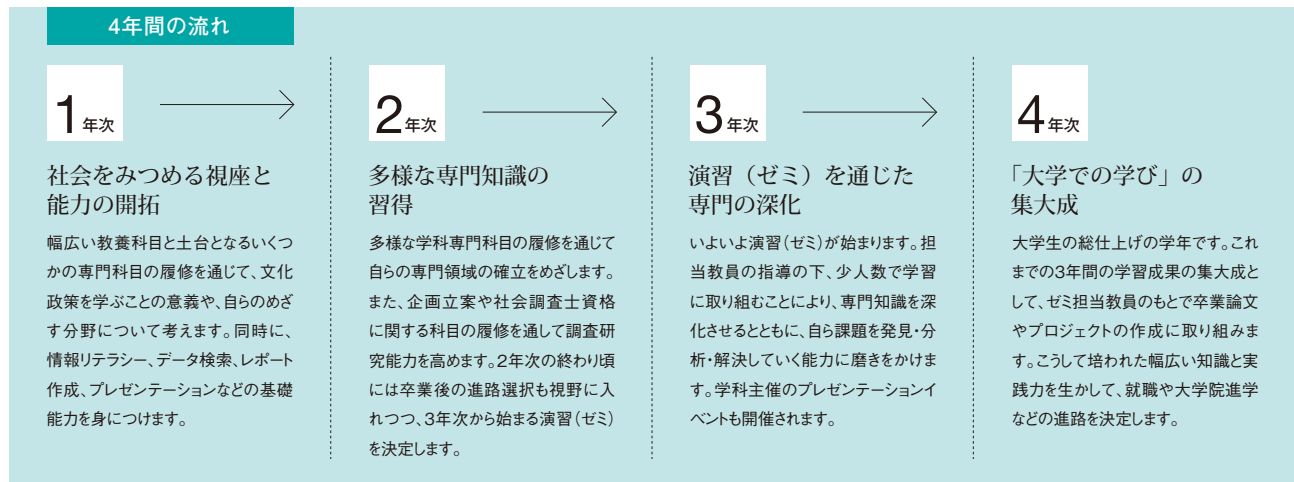
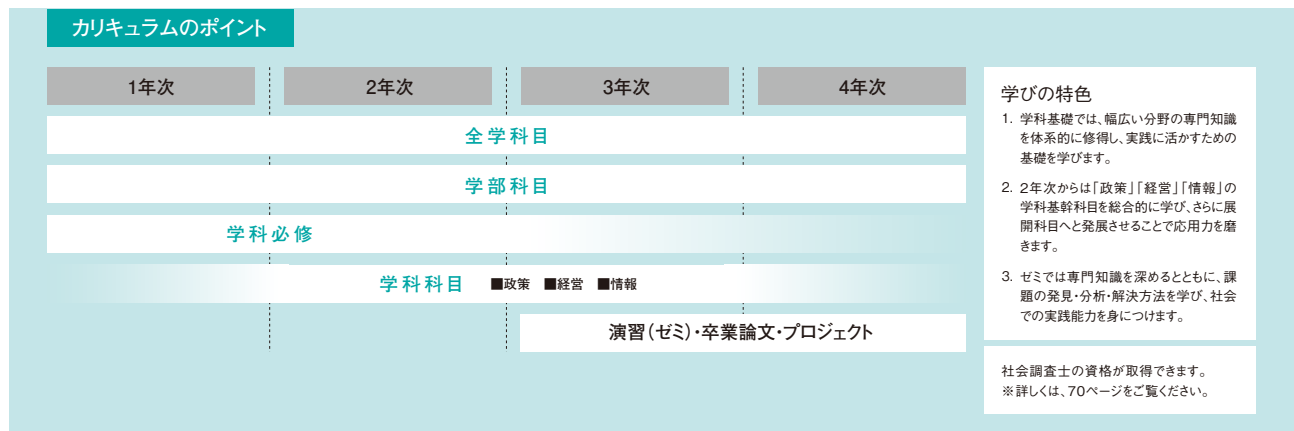
文化政策学科の学びの体系

知識に加え、調査研究やプレゼンテーション手法を学び実践的なスキルを身につける

学科必修では、文化政策の基礎となる知識と共に、実践的な調査研究や企画立案、プレゼンテーション手法を学びます。また政策、経営、情報の3つの視点から現代社会の様々な課題を理解し、実社会での問題の解決に貢献できる知識と実践力を養っていきます。また50名の入学定員に対し、14名の専任教員を擁し、きめ細やかな少人数クラスでの教育を行います。



文化政策学科で学ぶ4年間



ピックアップ科目



産業遺産と産業史

■ 担当教員…四方田雅史 ■ 開講年次…2年次後期

この講義では産業遺産や近代化遺産に関するさまざまなトピックを扱います。産業遺産とは、過去の産業活動が残してきた文化財のことです。産業遺産などの文化財がどのように保存され、都市計画やまちづくり、観光などにどのように活用されてきたのか、事例を使いながら講義していきます。そして、産業遺産がなぜ保存されたか、理解するために日本や西欧の産業史についても学びます。



創造都市論

■ 担当教員…根本敏行 ■ 開講年次…3年次後期

創造都市論について、まず代表的な提唱者の著作などを参考に、その誕生以前から今までの系譜をたどって理解を深めます。次に国内外の具体的な事例によるケース・メソッドにより、歴史的・社会的な視点から、文化・芸術と都市・地域発展との関係、文化資源の活用、産業発展との関係、市民生活の豊かさとの関係などについて学びます。

地域産業論

■ 担当教員…米屋武文 ■ 開講年次…2年次前期

人口減少による内需縮小、デフレ進行、新興国との競争、円乱高下、高い法人税、電力不足など、わが国の産業を取り巻く環境は厳しさを増しています。また、労働者の給与カット、人員削減、非正規拡大といった労働条件の劣悪化が問題となっています。ここでは、上記現状の解説に加え、疲弊・衰退しつつある地域産業の中で、私たちの生活に関係の深い食品産業を取り上げ、再生・活性化するための方策を考えていきます。

地方財政論

■ 担当教員…田中 啓 ■ 開講年次…3年次前期

いかなる企業や個人も公的な財源に基づく公共サービスの恩恵を受けていますし、自治体が住民ニーズに応えることができるかどうか、その財政状況と関係しています。地域社会の動向や自治体の活動を理解するためには、財政制度や自治体財政の状況に関する理解が不可欠です。この科目では、地方財政の仕組みや現状を学び、公的資金の循環の視点から地域社会についての理解を深めます。

取得可能な資格

教育職員免許状:中学校教諭一種[社会]

教育職員免許状:高等学校教諭一種[公民]

社会調査士

図書館司書

学校図書館司書教諭

日本語教員養成課程

詳しくは70ページをご覧ください。▶▶▶

卒業生の主な進路

(抜粋)

金融・保険業

磐田信用金庫	清水銀キャリアアップ(株)
遠州信用金庫	(株)清水銀行
JA遠州夢咲	静岡信用金庫
JA大井川	島田信用金庫
JA静岡経済連	第一生命保険(株)浜松支社
JAとびあ浜松	日本銀行静岡支店
静岡県労働金庫	日本生命保険(相)浜松支社
静銀ビジネスクリエイト(株)	浜松信用金庫
(株)静岡銀行	焼津信用金庫

製造業

エンケイ(株)	(株)P'Sネットワーク
(株)シャンソン化粧品	富士機工(株)
(株)スカイ	矢崎総業(株)
スズキ(株)	ヤマハ発動機(株)
中部印刷(株)	ヤマハモーターエレクトロニクス(株)
浜名湖電装(株)	ヤマハモーターソリューション(株)
浜松ホトニクス(株)	ローランド(株)

サービス業(教育・広告・ホテルなど)

(株)SBSプロモーション	静岡放送(株)
遠鉄観光開発(株)	(福)天竜厚生会
(一財)静岡県交通安全協会	日本郵便(株)
静岡県農業団体健康保険組合	浜松商工会議所
(株)静岡新聞社	(株)日立ソリューションズ
(株)静岡博報堂	(株)ホテル小田急静岡

卸売・小売業

鈴与商事(株)	富士ゼロックス静岡(株)
ネットヨタ浜松(株)	(株)ホンダカース静岡西
浜松日産自動車(株)	ユニー(株)

運輸・旅行業

遠州鉄道(株)	静岡鉄道(株)
(株)ジェイアール東海ツアーズ	鈴与(株)

建設業

旭化成ホームズ(株)	積水ハウス(株)
------------	----------

公務

磐田市役所	島田市役所
菊川市役所	沼津市役所
静岡県警察本部	浜松市役所
静岡県庁	焼津市役所
静岡市役所	

大学院

静岡文化芸術大学	名古屋大学
名古屋市立大学	

※分類は大学の区分によるものです。

※学生の学年表記は取材時(2013年度)のものです。

SUAC | 036

Topics

■先輩から後輩へ、進路への実体験を伝える

公務員試験合格者との懇談会



文化政策学科では、「公務員試験合格者との懇談会」を開催しています。公務員試験に合格した4年生が、後輩たちに向けて試験対策法や、企業への就職活動との両立の難しさや工夫など体験談を語ります。参加した後輩たちは熱心にメモをとりながら話を聞き、質問をして受験へのイメージを膨らませていきます。先輩から後輩への縦のつながりがキャリア形成で重要な役割を果たしています。

■阪神淡路大震災復興と神戸の文化を知る研修旅行

根本ゼミ研修旅行



都市・地域学研究室(根本ゼミ)では、近代の産業遺産を活用した都市機能の再生や新産業の創出を研究テーマにしています。2011年度には、阪神淡路大震災復興と神戸の文化を知る研修旅行を実施しました。淡路島の野島断層や鳴門市の大塚国際美術館の完全復元したシスティナ礼拝堂(原寸陶板レプリカ)、灘六郷の酒蔵などを見学しています。

ピックアップゼミ

ピックアップゼミ | 心理学ゼミ

心理学を通して社会を見つめ、仲間と切磋琢磨し合いながらそれぞれの研究を深めていきます。

小杉大輔 准教授 KOSUGI Daisuke

心理学ゼミでは、主に社会心理学領域の研究を行います。3年次には、文献講読や心理実験、統計解析の演習後、小グループで調査を実施し、4年次の卒業研究のためのスキルを身につけていきます。自らが面白いと思える研究テーマを見つけ、自ら調査を計画・実施し、そのテーマに関する新たな事実を発見することが、ゼミ生の最終目標となります。仲間との研究活動を楽しみながら、その発見から得られる喜びや達成感を味わってほしいと思います。

川島佳澄 KAWASHIMA Kasumi・文化政策学科4年

他のメンバーの発表を聞き意見を言い合うことで、新しい発想が生まれ、自分の研究も深まっています。説得力のある意見を述べるには裏付けとなるものがなければいけない、そのための文献を探す力も身につきました。卒論では、企業のCSR活動について、心理学及びユニバーサルデザインの観点から考えていきます。



卒業研究演習一覧

社会問題、社会変動に関する研究 ■担当教員…森 俊太 教授

社会問題や社会変化の原因、プロセス、影響などを、制度や文化を比較しながら研究します。綿密な調査と論理的な発表の繰り返しにより、学生の実力を向上させます。

法的視点から社会を見る ■担当教員…赤井朱美 教授

本演習では法律を扱います。現行制度のしくみを学びながら、何が問題になっているのか、背景は何かを考察し、対立する主張の論点整理を行います。社会保障法制・福祉関係法規・医療法・年金法等の法的視点から現代社会における法律問題を検証します。

地域づくりに関する研究 ■担当教員…阿蘇裕矢 教授

地域の生活や暮らしに関わる分野等から課題や問題点を探し、空間的かつ社会的な視点からその解決策について研究します。都市、農山村、観光、環境などの領域がキーワード。

公共政策の分析と評価 ■担当教員…田中 啓 教授

ゼミ生は2年間をかけて行政や政策に関する専門的知識と政策分析・評価の理論や技法を学びます。また公共政策におけるNPOや社会起業家の役割にも注目しており、その具体例や運営手法も取り上げています。

都市・地域の開発や保全に関する研究 ■担当教員…根本敏行 教授

3・4年次ともにまとまった内容の論文を仕上げます。地域のまちづくりの課題を選び、仮説を立て検証する方法論を身につけます。現地調査などのフィールドワークを重視します。

情報技術を活用した社会の研究 ■担当教員…野村卓志 教授

生活の質を向上させるための社会システムを考えるのが文化政策です。そこで、情報技術を生かした社会を作るにはどうするかをテーマとして、各学生は研究を進めています。

公共図書館を通して地域を見る ■担当教員…林 左和子 教授

公共図書館を研究するにはその地域についても知る必要があります。図書館を通して地域にアプローチし、地域のために図書館は何かができるかを考えることを目標としています。

食文化に関する研究 ■担当教員…米屋武文 教授

食の機能性や社会生活での役割への理解を深め、豊かで快適な生活をするための方策を学びます。人口の爆発的増加に直面する世界の食料問題への対応を、食の領域での文化政策の重要課題として新たな食品の開発研究も行っています。

メディア・消費文化から社会を見る ■担当教員…加藤裕治 准教授

メディアや消費の文化と日常文化が分ち難く結びついている現代社会の状況を理解し、その課題を明らかにしていきます。ゼミでは社会学を中心とした方法や研究をもとに、各自の研究テーマに取り組むことになります。

社会の中の人間の心に関する研究 ■担当教員…小杉大輔 准教授

まず、心理学の研究法について、グループで体験的に学びます。そして、社会心理学を中心とした最新の研究動向を参考に、各自で研究テーマを決定し、調査を実践していきます。

行動や政策についての経済学的研究 ■担当教員…鈴木浩孝 准教授

消費者や企業にとっての合理的行動をベースに、社会にとって望ましい状態を実現するためのルールや産業政策について、経済学の見地から客観的に考えていきます。

経営・マーケティング戦略の研究 ■担当教員…森山一郎 准教授

文献研究、事例の検討・討議、論文作成等を通じて、市場創造のための基本的な考え方と実践方法を学びます。また地域企業との接点を持つことで、日々変化する市場のなかでより具体的に思考する力を養います。

経済史・産業史から現代を見る ■担当教員…四方田雅史 准教授

経済学・経営学の基本的な考え方を学ぶとともに、これまで経済・産業・企業がどのような変遷をたどり、その背景にある経済・経営的要因について分析し、討論します。

中山間地域についての社会学的研究 ■担当教員…船戸修一 講師

ゼミでは、まずフィールドワークを通して中山間地域(農山村社会)の現状や課題を社会学的に把握することを学びます。そして各自で研究テーマを設定し、入念な現地調査をしたうえで、中山間地域を社会学的に分析します。



STUDENT'S VOICES

学生達からのメッセージ



STUDENT'S VOICES

学生達からのメッセージ



“好きなこと”を客観的な視点
で学んでいく楽しさ。

小学生の頃から宝塚歌劇に夢中になり、観て楽しむだけでなくつくる側になりたいと考え演劇関係の仕事に就くために、芸術を支える人材を育む芸術文化学科を志望しました。ミュージカル・文楽・歌舞伎に至るまで多様な演劇に触れ、演劇史、劇場運営の方法など演劇の周辺分野まで学ぶことができます。学んだ理論を実践する場も多く、プロの方々に交じって活動する有意義な体験もできました。第一線で活躍されている先生方との距離も近く、親身な指導を受けられます。地域と芸術の関わりを学び、演劇をテーマにしたまちづくりにも興味が広がり、さらに深く学んでいきたいと思っています。

杉山拓哉 SUGIYAMA Takuya

芸術文化学科3年 静岡県国高校出身

自分からアプローチする
ことで広がっていく、
学びの可能性。

様々な視点で芸術に向き合うことができるのが芸術文化学科の魅力です。バラエティに富んだカリキュラムとなっており、カリキュラムに応じて自身の視野を広げることが可能となっています。私は今後、政策学の視点から学んでいきたいと考えています。

また、講義の他にも学生が中心となって企画・運営しているプロジェクトも数多くあり、実践を通して学ぶことができるという点も魅力の1つです。自分から動き出せばいくらでもやりたいことが見つかる、それがSUACです。

瀧田直人 TAKITA Naoto

芸術文化学科2年 栃木県立矢板東高校出身

型にはめず可能性を広げて
くれる、柔軟な学びの場。

芸術と社会のつながりに関心があり、政治的な背景や規制の中でどう根づいて来たのかを興味深く学んでいます。ここでの学びは型にはめるのではなく、「その考え方もいいね」と受けとめてもらえる環境があります。文化や芸術は正しい正しくないという基準で判断するものではないことを理解することができました。学科の学生と先生方とで行く研修旅行「芸文旅行」には幹事長として参加。先生方の協力を得て他の美術大学を訪問したり、文化施設の裏側を見学したりという企画を立て、楽しみながら文化を学ぶ貴重な経験ができました。学生同士の学年を越えたつながりが生まれたことも有意義だったことのひとつです。

小林千沙都 KOBAYASHI Chisato

芸術文化学科3年 茨城県立水戸第二高校出身

[文化政策学部] 定員50名

芸術文化学科

Department of Art Management

今日の社会における芸術の可能性を求めて

複数形の「Arts」で表記される今日の芸術。音楽、演劇、絵画、映像など単体で表現することもあれば、複数のジャンルがコラボレートして、新しい芸術ジャンルを生み出すこともあります。芸術が社会でその力を発揮するためには、芸術が市民に受け入れられなくてはなりません。芸術を生み出す芸術家の他にも、芸術を学問的に研究する人、美術館や劇場など芸術組織の運営に携わる人や、より広い視点から政治や経済の仕組みを考える人などが必要となります。

芸術文化学科では、多角的な視野に立ち芸術と芸術を支える社会システムの両面を理解し、多様な分野で芸術の持つ力を社会に活かすことのできる人材を養成します。



人文科学と社会科学を多角的に学ぶ充実したカリキュラム

芸術文化学科は芸術や文化について多角的に学ぶことができる学科です。芸術を主専攻としながらも政治・経済・経営・法律等についても十分な理解を持とうとする学生、芸術について深い知識を持ちつつ社会科学の専門知識を駆使できるアートマネージャーや官民の政策プランナー等を志望する学生などを求めています。芸術文化学科のプログラムは2010年には芸術経営教育者協会 (Association of Arts Administration Educators, AAAE) に正会員として加盟し、グローバルな視点からも通用するよう教育の更なる充実をはかっています。



芸術、文化を理解する

多様な芸術、文化のありようについて学び、その諸相を探究します。歴史的認識の醸成と、最新の知識の取得によって、豊かな芸術、文化の内容を理解し、それらが現代に生きる私たちの感覚、意識をどのように形づくっているかを考えます。



芸術を社会科学の視点から学ぶ

人間の芸術活動を理解するためには、芸術作品や芸術家について理解するだけでは不十分です。芸術文化学科では、文化経済学等を基礎として、様々な制度・政策や国・自治体・企業等による支援、そして芸術組織等の経営について学びます。

芸術文化学科 2つの側面から多角的に 学ぶカリキュラム

芸術文化学科では「文化と芸術」「政策とマネジメント」というカリキュラムにおける2つの柱を設け、芸術や文化について人文科学と社会科学の両面から学びます。加えて、実践にも対応できる科目も開講し、理論と実践とのバランスのとれたカリキュラムを用意しております。入学定員50名に対し14名の専任教員を擁し、きめ細かい少人数教育を行います。

政策とマネジメント

- アートマネジメント
- 文化財保護政策
- 芸術文化政策の理論
- 芸術文化政策の国際比較
- 地域社会と芸術文化
- 現代社会と芸術文化
- 文化施設の管理と運営

芸術運営の 実践手法を学ぶ

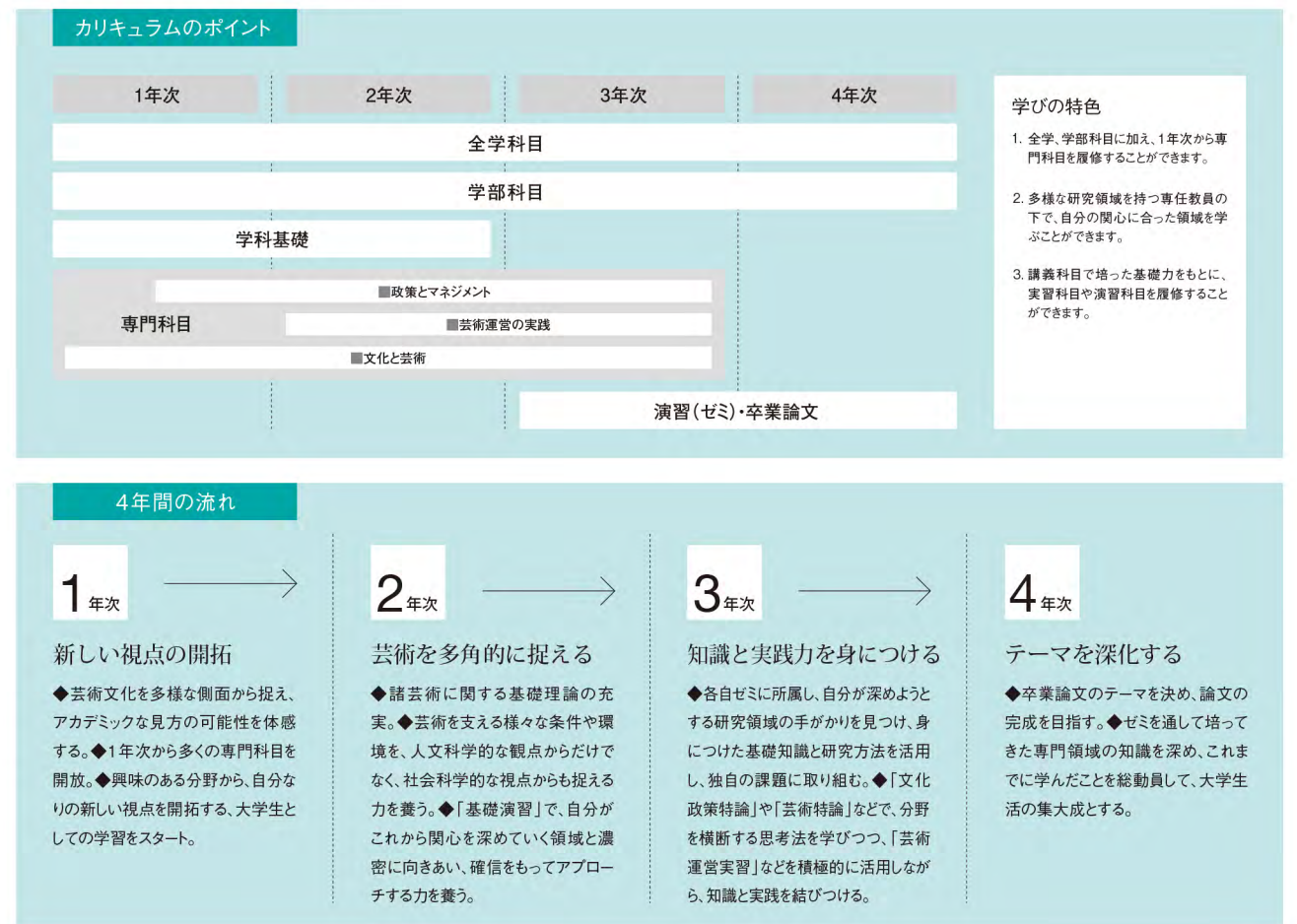
- 展示プロデュース論
- 保存と修復
- 舞台運営論
- 劇場プロデュース論

芸術文化学科での学びの基礎は、高等学校の「地歴公民」です。「地理」で学ぶ地域文化と「日本史」、「世界史」で学ぶ文化史を深めるのが、美術史、音楽史、演劇史等の科目です。「倫理」で学ぶ思想や哲学が美学につながり、「現代社会」、「政治経済」の学びが「政策とマネジメント」の科目群の基礎となります。

文化と芸術

- 文化と芸術
- 音楽史
- 演劇史
- 美術史 (西洋・日本・東洋)
- 現代芸術論
- 芸術特論
- 鑑賞と批評 (美術・造形)

芸術文化学科で学ぶ4年間



ピックアップ科目



現代美術論

■担当教員…谷川真美 ■開講年次…2年前期

この科目では、現代アートの最新の状況を紹介しつつ、美術がなぜ現在のように多様な表現をとるようになったのか、その経緯と背景について考察します。これまでの美術史の中で多くとりあげられてきた西洋の作品だけでなく、アジアや他の地域の作家の作品についても取り上げ、それらが現代美術の中で持つ意味についても考えます。



音楽史Ⅱ

■担当教員…奥中康人 ■開講年次…1年後期

近世日本には豊かな音楽文化がありました。しかし現在、そのような音楽はすっかり姿を消し、ほとんどの音楽は西洋音楽——ピアノやギターで演奏できる音楽——になりました。いったい、この150年の間に何が起ったのでしょうか。音楽史Ⅱでは、19世紀後半以降の日本における西洋音楽の歴史を概観することを通して、現代の音楽文化について考察します。

演劇史BⅡ

■担当教員…梅若彌彦 ■開講年次…1年後期

この授業では世阿弥の言う「本説」論から少し距離をおいた形で、脚本を履修者が書くに際して必ず問われる動機を、テーマから分離して、「複式夢幻」という時空間の扱いのみを軸とする「無テーマ」の脚本を書く事を推奨する授業です。

アートマネジメントⅢ

■担当教員…高島知佐子 ■開講年次…2年後期

芸術文化を取り巻く環境を多面的に学びます。芸術文化施設の運営や芸術家や団体への支援、それらの評価といった行政組織の抱える課題、企業のCSRを通じた芸術支援のあり方、社会と芸術文化を結びつける中間支援組織としてのNPOの役割など既存の方法や制度をやや批判的に考察していきます。さらにグループディスカッションや調査を通して、自らの批判を超える建設的な議論を展開することを目指しています。

ピックアップゼミ

ピックアップゼミ | 自治体文化政策、まちづくり、文化施設研究

京都視察、学会参加などを通じて、視野を拡げ、卒論作成と真剣に取り組んでいます。

松本茂章 教授 MATSUMOTO Shigeaki

政策とは現代社会をより良くする取り組みの集合体です。政策を考えるには、今まさに何が問題であるか、に気づくことが出発点になります。このため視察旅行に向いたり、他大学のゼミと交流したりしながら、視野を広めていきます。研究室で学んだ学生たちが将来、地域社会を牽引する人材に育つことを願いながら、日々の研究活動を続けています。

深津恵利佳 FUKATSU Erika・芸術文化学科3年

博物館に興味があり、松本研究室に入って調べていくうち、館内部の展示よりも館外環境に関心を持ち始めました。特に全国1014駅(2013年、国交省)に達した「道の駅」は博物館機能やイベント空間も備え、文化施設としても注目されます。「道の駅」で繰り広げられる芸術文化を生かした地域振興の新しい形を調査研究しています。



ピックアップゼミ | ヨーロッパ美術史、文化成立論

西洋美術と社会との関わりの中でテーマを捉え、考察・発表を繰り返しながら卒論研究を進めています。

立入正之 准教授 TACHIIRI Masayuki

芸術に関わる、特に芸術イベントをマネジメントする職業に就きたいという気概のある人材を、文化的芸術的感性を持った実務家として社会に送り出すことがひとつの使命だと考えます。もちろん芸術業界のみならず、企業社会や教育界でも学んだことを生かして、文化と芸術を通して社会貢献のできる人材となってほしいと思います。

吉松京介 YOSHIMATSU Kyosuke・芸術文化学科3年

「コーヒー文化と美術」をテーマに、近代アメリカの都市に重点を置きコーヒーが生み出す文化と社会との関係性について研究しています。学芸員経験のある先生の具体的なアドバイスにより、文献の調べ方、テーマへのアプローチの仕方などスキルを磨き、より深く学んでいます。



卒業論文テーマ紹介

卒業研究の成果を発表するため、毎年3月に論文の発表会を開催しています。2013年度は、9本の発表が行われました。卒業生も新年度入学予定の生徒も集まって、学びの集大成としています。

- バリ国際植民地博覧会(1931)を転換期としたバリ芸能の変容
- 文化の領域に見られる「平成の合併」の影響とその実態
—合併自治体における非中心地域の文化事業に焦点を当てて—
- 入院患者を対象とした芸術活動の現状
—多様な形態の類型化と全体像の把握—
- 21世紀の日本映画における非規範的な家族像
- プタの擬人化にみる人間との関係性

- ミッキー・マウス人気の変遷
—映画・パフォーマンス・受容—
- 《我が子を喰らうサトゥルヌス》について
- 劇場における人材育成について
—宝塚歌劇団の「スターシステム」に焦点をあてて—
- 異性装の効果
—『お気に召すまま』『十二夜』を題材として—

Topics 専門家の現場から学ぶ実践的な学習

＜学科基礎＞ 芸術表現

■ 担当教員…梅田英春



専門的な芸術表現の現場を体感する授業です。一流の芸術家のもとで、その学習や制作の実態に触れる機会としています。

＜芸術運営の実践＞ 劇場プロデュース論

■ 担当教員…永井聡子



アートマネジメントの根幹をなす劇場(ホール)プロデュースを、劇場見学や企画・制作の実践を通して劇場における諸問題を考察していきます。

学科研修旅行



講義で学んだ芸術やアートマネジメント、文化政策の知識をより深めるため、毎年夏の時期に学生の企画による学科研修旅行(任意参加)を実施し、修得した知識を実地で体験・見学する機会を設けています。

取得可能な資格

図書館司書

博物館学芸員

日本語教員養成課程

社会調査士

詳しくは70ページをご覧ください。▶▶▶

卒業生の主な進路

(抜粋)

文化財団・文化施設など

(公財)佐野美術館 四季(株)	(株)宝塚舞台 磐田市香りの博物館
(株)シグマコミュニケーションズ	(公財)豊橋文化振興財団
(公財)静岡県文化財団	(株)日本シアタースervice
(公財)静岡市文化振興財団	(公財)浜松市文化振興財団
(株)ステージ・グループ	(公財)横浜芸術文化振興財団
大東市立総合文化センター	

マスコミ・広告

(株)エイエイビー	静岡放送(株)
(株)キョードー東京	(株)テレビ山梨
(株)SBSプロモーション	浜松ケーブルテレビ(株)
(株)SBSメディアビジョン	(株)ビーエーシー
(株)静岡新聞社	

公務

静岡県庁(警察行政)	豊島区(行政・アートマネジメント担当)
静岡市(行政)	松本市(行政)
島田市(行政)	焼津市(行政)
田原市(行政)	

製造業

アスモ(株)	(株)スズキスポーツ
(株)アプライズ	(株)石舟庵
(株)おいもや	浜名湖電装(株)
オオセキ写真印刷(株)	矢崎総業(株)
スズキ(株)	(株)ヤタロー

金融・保険業

あいち中央農業協同組合	静岡県信用保証協会
遠州信用金庫	静銀ビジネスクリエイト(株)
掛川信用金庫	(株)清水銀行
JA遠州中央	日本生命保険相互会社
JA大井川	浜松信用金庫

ガス・運輸・旅行業

遠州鉄道(株)	鈴与(株)
しずてつジャストライン(株)	中部ガス(株)

卸売・小売業

天方産業(株)	(株)東急ハンズ
(株)安心堂	ネットヨタ静浜(株)
(株)コーエイ・アルファス	(株)ヤマハミュージック東海
資生堂販売(株)	(株)リカーマウンテン

サービス業

(株)アントレ・サン・フラッペ	(株)TEP
(株)出雲殿	デジタルハリウッド(株)
(医)澤記念会 神経科浜松病院	テレビ静岡システムクリエイツ(株)
(株)サンロフト	(株)電通ワークス
(一財)静岡県建築住宅 まちづくりセンター	(株)ドリムプラザ
(株)秀英予備校	浜松・東三河フェニックス ((株)フェニックスコミュニケーションズ)
(株)全国商店街支援センター	郵便局(株)
(公財)食品農薬品安全性評価センター	郵便事業(株)
(医)白梅会	(株)ラビアンローゼ

※分類は本学の区分によるものです。

※学生の学年表記は取材時(2013年度)のものです。

SUAC | 042

文化政策学部 教員紹介

国際文化学科

下澤 嶽 SHIMOSAWA Takashi

学科長／教授
国際協力／
NGO・NPO

国際協力、NGOやNPOの未来社会における役割、可能性について一緒に考えていきたいと思っています。

池上 重弘 IKEGAMI Shigehiro

教務部長／教授
文化人類学／
多文化共生論

日本や諸外国における多文化状況をめぐる政策や東南アジアの文化現象について研究しています。

横田 秀樹 YOKOTA Hideki

英語・中国語教育センター長／教授
心理言語学／英語教育

第二言語(外国語)習得のメカニズムを、理論言語学に基づいて調べています。また、外国語の学習方法についても研究しています。

石川 清子 ISHIKAWA Kiyoko

教授
フランス文学／
現代フランス文化

現代フランスの文学作品から派生する、移民、都市、女性などのさまざまな文化的側面をテーマに研究しています。

磯田 道史 ISODA Michifumi

教授
日本史／社会史

19世紀以後の日本近現代史が専門です。近代移行期の武士土族の研究や歴史地震津波の古文書も調査しています。

林 在圭 LIM Jaegyu

教授
韓国文化／韓国語

専門は韓国文化・韓国語で、特に日本や韓国の村落社会を対象とした伝統的・基層的な生活文化を研究しています。

岡田 建志 OKADA Takeshi

教授
東南アジア史

20世紀初めのベトナムの民族運動、および、オーストラリアのベトナム系住民のコミュニティについて研究しています。

鈴木 元子 SUZUKI Motoko

教授
英米文学／
アメリカ文化

アメリカ文学作品の中に文化的諸相を読み取ることに、特に人種と階級の観点からの読みを研究しています。

瀬戸 知也 SETO Tomoya

教授
教育学

教育問題(いじめや不登校等)や学校文化について、特に子どもたちの社会化や物語性の観点から研究しています。

永井 敦子 NAGAI Atsuko

教授
西洋史

近世フランスの都市文化を研究し、講義では西洋近代文明にもふれます。ゼミでは外国語文献を使って西洋の歴史と文化を考察します。

西田 かほる NISHIDA Kaoru

教授
日本史／文化史

日本近世史、特に宗教史・文化史が専門です。ゼミでは近世以降の史料読解を中心に、身近な歴史・文化・地域を考察していきます。

馬場 孝 BABA Takashi

教授
国際関係論

グローバル化の進展に伴う国際システムの変動や国民国家の構造変動などを研究しています。

美濃部 京子 MINOBE Kyoko

教授
イギリス口承文芸

英語で伝承された昔話や伝説などを研究しています。世界の類話の比較もしています。

イシカワエウニセアケミ ISHIKAWA Eunice Akemi

准教授
社会学／移民研究

越境して移動する人々(移民)の移住先における異文化体験とエスニシティについて研究しています。

Jack RYAN

准教授
英語教育

英語への好奇心を引き出し、国際社会で活躍できるよう育成すると共にコミュニケーション能力、読み書き能力の向上も支援します。

高木 邦子 TAKAGI Kuniko

准教授
教育心理学／
発達心理学

青年期の有能感の特徴と形成要因についての研究と、青年期の対人関係や職業選択要因についての研究をしています。

武田 好 TAKEDA Yoshimi

准教授
イタリア語／
イタリア文化

イタリアの文化と社会、政治の諸側面を「ことば」の視点から研究しています。創造力と多様性、生き抜く力がキーワードです。

徳増 克己 TOKUMASU Katsumi

准教授
中東北部と旧ソ連の境界地域史

主に「アゼルバイジャン人」等の民族形成の過程を研究しています。ゼミでは内外の文献を通して近代以降の中東について考えます。

二本松 康宏 NIHONMATSU Yasuhiro

准教授
日本文学／伝承文化

物語や伝説・信仰などが生まれる環境や風土の研究をしています。こだわりたいのはフィールドワークによる感動と実証です。

広瀬 英史 HIROSE Eishi

准教授
日本語学／
日本語教育

特に語彙研究をしています。その他、日本語教育、ことばの歴史的研究、広告や歌詞等の表現研究なども扱います。

溝口 紀子 MIZOGUCHI Noriko

准教授
スポーツ社会学／
スポーツ経営学

世界のスポーツ・インテリジェンス戦略、スポーツ文化について研究しています。

俞 嶸 YU Rong

准教授
中国経済／
開発経済学

主に「アゼルバイジャン人」等の民族形成の過程を研究しています。ゼミでは内外の文献を通して近代以降の中東について考えます。

崔 学松 CUI Xuesong

講師
中国社会学／
東アジア国際関係史

東アジア国際関係が円滑でない今日、多民族社会の中国など周辺地域とともに逞く生きる知恵について一緒に考えていきたいです。

Edward SARICH

特任講師
英語教育

学生が使える英語を修得できるような支援体制を整えています。学生自らの「やりたい」という気持ちをも大切にしています。

Steven J. MARTIN

特任講師
英語教育／社会学

“ことば”は世界を、私たちの社会を、そして私たち自身を理解するための道具です。一緒に“ことば”を使って考えていきましょう。

高瀬 奈美 TAKASE Nami

特任講師
英語教育

英語・中国語教育センターの企画・運営を通して、英語が学びやすく、親しみやすい環境を提供できるようにしています。

羅 沢宇 LUO Zeyu

特任講師
言語学／言語接触／
言語習得

第二言語が母語に与える影響を研究しています。中国語の学習を通して学生が母語の日本語と向き合う機会を持つよう支援します。

文化政策学科

森 俊太 MORI Shunta

学科長／教授
社会学／社会理論
調査法／社会変動

さまざまな社会問題や社会変化の原因、プロセス、影響などを、社会制度や文化を比較しながら研究しています。

根本 敏行 NEMOTO Toshiyuki

文化政策学部長／教授
都市経営／
環境マネジメント

都市や地域の歴史や風土を背景に、都市や地域の経営や政策、まちづくりの進め方などを研究しています。

赤井 朱美 AKAI Akemi

教授
社会保障法／生活保護法／
医療扶助／福祉関係法規／年金法

貧困、障害、難病、ワーキングプア等、生きる上で困難事情を抱える弱者(マイノリティ)の人権保障を研究しています。現実と法の乖離を一緒に勉強しましょう。

阿蘇 裕矢 ASO Yuya

教授
地域・環境計画論／
地域づくり論

都市や農山村を中心に、風土や文化、人と自然との共生の観点からまちづくりのあり方について研究しています。

田中 啓 TANAKA Hiraki

教授
行政学／
政策評価・行政評価

行政学、地域政策、公共サービスなどの領域から、特に地方行政財政や行政評価などの研究をしています。

野村 卓志 NOMURA Takashi

教授
情報アーキテクチャ

情報技術(IT)を活用して、より良い生活(=文化)を達成する社会システム(=政策)を考えましょう。

林 左和子 HAYASHI Sawako

教授
図書館情報学

公共図書館はなぜ無料か、の答えを探るために、外国の図書館史や図書館の子どもへのサービス研究テーマとしています。

米屋 武文 YONEYA Takafumi

教授
食文化論／
食品科学と産業／食と健康

すぐれた食文化を持った魅力ある街の創造を目指し、伝統食品の発掘や時代のニーズに合った食品の開発研究を行っています。

加藤 裕治 KATO Yuji

准教授
文化社会学／
メディア論

メディアを通して形成される文化が社会に与える影響について、マスメディアの歴史的研究の立場から考察しています。

小杉 大輔 KOSUGI Daisuke

准教授
心理学

人間が社会の中で、何をどのように感じ、考え、行動し、発達することによって、心理学的に研究しています。

鈴木 浩孝 SUZUKI Hirotaka

准教授
経済学／
産業組織論

寡占市場における企業間の競争、特に戦略的相互依存関係や取引制限について、経済学的に研究しています。

森山 一郎 MORIYAMA Ichiro

准教授
経営学／
マーケティング論

製造業や小売業のマーケティング戦略について研究しています。これからの市場創造のあり方について地域における可能性を研究していきます。

四方田 雅史 YOMODA Masafumi

准教授
社会経済史／
産業史

日本やアジアに存在する産業やその産地が現在の状況に至った過程や原因について、戦前まで歴史を遡って研究しています。

船戸 修一 FUNATO Shuichi

講師
社会学／地域社会学

現在、「中山間地域(農山村社会)」は様々な問題を抱えています。こうした問題を「社会学」の立場から研究しています。

芸術文化学科

谷川 真美 TANIGAWA Mami

学科長／教授
現代美術／
芸術学

現代、美術、わたしたちの関係について、社会、思想的側面をはじめ、様々な視点から探っています。

高田 和文 TAKADA Kazufumi

副学長／文化・芸術
研究センター長／教授
イタリア演劇／
イタリア文化史

専門はイタリア語・イタリア文化で、おもに演劇・オペラを中心とするイタリアの舞台芸術を研究しています。

片山 泰輔 KATAYAMA Taisuke

大学院文化政策
研究科長／教授
芸術文化政策／
財政・公共経済

人びとが芸術を楽しむ、創造的で活力ある社会をつくるために、行政の役割や、社会の仕組みを研究しています。

片桐 弥生 KATAGIRI Yayoi

学生部長／教授
日本美術史

私たちの祖先が創り出してきた美術作品には何が求められていたのか、その歴史的な位置づけを明らかにしつつ、さぐっています。

梅田 英春 UMEMEDA Hideharu

教授
音楽学

アジア各地の音楽を研究しています。授業では、普段聞き慣れない音楽を通して、音楽と社会の関係について考えます。

梅若 猶彦 UMEWAKA Naohiko

教授
日本古典芸能／
身体哲学

専門は身体文化、能楽。ゼミでは現代劇の脚本・演出・演技の指導をしています。

小針 由紀隆 KOHARI Yukitaka

教授
博物館学／
博物館運営

西洋美術史(イタリア中心)と博物館学を専門にしています。「博物館学芸員」の資格取得にかかわる指導も行います。

松本 茂章 MATSUMOTO Shigekaki

教授
自治体文化政策／
まちづくり政策

官民協働や地域ガバナンス(共治)の視点から自治体文化政策を研究しており、全国の芸術創造拠点を訪ね歩いています。

奥中 康人 OKUNAKA Yasuto

准教授
音楽学

専門は近現代日本の音楽史。とくに日本に外国音楽が流入することによって、心理学的に変容や土着化現象について研究しています。

立入 正之 TACHIIRI Masayuki

准教授
西洋美術史

ミレー、バルビゾン派などのフランス近代絵画と、歴史や社会そして文化の脈絡における美術の役割を研究しています。

永井 聡子 NAGAI Satoko

准教授
演劇・ミュージカル／
劇場プロデュース

感動とは何か、舞台作品そのものにおける探求と劇場運営との関わりについて地域における可能性を研究していきます。

上山 典子 KAMIYAMA Noriko

講師
音楽学(西洋音楽史)

専門は西洋の音楽史や文化研究で、音楽が社会のなかでどのように生み出され、受容されていくのに関心があります。

高島 知佐子 TAKASHIMA Chisako

講師
アートマネジメント

文化芸術団体はどうやって活動を継続、発展させていくのか。活動を担う人々、それを支える組織や産業に着目し研究をしています。

中村 美帆 NAKAMURA Miho

講師
文化政策と制度／
文化資源学／文化経営学

多様な文化の豊かさを尊重し、社会の中で活かしていくための制度の在り方について、研究しています。

デザイン学部

Faculty of Design

デザイン学科 定員100名

Department of Design

ユニバーサルデザインを基本に、 使う人の立場に立った提案を

時代と共に変化する人間や文化の多様性を視野に入れながら、ユニバーサルデザインの理念のもと、デザインによって誰もが快適に生活できる環境を提案し、社会の発展と文化の向上に貢献するために、国際的に活躍できる能力を養い、生活文化と技術、環境との調和のとれた関係を、美的感覚を持ってつくりあげていくことのできる人材を育てます。

また、デザインを通して、人と人、人と技術、人と環境、人と情報とのより良い関係を考え、これからの人間社会に必要な生活文化を創造していくためのデザイン活動に必要な素養を磨いていきます。



デザイン学部を3学科から1学科に再編

変化が激しい社会状況に対応するために、総合的なデザイン力が求められています。この社会の要請に応えるために、デザイン学部はこれまでの3学科を1学科に統合し、柔軟かつ分野を越えた融合が可能な教育の場に生まれ変わります。

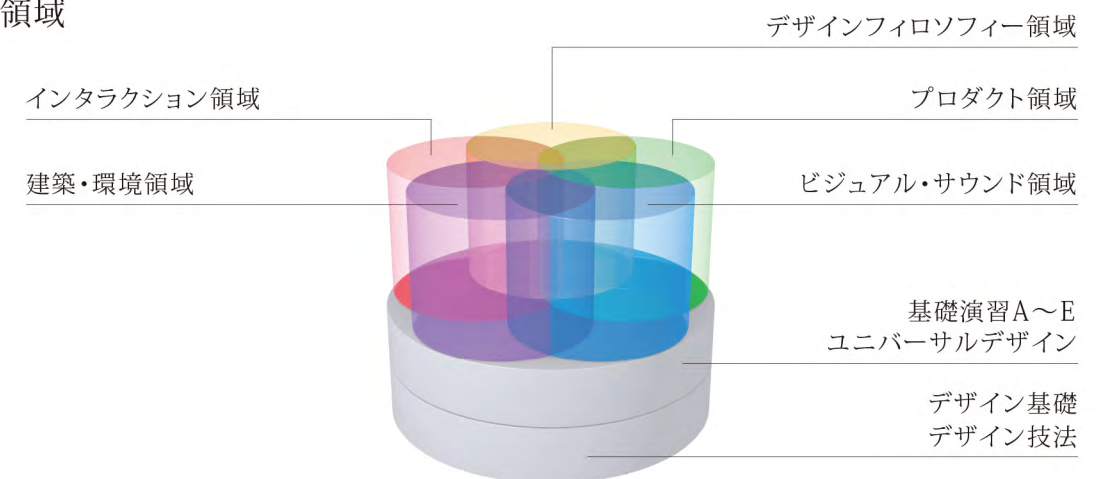
1・2年次には基礎知識や技法を学び、広いデザイン世界の様相を理解したうえで、専門分野を選択し、演習での実践を通じて専門性を鍛えていくことが可能となります。これにより、専門分野での見識を持ちながら、他のデザイン分野をも理解し、総合的なデザインマネジメントができる人材を育成していきます。



1学科5領域の教育体制

デザイン学科では、1年次から2年次前期までに幅広くデザインの現況、歴史、技法、素材の特性など、全てのデザイナーにとって必要な要素を学びます。その後、5つの領域から専門とする分野を選択して深く学んでいきます。5つの領域は、広いデザイン世界の中の主な柱となる分野を選びだし、設置します。領域選択後でも、他領域と融合した作品制作や研究なども可能で、思索の範囲は狭まりません。現代社会で生きるデザイン力を身につけることのできる教育体制となっています。

5つの領域



デザイン学科での学び

■社会でのデザインの役割を考える

デザイナーとしての基礎となる色彩やデッサン、デザインを取りまく文化や歴史、社会でのデザインが果たす役割を学び、「デザインする」ことを多角的に理解した上で、より良いデザインの提案やそのためのスキルを習得していきます。

■造形基礎力→

応用的造形技法の習得というステップを重視

デザイン共通科目として、専門の学びの前にさまざまな素材、加工法など、技術の基本を広く学びます。これらの実践的な知識があつてこそ、新しく機能的な提案を生み出すことができます。「表現技法Ⅰ・Ⅱ」、「立体造形Ⅰ・Ⅱ」では、デザイナーの創造を支える、モノを見る力、成り立ちを理解する力を養います。

■充実した工房群で自由な創作活動

自動車のデザインを体系的に学べるクレイモデル室、塗装乾燥室、撮影スタジオや木材・金属・プラスチック・ガラス等各種素材を学べる一般工房。またはCG制作、デジタル合成などを行うグラフィックWS室やCG工房、CAD・CAMを使ったデザインのための3Dプリンターを備えたCAMモデル室など、情報系工房を取り揃えた多彩な工房群とともに過ごす4年間は、創造の力を伸ばすのに絶好の環境です。

5つの領域で専門性を磨く

デザインフィロソフィー領域

歴史・UD・理論・デザインマネジメント等の幅広いデザイン基礎を学び、多様化するデザインの様々な分野に貢献する人材を育成します。

プロダクト領域

社会の変化や生活者の視点を軸に、実践的な手法によりプロダクトデザインの可能性を研究・提案し、将来の心豊かな暮らしに繋がる新しい価値を創造する人材を育成します。

ビジュアル・サウンド領域

映像・グラフィック・サウンドなどのメディアを駆使して、視覚・聴覚・身体感覚などに訴え、時代のニーズに応える独創的で付加価値の高いデザインを創造する人材を育成します。

建築・環境領域

建築を中心に幅広い設計の応用力を養い、環境に配慮したサステナブルで「人が心地よい生活空間」を創造する人材を育成します。

インタラクション領域

デザイン思考に基づき、多様化するデザイン分野にまたがる知識を融合・協働させることで、個人と社会を結びつける新たな体験型のモノやコトを創造する人材を育成します。



基礎教育から進路までのイメージ

1年前期 1年後期 2年前期 2年後期 3年前期 3年後期 4年前期 4年後期

基礎的な学び

■デザイン基礎

社会が求める統合的かつ多様なデザイン力を涵養するため、幅広いデザイン領域に共通する概念や理論の修得および現代のデザインへ繋がる歴史やデザインをとりまく社会等に関する知識の修得、国際的なデザイン活動を支える基礎力の修得を目指す科目群。

■デザイン技法

豊かな感性と想像力を備えたデザイナーとして社会で活躍するために、考えたアイデアを平面や立体に的確に表現することで、デザイナーに必要とされる顧客や社会とのコミュニケーションを図る手法を学ぶとともに、新たなアイデアの創造につながるデザインの基礎から応用にわたる造形技法を修得するための科目群。

■ユニバーサルデザイン

本学のデザイン教育・デザイン研究の基調となる、文化・能力・年齢・性別等の違いに関わらず全ての人にやさしいユニバーサルデザイン、あらゆる立場の人を含むインクルーシブデザインの考え方を理解し、社会の中で幅広く実践できる能力を養う科目群。

■学科専門

1年次後期から2年次前期において、複数領域の基礎演習を体験することを通じて専門的な知識や造形技法を修得し、デザインを総合的に捉え、実践できる力を養う科目群。

■学科専門

基礎演習A=デザインフィロソフィー領域	基礎演習D=建築・環境領域	左記の基礎演習A～Eの内3つを選択
基礎演習B=プロダクト領域	基礎演習E=インタラクション領域	
基礎演習C=ビジュアル・サウンド領域		

幅広いデザイン知識と技術の習得

1年生から2年生の前期までの期間、デザイン共通科目の3つのカテゴリー①デザイン基礎・②デザイン技法・③ユニバーサルデザインから幅広くデザインについて学びます。さらに、複数領域の基礎演習の体験を通して、社会の変化に対応できる柔軟なデザイン思考力を養います。

希望と適性に基づく領域の選択

デザインの基礎を身につけてデザイン分野の幅広い進路を理解した後、ひとり一人の学生の興味と希望を尊重しつつ、学業成績に基づいた適性判断や卒業後の進路などについて教員と相談しながら、2年後期に所属するデザイン専門領域を選択していきます。

希望を提出し、領域を選択

専門的な学び

デザインフィロソフィー領域

プロダクト領域

ビジュアル・サウンド領域

建築・環境領域

インタラクション領域

卒業研究・制作とゼミについて

3年後期からそれぞれの領域内でさらに担当教員（ゼミ）を選択し、卒業研究・制作につながる専門分野の知識や技能を深化させます。

領域にまたがる専門的な学び

各領域の専門的な学びに繋がる多様な科目が学科専門として配置されています。学科専門科目は領域ごとの区分が設けられていますので、選択した領域や領域担当教員の科目だけでなく、多くの専門科目から興味や志望に合った科目を選択して履修することができます。

多様な活躍の場

現代の社会状況にあって、デザインを総合的に捉える力を専門分野での実践で活かす場は大きく拡がっています。各分野のデザイナーを始め、企業や官公庁など、4年間の学びで培われた力を活かすことのできる、多様な活躍の場が待っています。

進路（例）

- プロダクトデザイナー
- Webデザイナー
- エディトリアルデザイナー
- グラフィックデザイナー
- ゲームデザイナー
- インターフェイスデザイナー
- クラフトデザイナー
- 商品企画
- デザインディレクター
- パッケージデザイナー
- CGデザイナー
- 家具デザイナー
- インテリアプランナー
- 一級・二級建築士
- 商業施設士
- 公務員
- 大学院進学

デザインフィロソフィー領域

Design Philosophy

デザインとは何かを考える

デザインの基本は考えることです。そこでは芸術的感性だけでなく、歴史・文化・科学の知識も忘れてはなりません。身近な暮らしや社会の中に問題を発見し、どのようなモノやコトがあれば解決できるのかを論理的、実証的にトータルに考えます。そして、様々な知恵やパワーを結びあわせ、解決策の実現をめざします。そのプロセスを通じて、新たなデザイン論や方法論の構築や体系化も図られます。デザインフィロソフィー領域では、他の専門領域等とも連携しながら、主に次のような分野についての学習・研究をしていきます。

■ デザイン論、デザイン史

デザインの専門性やプロフェッション、デザインの運動性と社会性、近代・現代のデザインの歴史、技術・芸術・産業・文化とデザインなど

■ 社会デザイン、地域デザイン

ソーシャルビジネスや社会システム、コミュニティのデザイン、地域の産業活性化やまちづくりのデザイン、地域連携やコミュニケーションのデザイン展開など

■ 人間中心デザイン、デザイン方法論

人間工学に基づくデザイン、ヒューマンインターフェイスやフィッティングのデザイン、ユニバーサルデザイン、デジタルモデリング手法など

■ デザインマネジメント、プロモーション

トータルデザインのプロセスやシステム、企業や商品のブランドデザイン戦略、デザインマーケティング、セールスプロモーションなど



ピックアップ科目

デザイン史 I・II

■担当教員…天内大樹
■開講年次…1年次前期・2年次前期

産業革命以降の近代デザインの理論や作品、デザイナーやムーブメントの変遷について学びます。生産・消費の拡大とデザイン活動の関係やイノベーションとデザイン、デザイン職能の展開なども検討し、これからのデザインのあり方を考える契機となるでしょう。



くらしのデザイン

■担当教員…永山広樹 ■開講年次…2年次後期

快適性や豊かさを与えてくれるデザインは、くらしの中に存在している様々な不満・不足・願望についての解決策を求め、形態やシステムとして現れた結果です。くらしのデザインは、生活とデザインの関係性を過去から現在までの製品事例や事柄などからデザインとは何かを探ります。



地域産業デザイン論

■担当教員…黒田宏治 ■開講年次…2年次後期

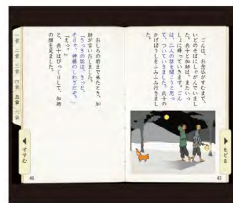
ケーススタディを中心に、地域資源を活用した地域デザインの方法やプロセス、地域振興におけるデザインの意義や可能性などを学びます。また、近年重要性の増すソーシャルデザインや起業のシステム、コミュニティビジネス、地域ブランド展開などにも視野を広げます。



インターフェイスデザイン I・II

■担当教員…宮田圭介 ■開講年次…2年次後期・3年次前期

スマートフォンやタブレットPCをはじめとする情報機器では、操作の分かりにくいものが多い。なぜ、使いにくいのか、どうすれば使いやすくなるのか、具体的な事例を取り上げながら、グラフィックユーザーインターフェイスやWebサイト制作などの情報デザイン手法の基礎を修得します。



プロダクト領域

Product Design

社会の変化や生活者の視点を軸に、実践的な演習を通してプロダクトデザインの可能性を研究・提案し、将来の心豊かな暮らしに繋がる新しい価値を創造する人材を育成していきます。

プロダクト領域の教育ポリシー

プロダクトデザインとは、より良い社会・心豊かな暮らしのために人々の生活と環境を見据えて、新しい、魅力ある価値を持ったモノやコトを創出し、産業を通して具現化することです。

環境問題・少子高齢化・技術の進歩など変化の激しい現代社会において、デザインを学ぶ者には、世界を見渡す視野と時代の要請に対する敏感さが求められます。

一方、人とモノの関係性や、社会と生活の基本となる価値観は普遍的なものであり、心の機微を捉える感性をもって、変わることのないデザインの本質を学ぶことが大切です。さらに、これら包括して新たな発見や提案を具現化する表現力と造形力、わかりやすくプレゼンテーションできるコミュニケーション能力も必要です。

プロダクト領域は、学生の皆さんに、各種工房を活用してものづくりができる環境と、ユニバーサルデザイン・人間工学・ライフスタイル・マーケティング・マネジメントなどの視点から、多様な授業・演習やさまざまな活動を通してデザインを考える機会を提供し、社会・産業界で活躍する人材を輩出します。



ピックアップ科目

ものづくりのシステム

■担当教員…峯 郁郎 ■開講年次…3年次前期

社会生活に欠かせない「もの」の意味、価値を「ものづくり」という視点で、プロセスや取り組み方などを多角的に考察し学習します。大企業のみならず、中小も含めた産業の成り立ち、企業のあり方などを、歴史的にその営みの変遷をたどり、客観的にどのような流れになっているのかという仕組みを知ることと同時に、どのような意思を込めてものづくりをするのか?その意図をいかに一気通貫させて人々に届けるのか等を考えます。

プロダクトデザイン演習 I・IIa・IIb

■担当教員…高山靖子 他 ■開講年次…2年次前期、後期

プロダクトデザインにおけるデザイン開発の基本プロセスについて市場調査、コンセプト開発、アイデア展開、およびモデル製作からプレゼンテーションに至る一連のプロセスと、そのために必要な知識とスキルを体験学習し、コンセプトをデザインに表現する可視化力と表現力を身につけます。演習で取り上げるアイテムとしては、比較的小型の手で持って使用する道具から、人間が乗れるようなサイズや設備的なモノまで取り組みます。



ビジュアル・サウンド領域

Audio and Visual Communications

情報技術とデザインを融合させた新しい分野の技術を駆使しながら、時代のニーズに応える独創的で付加価値の高いデザインを生み出せる人材を育成していきます。

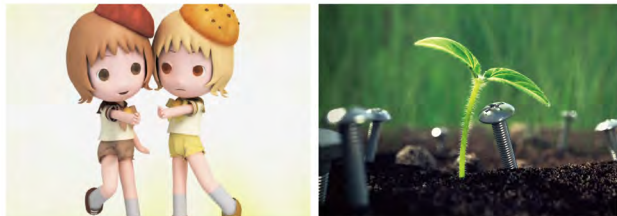
グラフィックデザイン

視覚化された情報やメディアは多様であり、私たちの生活に欠かせません。CI・VI・パッケージ・エディトリアルなどグラフィックデザインの技術や表現方法だけでなく、各種のメディアの知識や技術、感性を生かした創造活動やビジュアルコミュニケーションデザインも学びます。



映像デザイン

現代のメディアデザインの中核を成す、映像制作のための様々な手法を体系的に学びます。アニメーションの基礎からコンピュータグラフィックスや実写撮影、画像合成など、多彩な映像作成技法の実習をととして、ユニークで質の高い映像コンテンツを生み出す表現力を養います。



インタラクティブデザイン

ビジュアル・サウンドなどのコンテンツを、人間や外界からの働きかけにリアルタイムに反応して生成する関係性を構築するプログラミングを学びます。具体的な作品として、ゲーム、科学館展示、インスタレーション(体験型造形)、メディアパフォーマンスなどの実現を目指します。



ピックアップ科目

■ インダストリアルグラフィックス

■担当教員…佐井国夫 他 ■開講年次…3年次後期

都市空間の中のサインや看板などに書かれている文字標識やマークの扱い方、工業製品であるパッケージ、バイク、電車、スポーツ関連機器などの色、文字、模様デザインを紹介・解説した上で、それらの社会的背景や文化、時代などを比較・考察します。それにより、プロダクトから建築、都市空間までの生活環境に及ぶグラフィック領域と諸分野と密接な関わりを理解し考察する力を身につけます。



■ アニメーション基礎

■担当教員…古田祐司 ■開講年次…1年次後期

アニメーションという言葉は、ラテン語の<ANIMA=生命>に由来します。<動き>によってモノに命を吹き込むことがアニメーションの核心です。この授業ではこうしたアニメーション表現の基本原則を、手描きやコマ撮りアニメの実習によって体系的に学習していきます。



建築・環境領域

Architecture and Environment

建築を中心に幅広い設計の応用力を養い、環境に配慮したサステナブルで「人が心地よい生活空間」を創造する人材を育成していきます。

領域とデザイン理念

一般的に“建築”という言葉は個々の建物(たてもの)を指すものと思われていますが、本来、“建築”は、人々が安心して生活できる空間をつくり出すための様々な工夫や行為、また、そこから生み出される空間や環境などの全てを含む幅広い概念です。

広い意味での“建築”という概念にもとづいた「都市・ランドスケープ空間」、「建築空間」の空間領域を対象として設定し、それに対して、ユニバーサルデザイン、エコデザイン、エンジニアリング・デザインなどのデザイン理念を重ね合わせることで、社会が求める様々なニーズに対応した空間デザインを追求しています。

建築士受験資格などの各種資格の取得が可能

国の建築士受験資格認定学科として、一級・二級建築士、木造建築士の受験資格に必要な専門科目が用意されています。

これらの科目を履修することにより二級建築士・木造建築士試験の受験資格が得られます。卒業後、実務経験2年または大学院にて2年の実務演習を加えることにより一級建築士の受験資格が得られます。

またこのほかにも商業施設士、色彩検定、カラーコーディネーターなどの資格も毎年多くの学生がチャレンジしています。



ピックアップ科目

■ ランドスケープ計画

■担当教員…寒川伸一 ■開講年次…2年次前期

21世紀は、ユニバーサルで多様性を持つ循環型の世界の在り方が問われています。自然と文化両面における指標である景観(ランドスケープ)の価値を正しく理解し、ランドスケープの基本的な考え方とランドスケープデザインの計画に関する方法論を通時的、共時的に学んでいきます。



■ 建築設計演習Ⅰ・Ⅱ

■担当教員…花澤信太郎 他
■開講年次…2年次後期～3年次前期

都市、建築、インテリア、地域環境、景観を対象として、単体の建築物から複合用途の施設まで、多様な用途の建築の設計に取り組みます。設計演習Ⅱでは完成作品について担当教員全員が講評をおこなうことにより、各分野とは異なる分野からの視点も学びます。



学生作品紹介

市内の小学校設計の演習課題。具体的敷地に同じ条件で設計しても、1つとして同じ作品はありません。作物を育てることを通して育ちを見つける、雨を集める屋根が象徴的な学校、木の下で過ごす生活が6年間の学びを彩る学校、地域の輪と学びの輪が絡みあう学校など、様々な学びの場が生まれます。



インタラクション領域

Interaction Design

デザイン思考に基づき、多様化するデザイン分野にまたがる知識を融合し、協働させることで、人とモノ、人と人、人と社会を結びつける新たな体験を創造できる人材を育成します。

広がるデザインの世界

近年、デザイン活動がカバーする領域は、新しい製品・サービスの開発や、新たな体験・経験の創出において重要となるインタラクションと呼ばれる分野に広がってきました。インタラクションデザインという言葉は、1980年代、アイコンとマウスで直観的に操作するコンピューターの開発がきっかけとなり、人と製品(モノ)のインタラクションを対象としたデザイン分野として名付けられたのが始まりとも言われています。その後、インタラクションデザインは、人とモノから、人と人、人と社会の関係も含むデザイン領域として発展してきました。

社会に貢献するデザイナー

今やデザインは、製品の外観やインターフェースはもちろん、子どもから高齢者まで誰もが安心・安全に使用でき、快適な時間を過ごすことのできる施設や空間の開発に欠かせないものとなっています。言わば、身のまわりの製品から公共施設や都市全体までデザインの対象領域は大きく広がっています。これからのデザインに求められる、人々の生活のなかで、いかに社会に貢献していけるかを考え、その答えを創造することのできるデザイナーを養成していきます。



ピックアップ科目

エンターテインメントデザイン

■担当教員…和田和美 他 ■開講年次…3年次前期

五感を刺激するエンターテインメントシステムを題材に、未来のコミュニケーションメディアのあり方を考察します。メディア・アート、映像、ゲーム、Web、広告、マンガ等のデザインの現場で展開する最新の事例を学び、エンターテインメントシステムを自ら創り出すためのフローチャート、シナリオ、コンテ等を制作し、提案します。

ゲームデザイン論

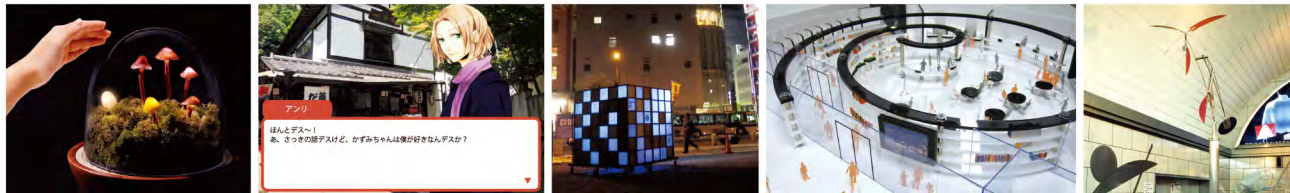
■担当教員…嶋ひろし 他 ■開講年次…2年次前期

人類が、長い歴史の中で発明し、改良してきた多様なゲームの中から、特徴的なものを選び、それらのルール、歴史、普及状況、社会への影響等について学習するとともに、ゲームに関連する様々な理論、科学に触れることにより、ゲームをデザインする能力と、ゲーム性を活用して魅力的なデザインを産み出す能力を身につけます。

スペースインタラクション演習

■担当教員…磯村克郎 他 ■開講年次…3年次前期

パブリックデザイン、商業環境デザイン、情報デザイン、パブリックアートなどにおけるインタラクションの事例から、公共と個人、ICTと空間、場所とメディア、都市と芸術などの相互作用を考察します。フィールドワークによって地域の課題を発見した上で、複数のデザイン領域(空間、メディア、プロダクト、エクスペリエンスなど)が融合した解決案を提案します。



取得可能な資格

詳しくは70ページをご覧ください。▶▶▶

建築士 受験資格 ※	商業施設士 受験資格 ※	インテリアプランナー登録資格 個別認定課程 ※
日本語教員養成課程	社会調査士 ※	※認可申請中

卒業生の主な進路

(抜粋)

製造業

アイリスオーヤマ(株)	アズマ工業(株)
(株)アツミテック	(株)アプライズ
いすゞ自動車(株)	(株)イトーキ
(株)エム・ケー・マエダ家具	エンケイ(株)
オオゼキ写真印刷(株)	オカモト(株)
カイ インダストリーズ(株)	柏木工(株)
(株)河合楽器製作所	キヤノン(株)
共和レザー(株)	起立木工(株)
(株)クボタ	(株)ケイ・ウノ
(株)小糸製作所	コクヨ(株)
サンスター文具(株)	サンワサプライ(株)
(株)システック	(株)シバックス・デスモシマ
シマノ(株)	シャープ(株)
(株)シャンソン化粧品	(株)杉山メディアサポート
スズキ(株)	(株)鈴木楽器製作所
スタンレー電気(株)	セイコーエプソン(株)
(株)ダイマツ	大洋(株)
(株)ツノダ	中部印刷(株)
デコラテックジャパン(株)	東芝テック(株)
TOTOバスクリイト(株)	(株)豊田自動織機
トヨタ車体(株)	(株)日本カラーエンジニアーズ
羽立工業(株)	林テレンプ(株)
(株)日立製作所	富士重工業(株)
富士ゼロックス(株)	ブラザー工業(株)
プラス(株)	ブリヂストンサイクル(株)
(株)本田技術研究所	(株)マキタ
マツダ(株)	三菱自動車工業(株)
メガロ化工(株)	矢崎化工(株)
(株)ヤタロー	(株)ヤマニパッケージ
ヤマハ(株)	ヤマハ発動機(株)
豊ハイテック(株)	レック(株)
ローランド ディー・ジー.(株)	

ハウジング・建設業

アサヒハウス工業(株)	(株)一条工務店
片瀬建設(株)	(株)空間工房 匠屋
(株)クラスト	KONOIKE Co.(株)
サーラ住宅(株)	住友林業(株)
(株)須山建設	セキスイハイム東海(株)
積水ハウス(株)	(株)大成住宅
大和ハウス工業(株)	(株)中村組

(株)日比谷花壇	(株)平成建設
丸西建設(株)	(株)ミサワホーム静岡
三井デザインテック(株)	三井ホーム(株)
良知樹園(株)	(株)レオパレス

卸売・小売業

アップルハウス((株)あぶち)	榎本(株)
(株)大塚家具	オルビス(株)
(株)カインズ	(株)カワシマ・ゴールド
シーラック(株)	シャディ(株)
(株)千趣会	(株)電器堂
日産プリンス静岡販売(株)	日豊資材(株)
ホダカ(株)	本多プラス(株)
マックスバリュ東海(株)	

金融・保険業

磐田商工会議所	JAとびあ浜松
日本生命保険(相)	焼津信用金庫

放送・広告業

(株)朝日メディアブレン	(株)エイエイビー
(株)クロステレビ	コスタ(株)
静岡エフエム放送(株)	(株)名古屋テレビ事業
(株)博報堂プロダクツ	(株)メディア東京

情報・専門サービス業

(株)アドウィル	(株)アレフ・ゼロ
(有)AIR FRAME	MGS照明設計事務所
オーエム計画(株)	(株)オープンスマイル
(株)オムニバス・ジャパン	(株)カブコン
(株)川口建築都市設計事務所	(株)京都アニメーション
(株)クレオ	(株)クロスデバイス
(株)コガ建築設計室	(株)SAVAWAY
(株)シーエムイー	(株)GKインダストリアルデザイン
(株)GKダイナミクス	(株)シーポイント
(株)ziba tokyo	スズキ教育ソフト(株)
(株)総合設計事務所	(株)ダッド
(株)TBSTライメディア	(株)テクノサイト
トランスコスモス(株)	(株)ナウハウス
(株)ナブラ	日本情報産業(株)

長谷守建築計画	(株)ビーエーワークス
ヒロノアソシエイツ一級建築士事務所	(株)フィルツ都市建築設計
(株)フジヤマ	(株)プレミアムエージェンシー
(株)プロフィット	ポリゴンマジック(株)
(株)マックスマウス	ヤマハモーターエンジニアリング(株)
(株)ユークス	(株)ランドマック
(株)ワイケーデザインリンク	

その他サービス業

(株)ジー・コミュニケーション	(公財)静岡市文化振興財団
(株)静岡新聞社	(株)teable
テクノリサーチ(株)	

公務

愛知県警察本部	愛知県公立学校教員
掛川市役所	航空自衛隊
静岡県警察本部	静岡市役所
豊橋市役所	浜松市役所
碧南市小学校教員	

大学院進学

慶応義塾大学	京都造形芸術大学
静岡大学	静岡文化芸術大学
首都大学東京	筑波大学
東京芸術大学	名古屋市立大学

※分類は本学の区分によるものです。

学生達からのメッセージ

STUDENT'S VOICES

暮らしが楽しくなる プロダクトデザインを目指す

ライフスタイルを変えるような、 説得力のあるものづくり。

ものを作ることが好きで、設備や学習環境が整っているSUACでプロダクトデザインを学びたいと入学。少人数の募集なので細やかな指導を期待していました。期待通り、第一線でデザイナー経験がある先生方から経験に基づく指導を受けることができました。課題の制作では、テーマ、コンセプトから実際の作品にするまでのプロセスが大事だと学びました。デザインするということは、ただカッコいいものを作るのではなく、どれだけライフスタイルにどこまで提案ができるかということ。説得力のあるものを作るためには、フィールドワークやデータの裏付けなども必要だと感じています。



人が楽しめる プロダクトデザインを。

エコデザインのワークショップに参加し、成長期の小学生の靴をリサイクルするシステムを提案。課題を解決することにプラスして楽しいものを作っていたい。自分が楽しんで作っていないと、使う人も楽しめないのではないかと思います。自転車やアウトドアグッズなど、自然と人をつなぐプロダクトデザインに興味があり、楽しいデザインを作りたいと思っています。



リサイクルでの分解効率を高め、環境負荷を抑えた小学生のための上履き「PROGRESS」。普及させるためのシステムもあわせて提案しました。

栗山大紀 KURIYAMA Taiki

(現)生産造形学科3年 愛知県立春日井高校出身

手仕事にこだわり 車のモデラーを目指す



ものづくりの基本 “スケッチ”の大切さ。

高校まで美術を専門的に学んだことはなく、数学での受験で入学しました。1・2年次では基礎を徹底的に学び、ガラスや木や鉄など素材の特性を実際に触って理解する授業も興味深く楽しみました。デッサンの授業は最初少し苦戦しましたが、物のカタチを把握する力がつき、作品制作のためのスケッチを描く力が身についたので頑張った甲斐があったと思っています。課題制作では、コンセプト決めに時間をかけます。カタチから入るのではなく機能あつてのカタチですから、コンセプトが定まっていれば制作物もぶれることなく作り上げられます。



生産造形学科の有志で開催したグループ展のための作品。車としていて、かつ大胆でカッコいい女性をイメージしたカーデザインです。

平面から立体へつくりあげる モデラーの仕事。

子どもの頃から好きだったカーデザインを学び、クレイモデルをつくる授業では2次元から立体に起こすことで面と面の関係性を理解することができました。将来は、車に関する仕事をしたいけれど、デザインを描くよりも手を使ってものを作りたいので、車のデザインを立体に起こすモデラーという仕事に興味を持ちました。モデラーを目指して、今はポートフォリオ制作に力を入れています。

鈴木瑠夏 SUZUKI Ruka

(現)生産造形学科3年 静岡県立磐田南高校出身

人にやさしい デザインを目指す

「何を伝えたいのか」「どうすれば伝わるのか」を考えて。

映像ゼミに在籍し2Dのアニメーションを制作しています。地道な作業ですが、時間をかけた分だけでき上がった時の達成感も大きくなります。卒業制作では、双子のシロクマの冒険物語をアニメーションで制作。テーマは家族、見た人にあたたかな気持ちになってもらえるものを作りたいと思っています。映画やCMに興味を感じて専攻した映像ゼミですが、何を作る場合でも、何を伝えたいのか、どうすれば伝わるのかが大事だと学び、そのことを心がけて制作しています。ゼミではそれぞれの制作物を批評し合い、1人で制作していたのでは気づかないことも、友人たちの目を通して客観的に確認できる有意義な時間です。



卒業制作のアニメーション「しろくま双子ボーとラーの冒険」。家族をテーマに、観た人にもほっこりしてもらえ作品を目指して制作しました。



デザイナーとしてスタートできる 基礎を身につけた4年間。

授業で知り興味を持った、ユーザーインターフェイスのデザイナーとして卒業後のキャリアをスタートさせる予定です。入社後は、人にやさしい製品作りをしていきたいと思っています。漠然とデザイン系の道に進みたいと志望した大学でしたが、ここでの4年間でデザインの基礎をしっかりと学び、企業デザイナーへの道を開くことができました。

及川史織 OIKAWA Shiori

(現)メディア造形学科4年 山梨県立甲府西高校出身

アナログとデジタルを 融合させた表現を目指す



多彩な表現手段をしばらずに 学べる、選択肢の幅広さ。

授業を通してWeb、インターフェイス、グラフィック、アプリ制作、CADとパソコン上でできるたくさんことに触れられます。オープンキャンパスに参加しカリキュラムや教授陣の多彩さにひかれて入学。興味があればどんなことでも幅広く学べるのがSUACの学びの特色です。表現手段がたくさんあるので、いろんな角度からやりたいことにアプローチでき、本当に自分の作りたいものが明確になってくるように思います。メディアアートやWebサイト制作など、パソコンを使うことによって広がる可能性に魅力を感じ、技術を貪欲に吸収しゼミでの研究につなげています。



東京デザイナーズウィーク2013セミグランプリ受賞「かおはなび」。顔が花火になったら面白いのではという発想を、プログラミングを応用して形に。伝わりやすさを考えインターフェイスにも時間をかけました。

アナログ的な感覚も 大切にしていきたい。

デジタル技術を使いながらもアナログな部分も大切にしたいと思い、手描きのアニメーションも取り入れるなど自分なりの表現方法を模索。個人でアートイベントに出展するなど、学外の活動にも積極的に取り組んでいます。東京デザイナーズウィークにも他分野を学ぶ学生とチームを組んで参加し、セミグランプリを獲得しました。自分自身の究極の理想は自給自足。自然食やライフスタイルへの興味を、創作活動にも活かしていきたいと思っています。

熊谷隼人 KUMAGAI Hayato

(現)メディア造形学科3年 新潟県立新発田高校出身

風土を知り、自然と暮らす家の 建築家を目指す

感性だけに頼らず、 ロジックで組み立ていく。

父親が内装関係の仕事をしているので、インテリアや空間デザインの仕事につながる勉強をしたいと思い空間デザインを学べる大学へ進みました。学ぶうち建築への興味が深まり、建築士を目指すようになりました。設計の仕事は、いろんな要素のロジックで組んでいくことだと思うので、感性に頼り過ぎてはいけません。作りたいものと必要とされている機能が矛盾なく整えば美しいものになる。設計のプロセスが豊かなら自然と良いものができると思います。今はまだ知識を身につける段階。面白い本を見つけては楽しみながら学んでいます。建築にかかわる歴史や地理など学ぶべきことは多く、4年では足りないと感じるほどです。



大学正面2階に通路を渡すという課題で制作。門の機能を失わないためにテンセグリティという構造を用いて設計しました。



土地を知り、自然を知ることで カタチが見える。

構造を学ぶゼミの課題で、水族館を考案中。階段をなくし、スロープで川の上流から河口～浅瀬～深海まで、高低差を活かした環境展示ができないかと考えています。建設地は浜名湖畔を想定。現地に行き気候や風土を知ること、建物の形も決まってくる。将来は地元岩手で友人たちの家を設計すること、デザイナーとして地域の活性化につながる活動を展開するのが夢。その目標に向かって貪欲に学んでいきます。

千田直矢 CHIDA Naoya

(現)空間造形学科3年 岩手県立不来方高校出身

人に夢を与える舞台美術の デザイナーを目指す



演劇空間をつくりあげる 面白さ。

テレビの中の美術に興味を持ち、空間デザインを学ぶためにSUACへ進学しました。様々な空間について学ぶ中で演劇空間に触れてとても興味がわき、芸術文化学科の演劇論の授業なども受講。インターンシップでも舞台関係の会社を選ぶほど夢中になっています。家を建てるのとは違い、舞台のセットでは、運搬しやすいのか、建てやすいのか、撤収しやすいのかということまで考えなければなりません。限られたスペース、時間で、与えられた情報をどう組み立てていくのか、自分なりの工夫ができることを面白く感じています。将来は、テレビ局や制作会社の美術スタッフとして働き、見ている人に夢を与える仕事をしていきたいと思っています。



3年生必修の「総合演習I」の課題で制作。ある音楽を感じる空間をテーマに、約1,200人収容できるライブハウスを設計しました。

刺激し合い、成長し合える環境。

デザイン学部には授業や制作のために教室が用意され、同じ目標を持った友人たちと密度の濃いつきあいができます。仲間と企画展を開催したり、コンペに挑戦したりと、活動的な友人たちの姿を見ると刺激を受け、自分もがんばろうという気持ちが奮い立ってきます。また、学友会に参加し他学部の友人と交流することで、広い視野から自分を見つめ直すことができたのもよい経験になりました。

森 美咲 MORI Misaki

(現)空間造形学科3年 愛知県立岩倉総合高校出身

Topics

サウンドスタジオ2012

地元有力企業の1つヤマハ株式会社の協力を得て、複数の大学のデザイン学科と合同で学生デザインワークショップを開催。テーマは「音と暮らす」。プロのデザイナー、エンジニアのレクチャーを交え、グループワーク、中間発表、個人ワーク・プレゼンテーションを経て学内ギャラリーにて作品展示を実施。2012年度はSUACを含む3大学の学部2・3年生16名が参加しました。



二輪デザイン公開講座

モーターサイクルの魅力を、若い人たちに伝えることを目的に、公益財団法人自動車技術会の後援を得て、国内二輪メーカー4社連携による公開講座を開催。スケッチやクレイモデリング等の技能を中心に、各社のデザイナー、モデラーが技術指導、SUACを含む全国のデザイン系大学生29名が参加しました。



自助具デザインプロジェクト(JDP)

「より美しくデザインされた自助具を地域の方々に提供しよう」という目的で誕生したボランティア組織。身体の不自由な方一人ひとりにあわせてデザインし、依頼者が納得いくまで調整。毎年、学内外の作品の展示会も行なっています。



TOKYO DESIGNERS WEEK

「TOKYO DESIGNERS WEEK」は、今年28年目を迎える都市型デザインイベントで、国内外の企業、デザイナー、大使館、団体、ギャラリーが作品や取り組みを発表してきました。本学からも「学校作品展」にデザイン学部の学生29名が混合グループで制作したグループ作品を出展。世界の54校の作品の中から選出され、多くの賞を受賞しました。



学生受賞作品紹介

Next Eco Design展 2013

主催：公益社団法人 日本インダストリアルデザイナー協会

●最優秀賞 「PROGRESS」

栗山大紀



第17回文房具アイデアコンテスト

主催：サンスター文具株式会社

●優秀賞 「シャップキャップ」

荒木千春



第3回学生コンペ 瀬戸グランドキャニオン

主催：(社)愛知建築士会

●最優秀賞

- ◆野村祥平 大山純矢 原田 翼 廣川純大 石川貴啓 石田坂健太 伊藤裕己 (大学院デザイン研究科)
- ◆寺田 隼 袴田啓紀 (デザイン学部)



富山デザインフェア2013 パッケージデザインコンペティション

主催：富山デザインフェア実行委員会、富山市

●奨励賞 「野菜クッキー Vegeco」

倉島志織



ナレッジキャピタル学生映像 アワード [BAKA-JA/2012]

主催：一般社団法人 ナレッジキャピタル、一般社団法人 グランフロント大阪TMO

●佳作 「whereabouts」

曾根光輝



美しいまちをつくる、 むらをつくる提案協議

主催：日本建築学会関東支部

●優秀賞

- 「みんなが輝く。まちも輝く新しい田園風景の提案」
- 片瀬翔子 堀井茜子 水野寛子



AAC ポスターコンペ 2013

主催：株式会社アーバネットコーポレーション

●入選

石澤真衣



第5回 タバコは健康を損なう： 動画CMコンテスト

主催：NPO法人 日本禁煙学会

●第3位入賞 「人生の分岐点」

神谷克麻



9坪ハウスコンペ

主催：コムデザイン

●佳作

- 「木と人と家がともに生きる9坪ハウス」
- 門奈清佳

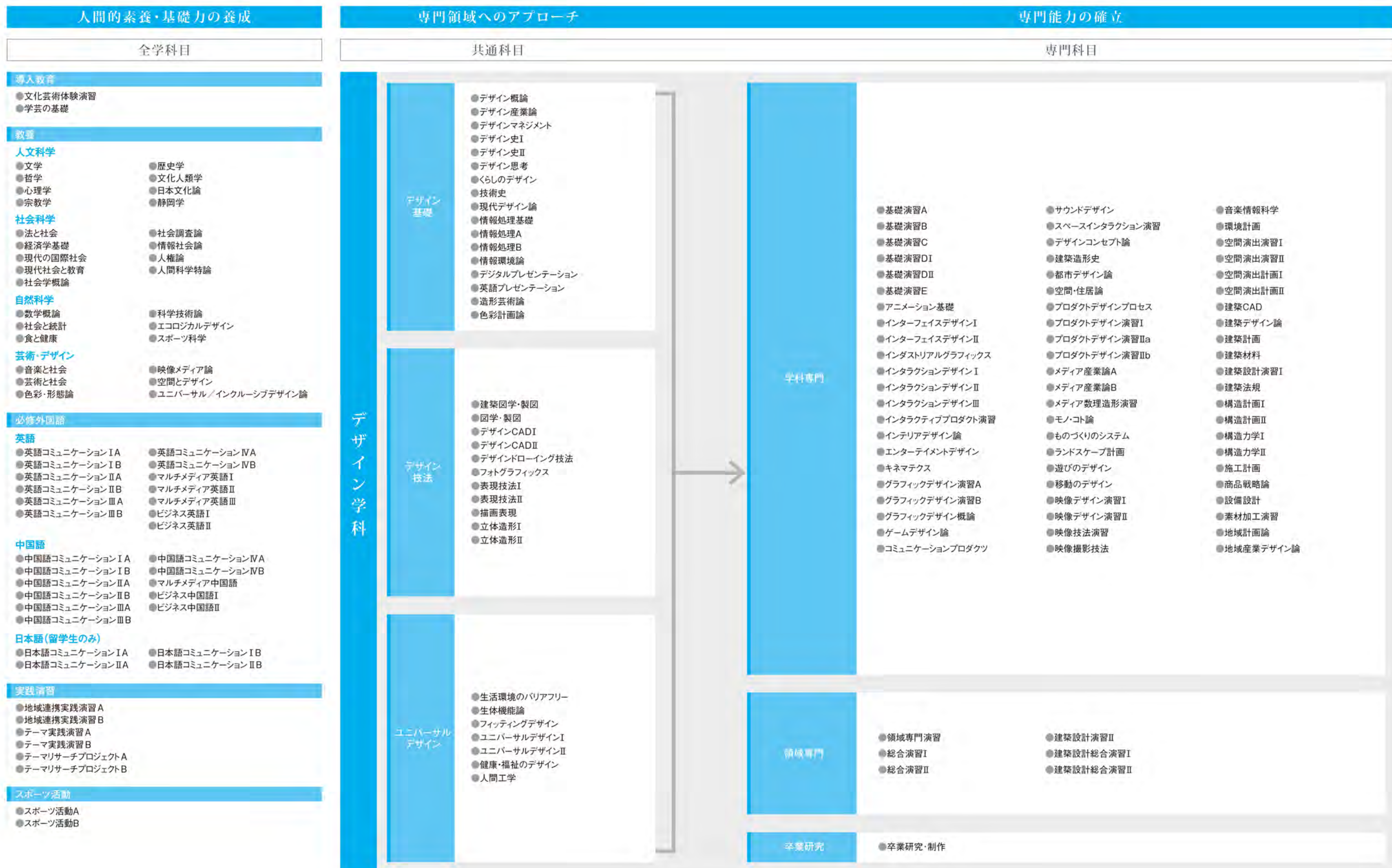


●松野賞

- 「mori 親子で創る新しいライフスタイル」
- 大山純也

デザイン学科

2015年度 カリキュラム一覧(予定)



デザイン学部 教員紹介

海野 敏夫 UNNO Toshio



デザイン学部長／教授
構造デザイン／
建築構造計画
造形物の持つ美的で
機能的な骨格を抽出し、
建築の構造デザイン・
構造計画の実践に
役立てたいと考えてい
ます。

宮田 圭介 MIYATA Keisuke



大学院デザイン
研究科長／教授
ヒューマンインター
フェイス
電話やメール、ビデオ、
カメラ、テレビなど全情
報が集まるスマートフォン
の操作デザインを共に
考えましょう。

黒田 宏治 KURODA Kohji



図書館・情報
センター長／教授
社会・地域デザイン／
デザインマネジメント
地域産業や社会システ
ムのデザインについて
研究しています。授業で
はデザインの社会性に
焦点をあてています。

望月 達也 MOCHIZUKI Tatsuya



進路部長／教授
CAD／CAM／
CAE
コンピュータによる3次元形状の
モデリングやレンダリングによる
バーチャルリアリティおよびそれら
のインターネットやWebへの展開
を回り、情報化社会におけるデ
ザインについて研究しています。

迫 秀樹 SAKO Hideki



教授
人間工学
体格や筋力、嗜好など
一人ひとり違う人間の
特性を捉える手法や、
それを活用したものづく
りを研究しています。

佐藤 聖徳 SATO Kiyonori



教授
プロダクトデザイン
人の五感をテーマに自然
科学を中心とした作品
制作を行い、プロダ
クトデザインに生かし
ていく研究を進めてい
ます。

田邊 英隆 TANABE Hidetaka



教授
プロダクトデザイン
デザインワーク全般から
基礎造形までを担当。
木工の家具や玩具
などの製作指導もし
ています。

谷川 憲司 TANIKAWA Kenji



教授
ユニバーサルデザイン
多様な特性を持つユー
ザーと向かい合い、物と
心の両面からのアプロ
ーチで真に共感できる
デザインを探求してい
きます。

的場 ひろし MATOBA Hiroshi



教授
メディアアート／
インタラクションデザイン
新しいテクノロジーを活
かしたアートの制作と、
システムの使いやすさ
や使う楽しさの向上の
研究を進めています。

峯 郁郎 MINE Ikuro



教授
デザインマーケティング
デザインの力を信じて
快適な暮らしに活かす。
利便性のみならず、心の
豊かさや楽しさの視点で
人と物と場の素敵な共
鳴を目指しています。

山本 一樹 YAMAMOTO Kazuki



教授
造形デザイン
金属を使った造形作品
を研究制作しています。
造形の基礎力をつける
デッサンや立体構成の
授業を担当しています。

小浜 朋子 OBAMA Tomoko



准教授
ユニバーサルデザイン
様々なユーザーの立場を
考えてデザインすると、
きっと豊かな気持ちに
なれると思います。ユニ
バーサルデザイン、ぜひ
一緒に深めましょう！

日比谷 憲彦 HIBIYA Norihiko



准教授
グラフィックデザイン
文字やシンボル、色彩
などのエレメントを平面・
立体・空間に展開し、ブ
ランドや施設のイメージ
形成を図る手法を研究
しています。

深田 てるみ FUKADA Terumi



准教授
建築デザイン／空間演出
建築歴史／意匠論
建築デザインと建築歴
史・意匠論が専門で
す。日本の住空間と芸
術文化との関わりにつ
いて追究しています。

和田 和美 WADA Kazumi



准教授
メディアアート／
Webデザイン
映像を中心に扱ったイ
ンスタレーションやウェ
ブサイト等、インタラク
ティブな空間を制作・研
究しています。

天内 大樹 AMANAI Daiki



講師
美術芸術学／
建築思想史
近現代日本の建築を
中心に、芸術や環境の
理論や歴史を整理し
ています。身の回りから
世界へ、空間を観察、読
解、創造しましょう。

伊豆 裕一 IZU Yuichi



教授
プロダクトデザイン
イノベーション創造を身
近にするデザイン思考
や、デザイナーの能力を
生かすデザインマネジ
メントをテーマに研究し
ています。

磯村 克郎 ISOMURA Katsuro



教授
パブリックデザイン
ストリートファニチャーか
ら街路まで、家具から建
築空間まで、公共の場
のデザインについてデ
ザインプロセス・造形・ラ
イフサイクルを研究し
ます。

寒竹 伸一 KANTAKE Shinichi



教授
都市計画／
建築計画
建築・都市・ランドスケ
ープの計画、設計が専
門です。一元論による
計画・設計の実践につ
いて研究・設計してい
ます。

佐井 国夫 SAI Kunio



教授
グラフィックデザイン
グラフィックデザインの役
割はビジュアルコミュニ
ケーションであり、新た
な視覚表現のための技
術と美意識をいかに育
てるかを課題として研
究しています。

長嶋 洋一 NAGASHIMA Yoichi



教授
メディアアート
コンピュータミュージッ
ク、音楽情報科学、ヒ
ューマンインターフェ
イス、新センサなどを
研究しています。

羽田 隆志 HADA Takashi



教授
プロダクトデザイン／
魅力工学
特許V.S.システムを採
用した新しい乗り物を
研究開発しています。
また魅力とは何か、ど
うやって具現化するかを
研究しています。

花澤 信太郎 HANAZAWA Shintaro



教授
建築／
空間デザイン
建築と都市の空間デ
ザインが専門分野で
す。これからの日本の
空間について一緒に考
えてみませんか。

古田 祐司 FURUTA Yuji



教授
CG／映像デザイン
CGによる映像コンテン
ツ制作とディレクション、
実写とCGの映像合成
手法・キャラクターア
ニメーションを研究し
ています。

高山 靖子 TAKAYAMA Yasuko



准教授
プロダクトデザイン
授業では発想とそれを
かたちにしていく過程
を担当します。皆さんの
持つアイデアや感性を
かたちあるものとして
実現させましょう。

中山 定雄 NAKAYAMA Sadao



准教授
インテリアデザイン
コンセプトから空間、
インテリアデザインの解
体、空間の美学の追究
を、プロセスに重点を
置いて研究しています。

永山 広樹 NAGAYAMA Hiroki



准教授
プロダクトデザイン／
クラフトデザイン
暮らしの中からデザ
インを導くことがテーマ
です。誰もが、豊かで
快適に暮らすためのモ
ノづくり・コトづくり
デザインを目指してい
ます。

服部 守悦 HATTORI Moriyoshi



准教授
カーデザイン
クルマを中心に移動機
器のデザインを研究し
ています。次世代モビ
リティの普遍性と革新
性について一緒に考え
ましょう。

亀井 暁子 KAMEI Akiko



講師
サステナブルデザイン
建築の計画、設計が専
門です。建築環境を地
域・都市との関係から
捉え、周辺環境と持続
的に発展する環境の
創造を追究しています。

中野 民雄 NAKANO Tamio



講師
スマートデザイン／
建築環境・設備
都市・建築から地球環
境・エネルギー問題を
改善し、エコロジーとエ
コノミーを両立させた
スマートデザインを追
及しています。

文化政策研究科

Graduate School of
Cultural Policy and Management

4つの研究専門領域の1つを選んで自らの専門性の軸足として定め、これらを超える領域横断的、学際的なアプローチによって実践的な研究を行います。文理を問わず様々な学部・学科の出身者や社会人、留学生等、多彩な学生が集まる中で相互に刺激しあいながら研究に励んでいます。

アートマネジメント

楽団、劇団、美術館などの民間非営利芸術団体及び公立文化施設の運営などに関する研究を行う。

芸術・文化産業政策

民間非営利芸術団体の支援政策、営利の文化産業を含む創造的産業の振興政策などに関する研究を行う。

まちづくりと自治体政策

まちづくりと地域活性化、コミュニティ政策、自治体改革、行政評価などに関する研究を行う。

市民社会と多文化共生

多文化共生とまちづくり、コミュニティ運営(NPO、市民活動等)、国際協力NGOなどに関する研究を行う。

目的意識の高い多様な入学者

創設以来10年間の入学者をみると学内進学者が約3割、他大学出身者の学部は人文系から社会科学系、自然科学や芸術系まで多岐にわたります。社会人学生の比率も約3割、近年はアジアからの留学生の比率も高まってきています。多彩な学生が切磋琢磨しあう環境は、文化政策研究に取り組むうえでの重要な基盤となっています。

社会に広がる人材ネットワーク

文化政策研究科の修了生は、劇場等の文化施設をはじめとした文化や芸術の専門的な仕事のほか、行政や様々な公益性の担い手である民間非営利団体、地域の社会・経済の発展に欠かせない民間企業等の場で幅広く活躍しています。また、大学院修了後も学界や大学と継続的に関わりを持ち続け、専門家のネットワークをフル活用して、社会の最前線で活躍している修了生も数多くいます。

注目を集める研究パフォーマンス

専門的職業人の養成を目指す研究科でありながら、文化政策というフロンティアの大きな分野の研究科であることを反映し、学生たちは専門知識の修得にとどまらず、オリジナリティのある研究課題に積極的に取り組んでいます。その成果は、学会等の場で発表され、我が国の学界及び社会の課題解決に貢献しています。



Voice

日本で学んだ文化政策を
故郷のまちづくりにいかしたい

中国・福建省での大学生時代、美術展などを企画した経験から、中国での文化政策が不十分だと考え、系統的に学ぶために日本への留学を決意しました。文化と関わる経済学、行政学、経営学などを研究している先生方から多様な視点での指導を受けられることがSUACの強みです。設備の整った院生室、ディスカッションの時間が確保された少人数授業など、学びに専念できる環境が用意されています。仲間と互いのテーマを話し合うことで新たな気づきがあり、学ぶうちに自分自身の成長も感じることができます。母国において観光開発と文化資源保護の両立が実現できるように願い、「まちなみ景観保全をめぐる官民連携の現状と課題」を修士論文の研究テーマに掲げて、日中両国の取り組みを比較研究しています。故郷の文化的価値を活用していくために、市民の意識を高め、官民で協働していける政策や手法を探索していきたいと思っています。

齊 全 Qi Quan 文化政策研究科1年

デザイン研究科

Graduate School of
Design

高度情報化、高齢化の進展、循環型社会の到来などの変化の時代に求められる、企画から計画推進、造形展開に至るデザイン諸分野での高度な専門能力を養成するためのカリキュラムを用意しています。

カリキュラム構成の特色

デザイン研究科のカリキュラムは、3つの段階で構成されます。学生は、大学院入学後に指導教員を選び、その指導を得ながら必要な科目履修を行います。

01
特論領域

各デザイン領域に対応した少人数の専門科目により構成されます。学生は、各特論科目の履修を通じ、高度な専門知識の習得を図ります。学際的アプローチ能力が高められるよう専門領域を横断しての科目履修を基本とします。

02
演習領域

特論演習と学外実習により構成され、特論領域の内容を深化・発展させるとともに、実践的な能力を身につけます。特論演習は各特論科目に対応して開講され、学生は、各自の研究計画に沿って科目を絞り込み履修を進めます。

03
特別研究

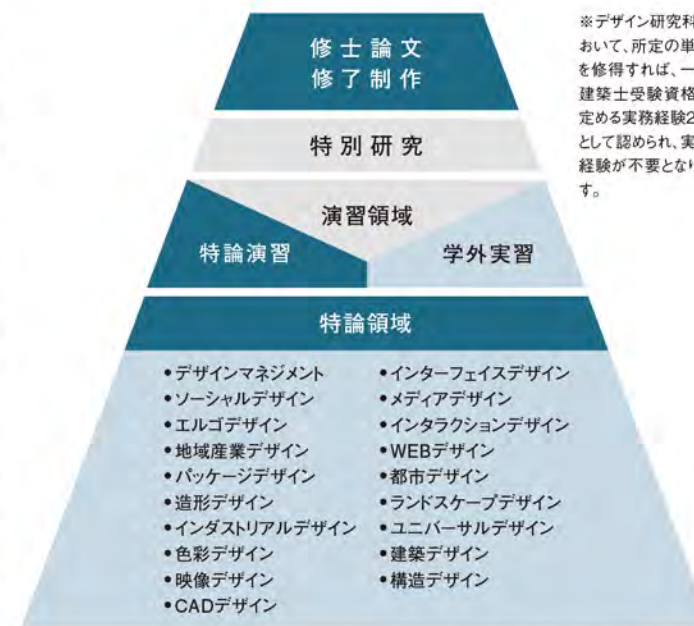
指導教員の指導のもと、大学院在学期間を通して研究活動を推進し、その成果を修士論文としてとりまとめ2年次末に提出します。デザイン研究科では、修士論文に代えて修了制作(作品制作など)を提出することもできます。

Voice

建築士としての基礎を鍛える
実践的な学びの場

デザイン学部で学んだこと以上に専門的な知識を学び、実力を身につけるために大学院へ進学。機械による冷暖房になるべく頼らずに、太陽光・風・雨・地熱などの自然エネルギーを利用した快適な住環境「パッシブ住宅」をテーマに、研究・制作しています。暑い夏には風をとりこみ、浜松の冬の強風は避けたい、半ば矛盾した欲求を現実にするために試作を重ねています。研究とは別に、実務設計のプロジェクトが常に複数進行し、実践経験を積むことができるのが本大学院の大きな魅力。ハウスメーカーと共同開発の分譲住宅プロジェクトでは責任者として取り組み、実際に販売される予定です。富士山静岡空港の内装案では県知事にプレゼンするという経験もできました。大学院での2年は実務経験と認められ、一級建築士の受験資格が得られます。今までの有意義な経験を基礎として、一人前の建築士となるために就職後も勉強を惜しまずに続けます。

杉山春輝 SUGIYAMA Haruki デザイン研究科2年



※科目名称等は2014年度実績に基づきます。

キャリア形成

Career Up

就職支援

自分を見つめ、可能性に挑戦、そして夢を現実に

進路支援では、就職や進路について、夢や目標を育む、職業観を育む、自ら考え学ぶ力を育む、自己表現力を育むことを目標に、学生の自立と自主的な活動、論理的な思考力やコミュニケーション能力の向上に取り組んでいます。



就職ガイダンス



学外から講師を招き、就職を取り巻く環境や企業選択のポイント、就職活動の進め方などについてガイダンスを実施し、就職活動への意識を高めていきます。(全7回開催予定)

合同会社説明会



本学学生が多く応募する会社を中心に採用担当者を招き、会社概要から募集職種、採用方法などについて説明をしていただきます。本学OB、OGが担当者として来場してくれる機会も増え、参加学生は真剣な表情で説明を聞いたり、疑問点を質問したりしています。

3年生との
個人面談

就職室職員が3年次後期に学生全員と個人面談を実施。希望する進路実現に向け、きめ細やかな就職サポートをしています。

ポートフォリオ
の作り方講座

デザイン職を目指す学生のために、最適なポートフォリオの制作方法を学んでいきます。制作されたポートフォリオは、デザイン実習や就職試験の際に重要な資料となり、実際にポートフォリオが決め手となって内定に至ったケースも多くあります。

キャリア支援
セミナー

就職活動準備である業界研究の一環として、本学学生の就職先として考えられる業界から、企業の第一線で活躍する社員の方々と、実際の仕事内容や社会人としての心構えなどについて、質疑応答を交えながら具体的なお話を伺います。学生たちにとっては、働く社会人と直接意見交換できる貴重な機会となっています。

個別会社説明会



デザイン系企業を中心に、学内で個別の説明会を実施しています。会社概要、募集内容の説明のほか、デザイナーによりポートフォリオ指導などを行っています。

就職支援講座



公務員など専門的な勉強が必要とされる就職試験に向けたものから、分野を問わず仕事をするにあたって有用と思われる資格など幅広い分野にわたって各種の講座を開講しています。

広域的サポート



学生の多様な地域への就職に対応するため、Uターン学生向けガイダンスの実施、GDE(グッドデザインエキシビジョン)見学ツアーの実施、サテライトオフィス(全国7カ所)の設置、企業訪問専門職員の配置などを行っています。

就職支援

学生たち自身によるキャリアアップの企画と支援

「自分たちの未来は自分たち自身の手で切り拓く!!」そうした強い意志と行動力を持った学生たちが、教員(進路委員 会)や事務局(就職室)と連携して、キャリアアップの企画・支援に参画しています。

キャリア・サポーター

就職活動を経験したばかりの4年生が「キャリア・サポーター」となって後輩たちの 進路支援にあたっています。

- 進路に関する個別相談や最新情報の提供。
- キャリア・サポーターによる独自のエントリーシート・ガイダンス。



キャリア・リーダー

3年生による「キャリア・リーダー」は、事務局(就職室)と連携して大学の進路支援行 事の企画・運営に参画しています。

- 学生と就職室とのパイプ役となり、大学の進路支援行事に学生の視点や意見を 反映させる。
- 学生ならではの情報ネットワークや行動力を活かし、他大学や企業・団体との交流 を推進する。
- 学生のニーズに応じた講演会・ガイダンスなどの自主企画。



インターンシップ

「インターンシップ」は、学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した分野 において、学外で就業(実習)体験を行う制度です。近年、インターンシップの果たす 役割に、大学側、行政・企業側双方の関心が高まり、産学連携による人材育成と人 材獲得を目的として、広くインターンシップ制度が定着しつつあります。本学において は、「専攻分野と社会との関わりや、実務と理論の関連性を学び、自らの社会的役割

を認識するとともに、将来に向けた職業観を確立する」ことを目的として、地域社会や 産業界との連携を生かし、教育研究領域に適合した企業、地方自治体、文化施設等 で学生がインターンシップに参加できるよう積極的に支援しています。

インターンシップはキャリアプランを考える上で重要なステップ

インターンシップには、上記のように大学の支援のもと参加するものと別に、企業が公募するプログラムに学生が 個人で申し込んで参加するものがあります。企業が公募するものは、実施時期や対象学年など内容は様々です。 人気企業には応募が集中し、エントリーシートで書類選考される場合もあります。気になる業界、企業がれば情 報を集めてチャレンジすることで、より深くその業界や企業を理解し、進路についての視野を広げていくことがで きます。インターンシップへの参加を検討するには情報収集が重要。大学が提供する情報を利用するのももちろん、 企業のホームページで発信される情報のチェックやインターンシップ情報サイトを検索するなど、応募のチャンスをつかまなくてはなりません。参加にあたっては、 自分自身にとっても、研修の場を設けてくれる企業にとっても有益な場となるよう目的意識をきちんと持って臨むことが大切です。



取得可能な資格等

文化政策学部の取得可能な資格

	国際文化	文化政策	芸術文化
1 中学校教諭一種	国語/英語	社会	—
1 高等学校教諭一種	国語/英語	公民	—
2 図書館司書	○	○	○
3 学校図書館司書教諭	○	○	—
4 博物館学芸員	—	—	○
5 日本語教員養成課程	○	○	○
6 社会調査士	○	○	○

1 教育職員免許状[中学校教諭一種・高等学校教諭一種]

中学校教諭一種・高等学校教諭一種の免許状を取得できる教職課程を設けています。教職 課程を履修し、必要な科目の単位を修得するとともに教育実習(2~4週間)、中学校一種はさ らに特別支援学校・社会福祉施設などで介護等体験実習(7日間以上)を行うことが必要で す。教員として就職するには教員採用試験に合格することが条件となります。

2 図書館司書

図書館で専門的職務に従事する職員に求められる資格です。司書課程を履修し、必要な科目 の単位を修得することで資格が得られます。また、課程科目を履修する中で、大学での学習や 仕事上必要となる、情報・資料・文献の探索方法や組織化などに関する知識や技術を身につ けることができます。

3 学校図書館司書教諭

小・中・高等学校の学校図書館で専門的職務(図書の情報提供、読書指導、情報教育推進 を担うメディア専門職などの役割)に携わる司書教諭になるための資格です。教職課程を履修 し、教員免許状を取得することが前提です。加えて司書教諭課程を履修し、必要な科目の単 位を修得することで資格が得られます。

4 博物館学芸員

博物館で資料の収集・保管・展示・調査研究の他、これらの関連事業について専門的事項に 携わる職員となるための資格です。美術館、資料館、水族館、動物園、植物園などでも専門職 として活躍できます。学芸員養成課程を履修し、必要な科目の単位を修得するとともに博物館 実習を行うことで資格が得られます。

5 日本語教員養成課程

日本語教員には、一般的な教員のように法に基づく免許制度はありませんが、日本語教員の 応募資格の一つになるものです。この課程を修了した学生には、卒業時に本学から「日本語 教員養成課程修了証」を発行します。

6 社会調査士

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえるこ とのできる能力を有する人材に対して、一般社団法人 社会調査協会が与える資格です。社会 調査士の資格によって、調査報告書を適切に評価したり、自ら調査を企画・実施・分析できる一 定の能力を有することを第三者評価で示すことができます。

デザイン学部の取得可能な資格

	デザイン学科
1 建築士 受験資格	○ ※
2 インテリアプランナー個別認定課程	○ ※
3 商業施設士 受験資格	○ ※
4 日本語教員養成課程	○
5 社会調査士	○

※インテリアプランナー登録資格は、建築・環境領域を専攻した場合に得られます。(予定・認可申請中)
※建築士は、建築・環境領域の所定の単位を取得した場合に得られます。(予定・認可申請中)
※商業施設士(予定・認可申請中)

1 一級・二級建築士 木造建築士試験 受験資格

建築士は建築物の設計及び工事監理を主業務とし、建設会社や建築設計事務所、官公庁 など活躍できます。定められた科目を修得し卒業することで、一級建築士は実務経験2年 (※)、二級建築士・木造建築士は実務経験不要で受験資格が得られます。
※所定の科目の単位を修得した上で本学を卒業後、本学大学院デザイン研究科において も、所定の単位を修得すれば、一級建築士受験資格に定める実務経験年数として認定され、 実務経験が不要となります。

2 インテリアプランナー登録資格 個別認定課程(認可申請中)

インテリアの企画・設計・工事監理に携わるインテリアプランナー、20歳以上の人に受験資格 があり、建築・環境領域の課程を修了し、卒業することで、インテリアプランナー試験合格後の 登録資格要件のうちインテリアに関する実務経験の年数が2年に短縮されます。建築・環境 領域を専攻した者が対象となります。

3 商業施設士 受験資格

所定の科目の単位を取得することで、商業施設の企画、デザイン、設計などに携わる商業施 設士の受験資格が得られます。最短で2年生で商業施設士補、3年生で商業施設士にチャレ ンジできます。

4 日本語教員養成課程

日本語教員には、一般的な教員のように法に基づく免許制度はありませんが、日本語教員の 応募資格の一つになるものです。この課程を修了した学生には、卒業時に本学から「日本語 教員養成課程修了証」を発行します。

5 社会調査士

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえるこ とのできる能力を有する人材に対して、一般社団法人 社会調査協会が与える資格です。社会 調査士の資格によって、調査報告書を適切に評価したり、自ら調査を企画・実施・分析できる一 定の能力を有することを第三者評価で示すことができます。

KYOSHOKU STYLE — 静岡文化芸術大学で教師を目指す —

教職課程を履修している学生が制作した冊子「KYOSHOKU STYLE—静岡文化芸術大学で教師を目指す—」。
これまで、SUACで教職課程を履修した卒業生たちの学びを在学学生が引き継ぎ、これから入学してくる高校生に、そ の魅力を伝えていくために企画・制作されました。教職課程の内容や教育実習の様子など写真を多用して分かりや すく紹介されています。また、SUAC生は、大学内での学びだけでなく地域の小中学校等での学習支援ボランティア や模擬授業の実施など、貴重な経験ができる活動に参加できる環境があり、これらを通して教師への夢が一層ふく らんだ、というエピソードも語られています。卒業生にも取材を実施。「興味のある分野の勉強もでき、教員免許の取得もできた」、「社会や文化、歴史について 学んだ知識が、生徒の興味を広げる役に立っている」、「伝える力が磨かれ、教員以外の仕事にも活かしている」と多くのメッセージが寄せられています。



国際交流／支援制度

International Exchange／Support System

国際交流

国際社会に貢献する開かれた大学を目指して

本学の設置理念である「国際社会に貢献する開かれた大学」の実現に向けて、「イギリス／ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビッド」「アメリカ／フィンドレー大学」「韓国／湖西(ホソ)大学校」「中国／上海工程技术大学」「中国／浙江大学城市学院」「フランス／ブルゴーニュ大学国際フランス語センター」「インドネシア／アイルランガ大学人文学部」と様々な交流事業を展開しています。2014年には、「イタリア／ポロニャ大学」とも交流協定を締結する予定で、国際交流を通じてグローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。

留学しても4年間で
卒業が可能

「ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビッド」「フィンドレー大学」「湖西大学校」「浙江大学城市学院」については留学生を派遣しています。これらの大学への留学期間は本学の在学期間として認められ、取得した単位も審査等を経て本学での卒業要件単位として認定されるため、留学しても4年間で卒業することが可能です。また、今後「ブルゴーニュ大学国際フランス語センター」「アイルランガ大学人文学部」「ポロニャ大学」へも留学生の派遣を予定しています。

交流留学生奨励金給付制度

交流協定を締結した大学に留学し、留学先で授業料を支払う必要がある場合、交流留学生に、留学期間に応じて月額4万5千円を奨励金として給付する制度があります。

フィンドレー大学

アメリカ合衆国

1882年に開学し、現在は経営学部・教育学部・医療学部・教養学部・薬学部・理学部の6学部から成る総合大学です。オハイオ州に位置し、学生数約3,700人、地域との結びつきが強く、留学生に対するサポート体制も充実しています。(留学生は日本、タイ、マレーシア、インド、サウジアラビア、韓国、中国等30カ国から来ています。)2007年に交流協定を締結し、2013年までに39名の学生が留学生として派遣されました。



Voices | 留学経験者



チャレンジした分だけ、得るものも大きくなる。

英語を母国語とする人々と日常生活を送り、英語でコミュニケーションする力を身につけたいと留学。フィンドレー大学には日本語専攻学科があり、そこで学ぶ人たちが日本をどう見ているのかについても興味がありました。大学内には留学生のためのオフィスがありサポートも充実、様々な国からの留学生と異文化交流できるイベントも多く企画されています。悩むことももちろん

ありましたが後悔することのないようイベントには積極的に参加し、アクティブに出会いを広げることで英語力だけでなく挑戦する心など精神面でも成長できたと感じ、自信もつきました。帰国後も英語力を高めるための挑戦を続けていきます。将来は日本文化を英語で伝える仕事に就き、フィンドレーで出会った人々を日本に招待したいと思っています。

栗田彩加 KURITA Ayaka

国際文化学科2年次に留学
フィンドレー大学

ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビッド

イギリス

ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビッドのカマーゼンキャンパスは、ヒースロー空港から車で西へ約3時間、南ウェールズに位置します。学生寮はキャンパスの敷地内にあり、教職員も勉強や生活の相談にのってくれるなど留学生の受け入れシステムは充実しています。2008年9月の交流協定締結後、2013年までに17名の留学生が派遣され、語学研修にはのべ79名の学生が参加しました。



浙江大学城市学院

中華人民共和国

1999年に公設民営の大学として浙江省杭州市に開学。人文学部、外国語学部(日本語学科を含む)、創意(デザイン)学部など9つの学部で構成された学生数13,500人の総合大学です。本学とは2009年に交流協定を締結し、毎年3名程度の交換留学を実施しています。



湖西(ホソ)大学校

大韓民国

1979年に創立し、1988年以降は総合大学として発展。現在は人文学部、社会科学部、自然科学部、工学部、NewIT工学部、芸術体育学部、教養・教職学部などの学部と各種大学院を擁しています。また、外国語教育院「韓国語学堂」を設け、韓国語の語学研修生の受け入れにも積極的に取り組んでいます。2006年に交流協定を締結し、交換留学や交流セミナーの実施など双方向の交流を進めています。



国際交流／支援制度

International Exchange／Support System

学費・学生支援制度

学生の向上心を全力でバックアップします。

各種制度により学生の向上心を受けとめ、様々な相談に応じることができる体制が整っています。

入学生に適用する学納金（2015年度予定）

区 分	県内の入学者	県外の入学者	摘 要
入 学 金	141,000円	366,600円	入 学 時
授 業 料（年 額）	535,800円		

※2015年度の学納金については
変更となる場合があります。

学費支援体制

授業料の減免制度

経済的理由または天災等によって授業料の納入が著しく困難な場合に、授業料を減免する制度があります。

授業料の分割納入制度

授業料を一括して納入することが困難な場合には、申請により分割して納入することができます。

奨学金

本学独自の奨学金である「スズキ奨学基金 奨学金」による修学支援のほか、日本学生支援機構（旧日本育英会）や地方公共団体や民間団体等が行う各種の奨学金制度を紹介しています。基準となる学力・経済状況や貸与金額・返還方法等はそれぞれ異なります。

スズキ奨学基金 奨学金

スズキ株式会社からの支援を得て、2011年6月に創設。本学の学生に対して、一層の向学心向上を奨励し、成績優秀な学生の修学環境を整備することを目的とした奨学金で、審査を経て、学業成績上位者に支給されます。

独立行政法人日本学生支援機構（旧日本育英会）

「優れた学生であるが経済的に修学が困難」という学生に学資の貸与を行う公的機関です。社会に役立つ人材を育成するとともに、学習の機会均等などを図ることを目的としています。

民間育英団体等

募集方法は大学が依頼されて「学内募集」するケースと、関係団体が「直接募集」するケースのいずれかです。募集がある場合は随時掲示によりお知らせします。

学生相談

夢や希望に溢れて大学に入学する一方、新たな生活に不安や戸惑いを感じることもあるかもしれません。本学では、学科・研究科ごとに学生委員（専任教員）を置いているほか、保健室や学生相談室などに相談窓口を設け、様々な相談に応じる体制を整えています。

オフィスアワー（教員研究室での個別相談）

学生と教員との緊密なコミュニケーションを図るために、本学ではオフィスアワーを設けています。教室では十分に尋ねられなかった事項や専門分野の説明などを聞くことができます。

保健室

病気やけが等の応急処置や心身の健康に関する相談に応じます。保健室で対応できない場合は、学校医または専門の医療機関を紹介しますので、お気軽にご相談ください。

学生相談室

心の不安、つまづき等様々な相談に、専門のカウンセラーが応じます。直接相談しにくい内容でも、メールにより相談を受けられるので安心です。

ブルゴーニュ大学 国際フランス語センター フランス

ブルゴーニュ大学は、1722年創立、フランスのブルゴーニュ地方に5つのキャンパスを持つ国立総合大学で、学生数27,000人、教員数4,000人を数えます。国際フランス語センターは、ディジョン市のメインキャンパス内にあり、大学の学部に対応する一機関として毎年1,500人以上の留学生を受け入れています。本学は2011年から語学研修への学生派遣を行い、2013年に交流協定を締結しました。



ボローニャ大学 イタリア

1088年の創立で「世界最古の大学」とも言われており、建築学部以外はすべての専門を擁する国立の総合大学です。イタリアの Emilia-Romagna 州の州都であるボローニャ市にあり、在籍学生数は8万人を超えています。アートマネジメント研究の分野においては、総合芸術学科（通称ダマス DAMS、1970年創立）は先進的研究拠点となっています。2014年に交流協定を締結したばかりで、今後の留学生等の交流が期待されています。



語学研修

実験を通じて異文化への理解を深めることは、真の国際人としての感性を養う上で、欠くことのできない条件です。本学では世界に通じる人材育成を目指して、イギリス、中国、フランス、インドネシアへの研修を実施するなど、語学研修の充実に努めています。なお、語学研修は2015年度から「集中語学研修」（1単位）として単位化される予定です。

2013年度研修内容（実績）

大学名	国名	期間	人数
ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビッド	イギリス	8/18～9/15	13人
対外経済貿易大学国際学院	中国	8/4～8/29	7人
ブルゴーニュ大学CIEF	フランス	8/22～9/22	6人
アイルランガ大学人文学部	インドネシア	8/17～9/17	6人

アイルランガ大学 人文学部 インドネシア

1954年にインドネシア第2の都市スラバヤに設立された国立総合大学。人文学部には2006年に日本研究学科が開設され、4学年あわせて200人を超える学生が日本文化を学んでいます。本学からの留学生には人文学部の授業のほかに留学生別科BIPAでの語学科目も単位認定されます。2013年に交流協定を締結し、同年8月に本学から語学研修への学生派遣を行いました。



上海工程技術大学 中華人民共和国

1978年に開学した学生数約12,000名の総合大学。芸術設計学院、材料工程学院、電子電気工程学院、化学化工学院等、19の学院があります（学院は、日本の学部に対応）。交流の中心である芸術設計学院では、学生の作品が上海万博のボスターに採用されるなど、活発な制作活動が行われています。また本学とも、共同セミナーを実施して、交流を進めています。



SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART & CULTURE



キャンパスガイド

Campus Guide

キャンパス案内

施設の特徴

ユニバーサルデザインの理念をもとに設計されています。外観デザインには山の尾根や水の流れ、波のうねりを感じさせる緩やかな起伏を取り入れており、市民が利用可能な図書館・情報センター、自由創造工房、緑溢れる中庭「出会いの広場」を設けています。

環境対策

建物の屋上を緑化することで、夏季・冬季の空調負荷の軽減に努めています。また、地下ピットに雨水を貯め、雑用水に利用しているほか、太陽光発電を池の循環ポンプの電源などに利用して省エネルギーを図っています。

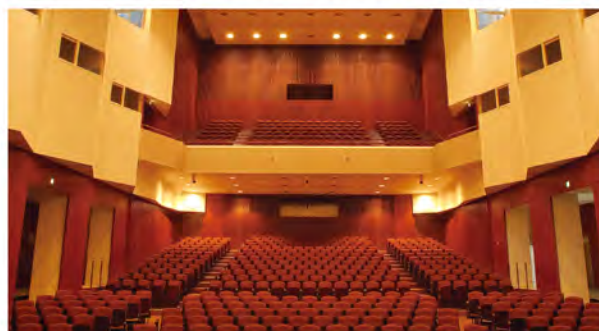
1 出会いの広場

2階にありながら人工地盤により緑化された、学生と市民の憩いの広場。学生食堂、学生ラウンジ、講義室、図書館・情報センターなどにつながる、大学の中心的スペースです。



2 講堂

603名を収容できる講堂は、ブラウン系色で統一され、落ち着いた雰囲気を醸し出しています。大学の行事、イベントやセミナー、学生の発表の場として利用されています。

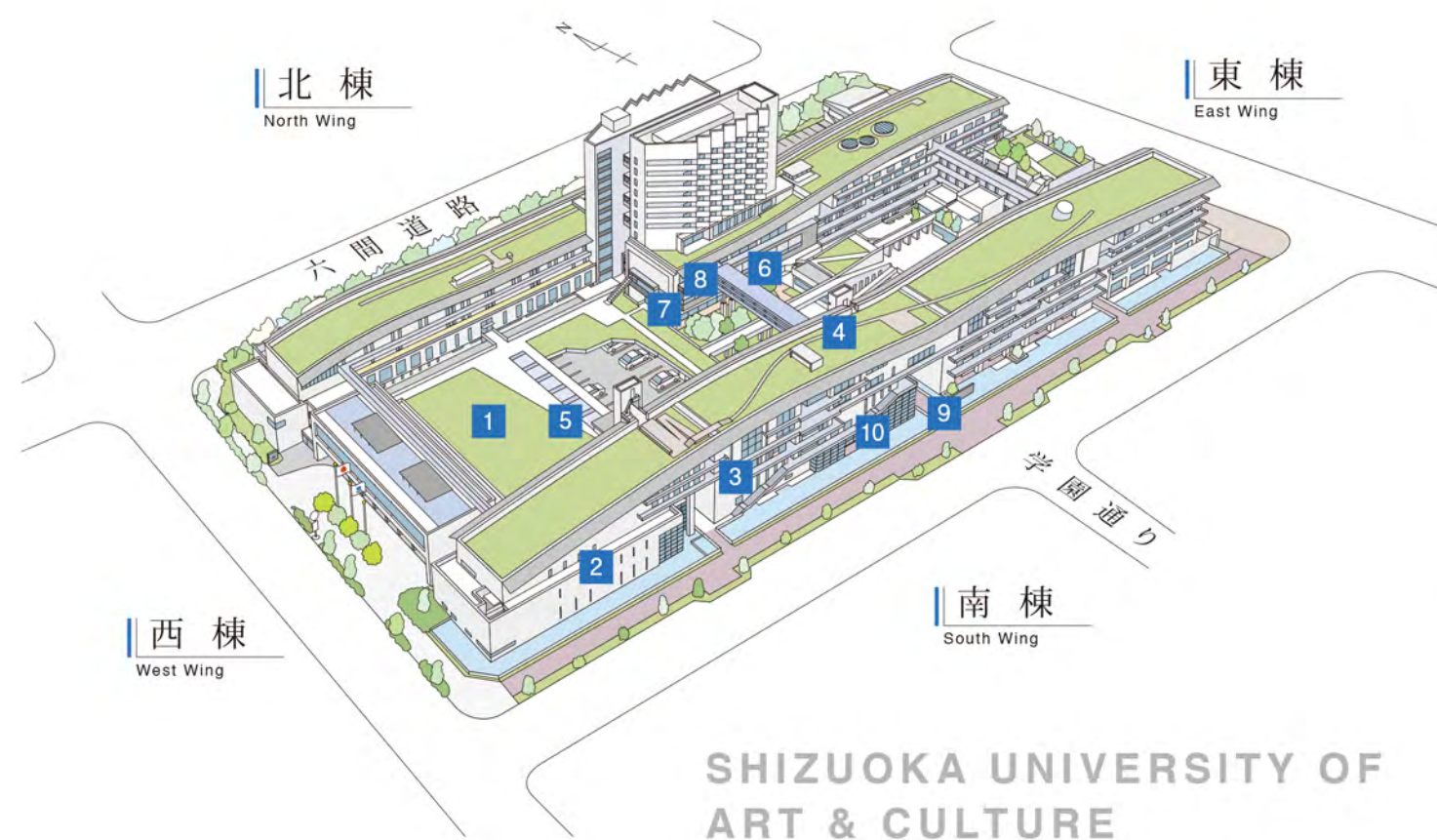


3 大講義室

いわゆる階段教室の講義室で、219名を収容可能。最新のAV機器を完備し、プレゼンテーションの場としても適しています。



学習意欲を刺激する最新の設備、ゆとりと憩いを実感できるパブリックスペース、豊かな創造性を育む上で欠かすことのできない、「遊び心」あふれる独創的な施設です。



4 創造の丘

浜松市内が一望できる屋上庭園は、まさに都会のオアシス。山の尾根、波のうねりを感じる緩やかな起伏が印象的です。



キャンパスガイド

Campus Guide



5 体育館

トレーニングルームやシャワー室を完備。授業はもちろん、クラブ・サークル活動でも頻繁に利用されています。



6 学生ホール

大学からの連絡事項やクラブ・サークル情報、就職情報やイベント情報を伝える掲示スペースと学生がくつろげるラウンジスペースが設けられています。



7 売店

飲食物から教科書、書籍・雑誌、文房具・画材、日用雑貨まで、豊富な品揃えで学生たちの毎日を支えています。



8 学生食堂

日替わりランチのほか、カレー、パスタ、サラダなどの単品メニューも充実。市民にも開放されています。



9 南中央エントランス

本学のメインエントランス。この大学は地域に開かれた大学です。それは建物にも表れていて、開放感のあるデザインです。



10 自由創造工房

様々な工具や加工機械、パソコンなどを使い自由に制作・創作活動を行うことのできる工房です。ものづくりの魅力を広く伝えるため、市民を対象とした公開講座も開講しています。

ART
WORK

アートワーク

出会いの広場のアートワーク
Transparent Doubts

出会いの広場に展示されたアートワーク。ガラスに囲まれた不思議な空間が、創造性をかき立てることから「冥想ベンチ」の愛称で呼ばれています。
artist : Jaume Plensa

創造の丘のアートワーク
Furnishing

大きさの異なる7つのベンチは、最大のもので高さ1.8m。日常の見なれた風景の中で意外な発見をすることへのインスピレーションを与えてくれます。
artist : Inges Idee

池の中のアートワーク
Apollo Plan

アンテナ、スピーカー、メガホンなど、情報交換の手段として使用される機器をモチーフにした作品。人々が交流する開かれたネットワークを象徴しています。
artist : 真喜志 奈美

ユニバーサルデザイン

Universal Design



ユニバーサルデザインとは、年齢や性別、能力の如何にかかわらず、全ての人が利用できるようにモノや空間をデザインするという考え方です。これまでの多くの道具や建築物は、平均的な人が使いやすいようにデザインされており、そうでない人には利用できなかったり、過度の負担を強いたりしていました。これからの道具や建築物には、あらかじ

め多様な人々の利用を想定し、アクセスを可能にしておく配慮が必要とされています。古くから「用と美」という言葉があるように、本学では、機能性と審美性を備えた、さりげなく、美しく、できる限り多くの人のアクセスを可能にするユニバーサルデザインを目指しています。

すべての人にやさしい、アクセシブルな自由空間。



音声でも誘導する案内サイン

案内サインは、大学カラーのブルーを基調に、日本語と英語で表示しています。点字案内板も学内11カ所に設置され、音による誘導も行っています。



段差を解消するスロープ

施設内の段差は、スロープ化することで解消。弾力のある滑りにくい素材を使用し、高さ75cmごとに踏み場を設けるなど、安全性にも配慮しています。



スムーズに通過できる広い出入り口

出入り口には、120cm以上の自動ドアを採用し、大ガラス面には衝突防止シールが貼られています。床には段差がなく、スムーズに出入りできます。



多機能型トイレとサイン

トイレの種類は、男女、親子・身障者の3種類。各々の違いを点字でも識別できるよう、入口には手をついた時に触れる高さに表示サインを設置しています。



水飲み場・自動販売機

水飲み場は、車椅子の方でも使いやすい形状で、高さも調整されています。また周辺には十分なスペースがあります。自動販売機にも、コイン投入口の形状など様々な工夫があります。



ゆったりとした廊下や階段

廊下も階段も幅が広く、ゆったりとすれ違えるよう設計されています。廊下は無駄な凹凸がなく、階段は踏み面を広くとり、勾配も緩やかです。

キャンパスガイド

Campus Guide

工房・特殊機器の紹介

Atelier and special equipment

人体機能実験室

使いやすい道具や心地よい環境づくりに必要な人間に関する種々のデータを得る実験室です。人間の動作、姿勢、筋肉の負担などを測定する機器、高さや角度を自由に変えられる階段可変装置、室温・湿度・照度を自由に設定できる環境コントロール室などがあり、様々な条件設定における道具の使いやすさを検討します。



- ◆ 目的
人体機能実験
- ◆ 主な機器等
上肢／下肢測定装置、環境コントロール室
昇降設備

クレイモデル室

フルスケールモデル用レイアウトマシンが導入されており、乗用車などの実物大モデルをクレイ(粘土)で制作することができます。



- ◆ 目的
クレイモデル制作
- ◆ 主な機器等
フルスケールモデル用レイアウトマシン

木材加工室

木材を切断したり、切削したりして、本格的な木工造形物を制作するための多種多様な木材加工機械を設置しており、専門の指導員が常駐して指導にあたっています。

- ◆ 目的
木材加工
- ◆ 主な機器等
木工旋盤、パネルソー



金属加工室

金属を加工するための旋盤、フライス盤、マシニングセンターなど最新の機械設備が設置されていて、自分でデザインモデルを制作することができます。

- ◆ 目的
金属加工
- ◆ 主な機器等
NC旋盤、高速切断機、クレーン



金属工房

身近にたくさんある金属。ちょっと視点を変えて道具や工具を上手に利用すると、意外といろいろな物を作ることができます。この工房では、デザインをする上で必要な金属の基本的な性質や加工方法を学び制作するための道具や工具が豊富に揃っています。

- ◆ 目的
金属工芸(鍛造・溶接)
- ◆ 主な機器等
ガス溶接炉、高周波自動遠心鍛造機



プラスチック加工室

プラスチック加工の実習や、プラスチック・アクリルを用いたモデル制作を行います。大型のNCトリミング加工機も設置しており、専門的な制作作業が行えます。

- ◆ 目的
プラスチック加工
- ◆ 主な機器等
3Dプリンター、バフ研磨盤



ガラス工房

ホウケイ酸ガラスを素材として、バーナーを使いガラスの加工方法を学ぶ実習工房です。食器や家具の素材空間を仕切り、生活を快適に守り演出する材料としてのガラスの基本的な性質、美しさ、可能性の一端を、エキスパートが指導します。

- ◆ 目的
ガラス加工、作品の制作
- ◆ 主な機器等
ガラス旋盤、除冷炉



工房・特殊機器の紹介

Atelier and special equipment

マルチメディア室

レコーディング機材を持つ防音カプセルを備えたマルチメディア制作室です。デジタルサウンドの生成や編集、音楽素材の制作、FLASH・ゲーム・Webコンテンツの制作などを行います。センサを活用したインタラクティブ(対話的)なメディアアート作品もここから多数、生まれています。



- ◆ 目的
マルチメディアコンテンツの作成・編集
- ◆ 主な機器等
サウンドスタジオ、コンテンツ作成システム、MacPC

CAMモデル室

デジタルデザインのためのモデリングやコンピュータによる造形を行います。CADやCGで作成したデザインデータをもとに、モデルを立体造形する装置やクレイモデルを計測し、三次元CADデータを作成する装置、大型のステレオスコープ(立体視)など、制作や実験のための本格的な装置も設置されています。



- ◆ 目的
CAMモデル制作
- ◆ 主な機器等
3D CAD、3Dプリンター

グラフィックWS室

CGの制作と映像のデジタル合成、ノンリニア編集作業などを行います。グラフィック用ワークステーションと3DCGや実写ベースの映像制作のためのソフトウェアが備えられていて、主に演習で使われます。

- ◆ 目的
3次元モデルデザイン演習
- ◆ 主な機器等
CAD、CGシステム



CG工房

ハイビジョン編集システムや、実写合成のための最新設備を備えた映像制作工房です。

- ◆ 目的
CG、映像制作
- ◆ 主な機器等
各種CGソフト、ハイビジョン編集システム等



撮影スタジオ

奥行き約12m。天井にファティフという照明機材がついており電動で動作します。フラッシュライトが光源のバルカーというライトも8台揃っています。背景は白の Horizont ですが、色バック紙や布を使うことによって変えることができます。

- ◆ 目的
写真撮影
- ◆ 主な機器等
スタジオ照明設備



平面工房

グラフィックデザイン実習などを行います。平面的な作品の制作・出力・加工などを行います。

ドライモデル室

粘土やウレタンフォームを使い、デザイン検討を行うための初期モデルの制作を行います。

陶芸工房

酸化・還元焼成が可能な大小2基の最新式マイコン制御の電気炉や電動ろくろ、真空土練機、たたら機などの設備が充実しています。

総合組立アトリエ

各工房で加工された部品の組立てを行うアトリエです。天井には重量物を運搬するためのクレーンが装備され、大型造形物の制作も可能です。

構造実験室

建築材料や構造物の強度実験や空間シミュレーションを行います。

テキスタイル工房

移動機器やインテリアなど、様々なデザイン分野で使われる織物や布地の作り方、成り立ち、性質などを学びます。

電子制御機器製作室

電子回路の実験・制作、光演出と連携した電力回路、ヒューマンインターフェイス、ロボットなどの電子制御機器の製作・計測・実験を行います。

環境コントロール室

温度や湿度などの環境条件が人体(生理面・心理面)や各種工業製品に与える影響について、計測・データ収集・分析・評価を行います。

空間演出実験室

色彩・照明・音響などが与える知覚的・心理的影響などについて、様々な手法でシミュレーション・検証を行います。

食品加工実験室

いろいろな食品の加工、試食を行います。ここで試作、提案した食品で地元食品産業とのコラボレートにより、実際に商品化されているものもあります。

暗室

モノクロームのプリントを焼いたり、ネガフィルムを現像できます。小型5台、大型1台のエンラージャー(引き伸ばし機)が備え付けられています。

木彫工房

木工を中心とする手作業工房です。比較的安全な工具のみを設置し、自由に長時間使用できるようにしています。

塗装乾燥室

自動車1台を塗装できる大型塗装ブースや、有機溶剤を吸収する装置、塗装を早く乾かす乾燥炉など、作品の仕上げ塗装に最適な環境です。

製図室

ドラフターという製図器を使って図面の作成を行います。デザイナーは図面によって寸法や材料を指定し、具体的に製品の形状や質感などの内容を伝えます。

立体工房

造形の基礎となる塑像、彫塑、模刻などの技術や見方を応用し、デザインに必要な造形力を身につけ、アイデアを実現するためのベース作りを行います。

デッサン室

デッサンの上達を目指すための部屋です。ゆったりとしたスペースで基礎から上級レベルまで対応できるよう、さまざまなモチーフが用意されています。

生物機能実験室

植物や生物の形状や機能、動きなどを計測し、そのデータを分析・検証します。

フィッティング工房

人体機能実験室で得たデータに沿って、道具を使用する人の個々の寸法や動作・姿勢、状況に合わせたデザインを検討します。

キャンパスガイド Campus Guide

図書館・情報センター

Library



図書館・情報センターは、大学の北西に位置し、約21万冊の図書、約3,000種類の新聞・雑誌、約6,600点の視聴覚資料(CDやDVD等)を所蔵しています。館内には、大型の個人学習机(キャレルデスク)をはじめとする約230の閲覧席、グループ学習室、視聴覚資料を利用できるAVコーナー等があります。

また、館内には100台を超えるパソコンを設置しています。「図書館・情報センター」の名の通り、図書館の所蔵する資料と、ネットワーク上の情報をもとに、さまざまな学習や教育に活用できる環境が整備されています。蔵書は、文化、芸術、デザインに関するものを中心に、学習や教育に必要な資料を揃えています。特色あるコレクションとしては、「高坂文庫」、「木村文庫」、「和田文庫」、「ラスキン文庫」があります。

所蔵資料は、館内のパソコンのほか、インターネットを利用してどこからでも検索することができます。図書館・情報センターのホームページや、図書館・情報センターだより『温故知新』による情報発信も行っています。

図書館の利用は活発で、学生1人あたりの貸出冊数は、全国平均を大きく上回っています。本館は、地域住民の方にも開放しており、利用者カード(※)を作成すれば、貸出サービスを受けることができます。

(※20歳以上の静岡県内在住または在勤の方が対象で、カード発行手数料がかかります)。

メディアステーション



70台のパソコンが設置された学生専用エリアで、インターネットによる情報検索や、インストールされたソフトを利用した資料の作成などができます。

AVコーナー



約6,600点の視聴覚資料(CDやDVD等)があり、視聴用の個人机(キャレルデスク)と、大型モニターを備えた閲覧席が設置されています。

貴重書庫



「和田文庫」、「ラスキン文庫」等が収蔵されています。「和田文庫」は和装本約1,100冊からなり、江戸中・後期の遠州国学を中心として収集されています。

木村文庫

「木村文庫」は、本学初代学長である故木村尚三郎先生の、西洋史を中心とした、文化・芸術に関するコレクションです。木村先生の著書をはじめ、洋の東西にわたる歴史書、「日本民俗地図」、「日本祭礼地図」といった資料類、雑誌「法制史研究」のバックナンバーから「懐かしい紙芝居」までと、幅の広いコレクションで、先生の深い学識と豊かで広い歴史観の源泉を垣間見ることができます。



文化・芸術研究センター

Culture and Arts Research Center

文化芸術に関する教育研究及び地域・国際・世代が幅広く交流・連携する付属機関として文化・芸術研究センターを設置しています。

センターでは地域社会に貢献できる研究領域を重点研究目標領域として定め研究を進めるとともに、文化政策学部とデザイン学部が連携して行っているさまざまな研究の成果を発信し、地域社会との幅広い交流を図っています。センターには交流のための施設として、イベントホールやギャラリーがあり、教員や学生が企画したさまざまな展示やイベントを行っています。

また、地域連携室を平成26年4月に設置し、地域と学内(学生、教員、職員)との交流・連携の総合窓口として、地域と連携したさまざまな取り組みの支援を強化していきます。



文化・芸術研究センター(ホール)

1,800m²のスペースに、演劇・パフォーマンス・瞑想ができる空間とラウンジからなる文化・芸術の交流拠点です。



ギャラリー

表通りに面したガラス張りのギャラリーは、185m²のスペースで、24枚の移動式の展示ウォールにより自由なレイアウトが可能です。年間を通じて、市民の方々にも楽しんでいただけるいろいろな展示会などが開かれています。



公開講座、セミナー、イベント

教員の専門的知識・技能やネットワークを活かし、地域住民の生涯学習や地域文化の振興のため、セミナー、公開講座を行うほか、学生が運営するプロジェクトチームによるイベントも行っています。



文化と芸術 文化・芸術研究センターニュースレター

文化・芸術研究センターを拠点におこなわれている研究の成果や、活動内容を紹介するニュースレター「文化と芸術」を発行して情報発信をしています。



産官学連携

民間企業や自治体・団体など学外機関と本学が共通の課題についての研究を行ったり、学外機関からの委託を受け研究や制作・調査なども行っています。また、学外機関と連携してセミナーやワークショップなども開催しています。

イブニングレクチャー

SUACでは「イブニングレクチャー」を開講しています。大学の授業が終了した夕暮れの時間帯、第一線で活躍する方々にこの浜松の地でデザインに関わる特別講義をしていただくという企画です。これまでに様々な分野のトップランナーに最先端のデザインの現場やご自身の仕事への取り組みについてお話していただき、本学学生にとって力強いエールとなりました。また、学外の方にも参加を呼びかけ、地域への文化的発信もしています。



アートディレクター
浅葉克己さん

彫刻家
三沢厚彦さん

認知心理学者
下條信輔さん

充実の「学生生活」を のぞいてみよう。

キャンパス スケジュール

SUACのキャンパスで過ごす1年。季節ごとのイベントも多彩です。
みんなで作り上げる達成感も、自分らしく表現する充実感もたっぷり。
今ここでしかできない体験を思う存分楽しんでください。

前期

- 4月** April
 - 入学式
 - 学生会新入生歓迎行事
 - ガイダンス
 - 前期授業開始
- 5月** May
 - 学生会総会
- 6月** June
 - 防災訓練
- 7月** July
 - 学生会納涼祭
 - 前期試験期間
 - 大学院入試(デザイン)
- 8月** August
 - 夏期休業
 - 前期集中講義I
 - 語学研修
 - オープンキャンパス
- 9月** September
 - 大学院入試(文化政策)

後期

- 10月** October
 - 後期授業開始
 - 特別公開講座「新能」
- 11月** November
 - 碧風祭
 - 推薦入試
- 12月** December
 - 学生会スポーツ大会
 - 冬期休業
 - 後期集中講義I
- 1月** January
 - 後期集中講義II
 - 大学入試センター試験
- 2月** February
 - 後期試験期間
 - 卒業展
 - 後期集中講義III
 - 一般選抜(前期日程)
 - 大学院入試(文化政策・デザイン)
- 3月** March
 - 卒業式
 - 一般選抜(後期日程)



へきふうさい 碧風祭

毎年11月に開催される大学祭が「碧風祭」。
すべてを学生が企画・運営。大学の枠を越えて市民や民間企業の方々と手を携え、地域ぐるみのお祭りとして盛り上がります。



SUACの大学祭「碧風祭」。学生が組織する碧風祭実行委員会が中心になって、学生みんなで作る最大級の学生イベントです。毎年設定されるテーマのもと、サークルや学科など様々な仲間がアイデアを凝らして出展します。伝統的に続く模擬店、学科の特徴を活かしたパフォーマンスや作品展示、体験型のアトラクションなど多彩な催しが大学中で繰り広げられます。地域のみならず、市民の方にもたくさん来場いただき、一緒に楽しみ、SUACに親しんでもらえる機会にもなっています。

キャンパス
レポート

自分から動き出すと、まわりも引き込まれていく。
「やりたいことには積極的に取り組むべし」というSUAC生の毎日をレポート!

音楽をより多くの人に身近に
感じてもらえるような活動を。

中学高校と吹奏楽をやっていたこともあり、音楽事業のマネジメントに興味を持って学んでいます。学内外の演奏会を運営する「室内楽演奏会」にも積極的に参加。演奏会の企画・運営に携わっています。岩手県大船渡市でプロの打楽器奏者と子どもたちが交流するボランティアイベントにも参画、音楽の持つ人を元気にする力を再確認することができました。

新潟出身者の集まり「にいがたんしょ」では、学内ラウンジで新潟米のおにぎりをつくって配ったり、笹団子づくりのワークショップを行ったりと、学内に新潟を熱くアピール! 今後はギャラリーでの新潟展を計画、他県出身者とも合同でお国自慢大会みたいなことができれば楽しいですね。

佐久間直実

SAKUMA Naomi
文化政策学部 芸術文化学科2年 新潟県立新潟南高校出身



2年後期	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 9:00~10:30		芸術特論D		文化政策C	
2 10:40~12:10		イタリア語IV	現代芸術論C	現代芸術論F	文化と芸術C
3 13:00~14:30				芸術文化特講	芸術特論C
4 14:40~16:10	現代芸術論D	芸術文化基礎演習C	芸術文化基礎演習C	[SUAC for Japan "浜松から大船渡へ" 音楽活動支援] 実行委員会 室内楽演奏会ミーティング	
5 16:20~17:50	文化政策と法				

※カリキュラムは2013年度のもので、科目名等は変更になる場合があります。
基礎演習では、音楽を専門とする科目と、政策を専門とする科目の2つを履修。3年次から始まるゼミに向けて、研究の進め方などを実践的に学んでいます。イタリア語は、国際文化学科の科目から履修。他学科の授業でも興味にあわせて選べるのがうれしい。

「にいがたんしょ」のイベント。まずは新潟のおいしいもので興味を引き、そこから新潟を知りたくなるように、ユニークな企画でみんなを引き込んでいきたい。



「SUAC for Japan "浜松から大船渡へ" 音楽活動支援」実行委員会として岩手県の大船渡市の小学生と交流。打楽器なら誰でも音が出せるから、みんなで音楽を楽しむのに最適。賛同してくれるプロの演奏者とともに現地で活動。



東京デザイナーズウィークで、参加したグループ作品の制作完成時に撮影。SUAC全体のブース設計も担当。同じデザイン学部でも他学科の学生とは考え方が違うので、誰もが納得するものをつくるのは難しいと感じました。

面白そうなことには参加してみる。
そこから未来が広がっていく。

デザインに興味があるけど実技経験がなかったので、数学で受験できるのはうれしかったですね。1年次では、デザインとはどういうものかという大きな括りで概要や考え方を学ぶ授業が多く、2年次で専門的な科目が増えてきました。たまたま耳にした浜松在住の建築家たちが主宰するワークショップ「浜松建築会議」に興味を持ち参加。テーマは仮設建築、6人のグループで900本の針金ハンガーからソファを作り出し高評価を得た経験と、世界的な建築家安藤忠雄氏の講演を聴いて触発されたこともあり、建築というものが面白くなってきました。人の集う建築物をつくる建築家を目指して、これからもいろんな活動に積極的に参加し、コンペなどにもチャレンジしていきたいと思います。

橋本旬平

HASHIMOTO Shunpei
デザイン学部 (現) 空間造形学科2年 静岡県立富士東高校出身



クリーニング店をまわって協力してもらい作り上げたソファ。実際に座れる頑丈なつくり。制作が間に合わず、カラオケボックスで徹夜して仕上げたことも今ではいい思い出に。子どもたちの素直な評価もうれしかった。



2年後期	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 9:00~10:30		生物機能学	空間計画II		デザインマネジメント
2 10:40~12:10	環境科学	コミュニティ空間論	映像エンタテインメント論	家具環境道具論	パフォーマンス空間論
3 13:00~14:30	建築空間デザイン論	空間演出計画II	空間造形史		
4 14:40~16:10		空間演出デザイン演習C	空間設計演習C		
5 16:20~17:50					

※カリキュラムは2013年度のもので、科目名等は変更になる場合があります。
2年次からは専門科目が増え、建築への興味の高まりにあわせて科目を選択。空間設計演習では、グループごとに複合施設を設計中。デザイン学部には作業ができる教室が用意されているので、同じ目標を持った友人们と机を並べて刺激しあひながら学ぶのが楽しい。



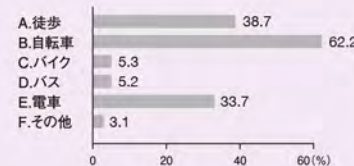
所属学科2年次の親睦会。1年をともに学び韓国へ戻る留学生の送別と、これから留学に出発する友人の激励を兼ねて、皆が集まり盛り上がりしました。互いに刺激しあえる仲間存在は、自身の学びの大きな励みになります。

学生
アンケート

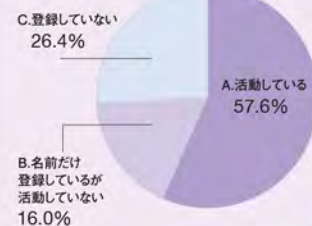
どんな生活をしているのか、気になるところをチェック。学生を対象に実施したアンケート結果を大公開します!
通学手段は? アルバイトは? さまざまな角度からSUAC生のリアルな姿が浮かび上がってきます。

Q1 あなたの主な通学手段は何ですか?

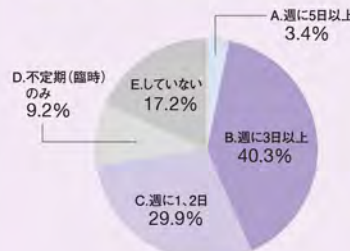
(主なものを2つまで選択)



Q2 現在、クラブ・同好会で活動していますか?



Q3 現在、アルバイトをどの程度していますか?



Q4 将来の進路に向けて現在どのような準備をしていますか?

(主なものを2つまで選択)



設計の授業のプレゼン後、課題を終えた充実感と開放感で笑顔に。グループ内で担当分けして作り上げた複合施設の課題。皆で意見を出し合いひとつの模型を完成させていく共同作業は、難しくもあり、楽しくもありました。

学生の活動紹介

学内にとどまらない多様な活動の実績

学外のコンテストやボランティアへの参加など、授業で学んだことを発展させていく活動機会が多く、有志の学生が様々な活躍しています。目標に向かって進むために、次のステップへと自分を高めるために。自分のやりたいことに積極的に挑戦していける環境が整っていること。それもSUACの魅力です。

ブラジルと日本の架け橋になる交流を。 ポンチプロジェクト

「ポンチ」とはポルトガル語で「橋」のこと、日本とポルトガルの架け橋になりたいと設立したプロジェクトです。日系ブラジル人の宮城さんを中心に20名の学生が参加。

浜松市の中学校やブラジル人学校などで演劇を通じたワークショップを実施し、身体を動かすことで言葉がなくてもわかり合えることを実感してもらいながら理解を深めてきました。一定の役割を果たしてプロジェクトは終了。現在はさらに次のステップを目指した活動を企画中です。



実行委員長の宮城ユキミさん／国際文化学科2年。11才で来日、言葉や文化の違いに苦しんだ自身の経験から、あきらめずに勉強を続けてほしいと教育支援にも取り組んでいます。



身体を動かすことから生まれる交流。演劇を通して偏見や差別をなくしていく活動は後輩たちへ受け継がれ、続けられています。



「互いの違いを個性として認め合える社会になってほしい」多言語の絵本プロジェクトや、ポンチプロジェクトの活動を紹介する展示会も開催しました。



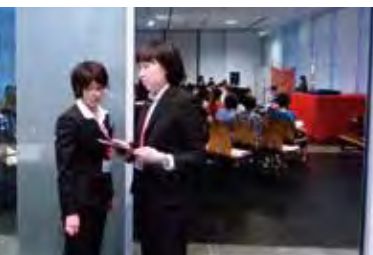
中学生たちに演劇を見てもらうことから始め、参加してもらえるようなワークショップも開催。公民館でも公演して、地域ぐるみの交流も図っています。

桂文治師匠を迎えて、伝統の話芸を楽しむ。 SUAC×落語2013

桂文治師匠を迎えて「SUAC×落語2013」が2013年7月3日、学内ギャラリーにて開催されました。学生や地域の方に日本の文化のひとつである落語に直にふれてもらおうと、2009年に第1回目が行われてから今回で5回目、文治師匠も毎年楽しみにしてくれているそうです。芸術文化学科の有志により運営しています。ガムラン演奏(インドネシアの伝統楽器)や磯田准教授のプレートクも企画し、当日は大盛況。すべてを学生が運営することにも意義があり、後輩たちに受け継いでほしい活動です。



文治師匠は学生相手にも気さくに接してくれます。終演後の反省会は師匠を囲んでワイワイと、会食しながら会話が弾みます。



助成金に頼らずチケットの売上でやりくりすることに挑戦。芸術もビジネスとして成立させたいという思いが強く、真剣に取り組まれました。



常連さんも多く、毎年楽しみにしていただける恒例行事に。約120名の観客の笑いが、ギャラリーに響きました。

ASIA AWARDS学生作品展で多くの作品が入賞。 東京デザイナーズウィーク2013

国際的なクリエイティブイベント「TOKYO DESIGNERS WEEK 2013」。ASIA AWARDS学校作品展にデザイン学部が出展。有志学生29人・6チーム編成で臨みました。今年のテーマはFes。来場者を楽しんでもらえる体験型の作品を展示。審査員の評価も高く、個々に与えられる賞を3つの作品が受賞、そのうち1つはセミグランプリ。団体(学校)を対象とした賞も3つ受賞するなど、好成績を残しました。SUACの名前を広く多くの人に知ってもらえる絶好の機会となりました。



井上さんのグループの作品、光をテーマにしたインスタレーション「そよかけ」。ASIA AWARDS学校作品展入賞。光がふわっと拡散していくような気持ちよさを感覚的に表現。



他大学の生徒と交流できるのも楽しみ。互いに刺激を受けあい、語りあうことで、制作活動へのモチベーションも高まります。



SUACブースには、会期中約14,000人もの人が訪れています。実際に作品を体験してくれた来場者の反応を直接確かめられる、貴重な経験ができました。

ワークショップを経て2014年のポスターデザインが決定。 静岡国際オペラコンクール ポスター作成プロジェクト

静岡県が3年ごとに開催している「静岡国際オペラコンクール」。第7回の開催を2014年11月に控え、開催告知のポスター作成プロジェクトが学内に発足。学生有志14名が参加してワークショップを重ね、それぞれのアイデアをブラッシュアップさせていきました。最終審査の結果、石川さんのデザインが最優秀賞(採用)に決定。完成度が高く、チケットや壁面広告などのデザインバリエーションもしっかりと作り上げられていたことが評価されての受賞です。



プロジェクトは学生たちにオペラを理解してもらうことからスタート。若い世代に親しみやすく受け入れてもらえるデザインであることも大切にしました。



富士山をテーマにオペラをどう表現するか、ラフスケッチを重ねて完成形に近づけていきます。さまざまな色で試作し見え方を検証し、納得のいく作品に。



「良い作品をつくることだけでなく、作品に込めた思いを伝えることも大事に」石川さんはプレゼンテーションでの見せ方も研究発表に臨みました。

大学
周辺マップ

静岡文化芸術大学はJR浜松駅から徒歩15分。
浜松のランドマークであるアクタタワーからも近く、アクセス便利な市街地に建つ
都市型キャンパス。周辺には公園や遊歩道も整備され、
緑も多く、学校や文化施設の集まる文教地区の一画にあります。



文化と産業の融合するまち「はままつ」

❖「音楽のまち」はままつ

楽器メーカーのまちでもある浜松では様々な音楽イベントが開催されます。3年に1度の「静岡国際オペラコンクール」は2014年に第7回を開催予定。ポスター作成などのwith SUACコラボ企画をはじめ、当校でも事前紹介イベントの開催や準備・運営にも携わっています。



❖はままつ冬フェス in machi

街と人をつなぐコミュニケーションイベント。街はイルミネーションに彩られ、華やかに。期間中は週末ごとに各所でイベントを実施。浜松市のものづくりとアートのコラボレーションを楽しむ企画として、「ハママツ・ライト・オブジェコンテスト」も行われ、SUAC生が入賞しています。

❖バイクのふるさと浜松

国産オートバイの発祥の地・浜松で、スズキ、ホンダ、ヤマハなどメーカーの協賛を得て、展示やフォーラム、試乗体験、デモンストレーションが行われます。2013年には同時期に、SUACでも研究者や技術者の団体による「二輪デザイン講座」「プロの仕事講座」が開催されました。



❖浜名湖アート・クラフトフェア

魅力的な地域文化を創設するために産官学の協力のもと、皮革・ガラス・金属・木工など、全国のクラフト工芸作家が300名以上集まり開催された「作り手」と「使い手」の交流のための広場。SUAC生もワークショップで参加し、子どもたちと作品づくりを楽しみました。



❖ハママツ・シネマ・ワークショップ

浜松出身の映画監督木下恵介を記念して行われていたはままつ映画祭が、形をかえて新たにスタート。映画を「創る・観る・知る」イベントとして、表現者と観る者をつなぐ企画を進行中。近年では多くの映画が浜松地区で撮影されていることもあり、映像づくりへの興味が広がっています。



❖はままつ芸術祭

春・夏・秋とそれぞれテーマを替えて行われるイベント。ステージやアートギャラリーだけでなく、ダンスや大道芸、バンド、オーケストラなどがまちじゅうを舞台にして賑やかに盛り上げます。夏には地場産品のゆかた祭り、秋には「フェスタ・サンバ」などと連携し多くの市民が参加しています。

クラブ&サークル

自主活動が盛んな校風を反映して、
クラブ・サークル活動も多種多彩。
学部や学科を超えたコミュニケーションが楽しめます。



Sports

体育系

クラブ&サークル一覧

- 合気道
- 柔道部
- 空手部
- 弓道部
- 卓球部
- サッカー同好会
- 女子フットサル部
- 軟式野球部
- バスケットボール部
- バレーボール部
- バドミントン部
- 硬式テニス部
- バウンドテニス部
- アルティメット部
- ダンス部
- ストリートダンス・サークル
- ヨガ・サークル

Culture

文化系

クラブ&サークル一覧

- 映像部
- 漫画研究会
- 編集部
- 書法倶楽部「彩筆會」
- 着物倶楽部
- 茶道部
- 陶芸部
- BALLOON ARTS
- アクセサリー同好会
- ビジュアルデザインチーム「獣道」
- 建築研究会「ken-ken」
- 演劇部「コーヒーマーカー」
- 地域貢献部「SUACSN」
- 音響照明技術研究会
- 軽音楽部
- ゴスペルサークル
- 吹奏楽部「SUAC Wind Ensemble」
- アートイベント企画サークル
- 教職研究会「教職スクランブル」
- 国際ボランティア「SUAC Habitat For Humanity」
- 和太鼓サークル
- ESS (English Speaking Society)
- ものづくりサークル「MONO」
- りとるあーす (フェアトレードの普及活動)
- SUAC Broadcast Club (放送研究同好会)
- 写真同好会「Tap」
- デザインサークル「Omni」

在校生データ

Data

全国各地から集まる学生。少人数教育と相まってきめ細かい指導を実践。

本学の学生は全国各地から集まっています。また、海外からの留学生の受け入れにも積極的に取り組んでいます。
指導にあたっては少人数制教育を基本に学生へのきめ細かい対応を実現。個々の能力アップに力を注いでいます。



都道府県別出身地 (学部生)

(2014年4月1日現在)

静岡県内はもとより、北は北海道、南は九州・沖縄まで、全国各地から学生が集まっています。



在籍者数

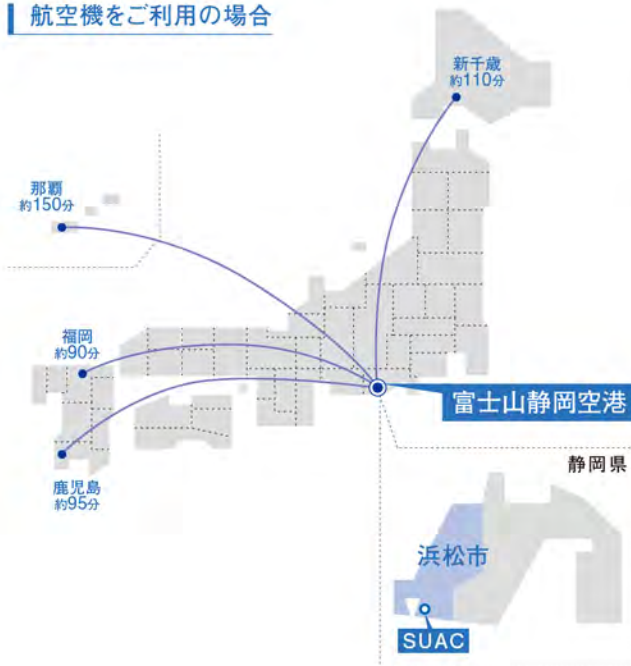
(2014年4月1日現在)

学部	学 科	1年生	2年生	3年生	4年生	全 学
文化政策学部	国際文化	111	116	111	124	462
	文化政策	59	53	56	66	234
	芸術文化	57	56	54	68	235
	学 部 計	227	225	221	258	931
デザイン学部	生産造形	47	44	46	45	182
	メディア造形	35	36	35	44	150
	空間造形	34	37	33	40	144
	学 部 計	116	117	114	129	476
大学院	文化政策	7	9			16
	デザイン	12	13			25
	院 計	19	22			41
総 計		362	364	335	387	1,448

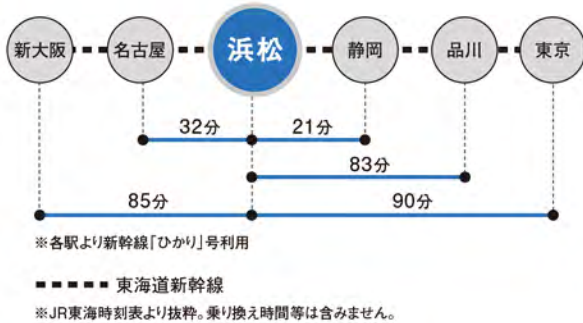
アクセス・お問い合わせ | インフォメーション

アクセスマップ

航空機をご利用の場合



新幹線をご利用の場合



- JR浜松駅より徒歩15分
- 遠州鉄道「遠州病院駅」下車、徒歩8分

浜松駅からバスをご利用の場合

遠鉄バス (10分間隔で運行しています)

浜松駅北口バスターミナル10番のりば
 →バス停「文化芸術大学」下車

※浜松駅北口バスターミナル10番のりばから出ているバスは、「文化芸術大学」バス停を通ります。ただし、系統番号70番「子安・笠井」行きを除きます。

浜松市循環まちバス く・る・る (20分間隔で運行しています)

浜松駅北口バスターミナル 12番のりば「まちなか東ループ」
 →バス停「文化芸大」下車

※ 本学へお越しの際は、公共の交通機関をご利用ください。

お問い合わせ

静岡文化芸術大学

<http://www.suac.ac.jp/>

〒430-8533
 静岡県浜松市中区中央2-1-1

TEL. 053-457-6111 (代表)
 FAX. 053-457-6123

2-1-1 Chuo, Naka-ku, Hamamatsu City 430-8533 JAPAN
 Tel. +81-53-457-6111 Fax. +81-53-457-6123

静岡文化芸術大学 2015 大学案内

第1刷発行/2014年5月30日

発行/公立大学法人 静岡文化芸術大学
 〒430-8533

静岡県浜松市中区中央 2-1-1

企画・制作/株式会社 ビーエーシー





公立大学法人

静岡文化芸術大学

SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE

Faculty of Cultural Policy and Management/Faculty of Design

<http://www.suac.ac.jp/>